

福島市民憲章作文コンクール（中学生の部）

作品集の発刊に寄せて

「福島市民憲章作文コンクール（中学生の部）」は、市民憲章の普及・啓発のため中学一年生を対象に実施しており、十七回目の開催となる今回は、市内十九校から作文コンクール開催以来最多数となる百五十五点の応募をいただきました。

ご応募いただいた生徒の皆さんに御礼を申し上げますとともに、本コンクールを通して、市民憲章の精神がさらに多くの皆さんに浸透される機会となるようお願いしております。

全作品を拝読いたしました。市民憲章の理念を良く理解し、若々しい感性と鋭い感受性を駆使して日頃の生活の中で「気づいたこと」や「考えていること」を率直に文章に表している作品が多く見受けられ、その一つひとつの作品の中から、福島市の「人・自然・歴史・文化」を愛し、自信と誇りをもって生活していこうとする中学生の息づかいが感じられました。

また、新型コロナウイルス感染症防止策として、三密を避ける生活様式が強いられている状況においても、家族や友人、地域の人々との関わりの中で、自他を見つめ視野を広げながら、福島未来を切り拓こうとしている姿をとて頼もしく感じました。

同世代の中学生の皆さんをはじめ、ぜひ大人の方々にも読んでいただきたい内容です。

福島市民憲章は、市民全ての幸せと、郷土福島の限らない発展を願いながら、快適で明るく住みよいまちづくりを進めるためのよりどころとして、昭和四十八年に制定され、令和五年には憲章制定から五十年を迎えます。今後とも、様々な普及・啓発活動を通して市民憲章の意義を一人でも多くの市民の皆さま方に理解していただき、「住んでよかつたと、心から思える福島市」の実現を目指していきます。ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

結びに、本コンクールの開催にあたり、各学校で作文指導にあたっていただきました先生方をはじめ関係各位に対しまして、心より御礼を申し上げます。

令和四年一月

福島市民憲章推進協議会会長

山 本 和 宏

人情の美しいまち

「福島市には心の温かい人がたくさんいるのだろう。素晴らしい自然と人々に囲まれた福島市。キラキラと輝いている」これは、たくさんの中学生に応募いただいた「福島市民憲章作文コンクール」の作品の一節です。各学校より応募いただいた中学生の皆さんに感謝いたします。

皆さんの作品を読ませていただいたところ、あるキーワードが浮かんできました。それは、「心の温かさ」「親切」「愛情」「思いやり」です。

中学生の皆さんが、これらのキーワードから、自分たちが暮らし、成長する場所である福島市を捉えていることがわかりました。同時に、そのような文章を書くことができる皆さんには、四つのことが備わっていることにも気付かされました。

皆さんは、自分たちが暮らす福島市が、どんなところであることを望んでいるでしょうか。人が生きていく上で大切なことは何でしょうか。皆さんの文章を読んでいると、そのことが見えてきます。福島市のゴミの排出量を減らしたい、自然豊かな福島市を守りたい、安全で健康な福島市にしたい、きまりを守り楽しく働ける福島市であってほしいなどの願いや思いが、それぞれの文章から溢れていました。どの作品も、中学生らしい瑞々しい感性に裏打ちされた内容になっていました。

作品を読んでいると、何か土台となる最も大切なものがあることがわかってきました。それが、親切で愛情あふれる福島市です。中学生の皆さんは、これを大切に考えていることが伝わってきました。

作品の中には、次のような記述があります。

「親切」や「愛情」の循環が、福島市全体で起これば、より住みやすく、より魅力的な町になっていくと思います。

中でも、私が、一番良いと思ったところは、人の心の温かさ、親切さである。この町、福島は、心温まる素晴らしい町だ。

マスクをつけていても心と心はつながり、「親切で愛情」があふれる福島にしていきたい。

どの表現にも、福島市のよさを認め、まちの未来像を描き、自らが行動していくという若者の意志が感じられます。私たちのまち福島市のこれからの託すに値する人材として、力強く成長してくれることを願わずにはられません。

改めて「福島市民憲章」をじっくり読んでみたところ、「人情の美しいまち」という言葉を見つけました。「人情」とは、人が自然に備えている思いやりや優しさのことです。それが「美しい」というのです。それが、私たちのまち、福島市です。

中学生の皆さん、これからも書くことで考えてください。自分たちのまち、福島市のことを考えてください。そして、どこに行っても「福島自慢」のできる人になってください。

令和四年一月

福島市民憲章推進協議会委員

福島地区中学校長会 福島市立野田中学校長

高 澤 正 男

目次

◇金賞

輝く福島の内面を磨く

福島大学附属中学校

齋藤優衣……………1

◇銀賞

その言葉でみんなを笑顔に
人の温かさが福をつくる福島

福島市立北信中学校
福島市立西信中学校

矢吹実穂 西山蘭……………2
……………3

◇銅賞

親切の循環で魅力的な町に
心と心がつながるために
美しい福島にするために

福島市立岳陽中学校
福島市立信夫中学校
福島市立野田中学校

川井美希 佐藤奏美 山岸心春……………4
……………5
……………6

◇佳作

『親切で愛情あふれるまち』を目指して
美しい福島の空と緑
つなげていきたい思いやり
福島市民の温かさ
愛情の輪
私たちがつくる福島市
親切でいっぱい福島市にするために
この大自然・人々に感謝の心を
みんなが親切に
たった一言でも変わった重要さ

福島市立岳陽中学校
福島市立蓬萊中学校
福島市立信陵中学校
福島市立信陵中学校
福島市立信陵中学校
福島市立北信中学校
福島市立信夫中学校
福島市立信夫中学校
福島市立野田中学校
福島市立野田中学校

菅原悠愛 柳優人 佐久間陽菜 荒井柊人 矢吹美緒 佐々木心 小田桐結 菅野翔叶 石橋心優 加納沙菜……………7
……………8
……………9
……………10
……………11
……………12
……………13
……………14
……………15
……………16

自然も心もきれいな福島
 よりよい町へ
 協力の先の笑顔福島
 ももりんシェアサイクルを利用して

福島市立野田中学校 西戸光彩
 福島市立飯野中学校 菅野結愛
 福島成蹊中学校 荒明澄伶
 福島成蹊中学校 栗木花野

親切で優しいまち

福島市立福島第一中学校 黒澤穂

大好きな福島を守るために

福島市立福島第一中学校 赤井利穂

きれいな福島へ

福島市立福島第一中学校 亀山遥萌

福島の健康なまちづくり

福島市立福島第一中学校 村上彩華

私の大好きな福島

福島市立福島第一中学校 室本柚妃

福島のよさ

福島市立福島第一中学校 柏木萌音

福島のたくさんの魅力

福島市立福島第一中学校 菅野愛実

元気な福島にするために

福島市立福島第一中学校 齋藤由奈

福島の魅力と愛情

福島市立福島第一中学校 竹原彩華

福島の水が美しいわけ

福島市立福島第一中学校 山口彩樹

福島市について考えて

福島市立福島第二中学校 五十嵐彩葉

よりよい福島市をつくるために

福島市立福島第二中学校 小林美月

ごみを減らすために

福島市立福島第二中学校 緑川浩輝

福島に生まれて

福島市立福島第二中学校 森口遥香

広がっていくあいさつと親切

福島市立福島第二中学校 菅野幹人

市民憲章作文

福島市立福島第二中学校 佐久間ここな

新しい福島市をつくるために

福島市立福島第二中学校 佐藤基理

福島の『宝』を守りたい

福島市立福島第二中学校 鹿野実那子

親切で愛情あふれるまちづくりへ

福島市立福島第二中学校 鈴木心海

暮らしやすい町にするために…
 空も水もきれいな福島市
 全ての子供達に公平な教育を
 このご時世の中で豊かな緑を
 もっと楽しい福島に
 私の大好きな福島 of 自然
 福島市のあいさつとは
 町の一員として
 いつでも心は密であるように
 私にとつての大きな一歩
 知るところから、始めよう
 『森林減少』を止めるには
 きれいな福島のまち
 水がきれいな荒川
 美しい自然のある福島へ
 緑豊かな福島 of 自然
 みんなが快適に過ごせる福島に
 密にならないように
 福島 of 美しい自然
 私が知る福島市
 自然を愛し大切に…
 緑豊かな町をみんなで作ろう！
 福島 of 明るい未来のために
 笑顔あふれる福島市にしよう！

福島市立福島第二中学校	武田明香里	40
福島市立福島第四中学校	青山夏生	41
福島市立福島第四中学校	植田瑞己	42
福島市立福島第四中学校	石田智久	43
福島市立福島第四中学校	二階堂昊	44
福島市立福島第四中学校	大河内心晴	45
福島市立福島第四中学校	菅野結愛	46
福島市立福島第四中学校	清野碧	47
福島市立福島第四中学校	橋本芽依	48
福島市立福島第四中学校	芝宮心都	49
福島市立福島第四中学校	渡邊藍	50
福島市立岳陽中学校	逸見真央	51
福島市立岳陽中学校	安斉結衣	52
福島市立岳陽中学校	鵜川琴白	53
福島市立岳陽中学校	薄川琴白	54
福島市立岳陽中学校	佐藤未彩希	55
福島市立岳陽中学校	宮崎湖羽	56
福島市立岳陽中学校	丹治芯太	57
福島市立岳陽中学校	渡辺夏帆	58
福島市立渡利中学校	佐藤真仲	59
福島市立渡利中学校	高野優大	60
福島市立渡利中学校	前田琉聖奈	61
福島市立渡利中学校	岡崎純弥	62
福島市立渡利中学校	齋藤幸奈	63

阿武隈川をもっときれいに
 自分達の文化を知るために
 福島をよりよくするために
 優しい心、親切な心
 『福島市民憲章』を見て自分ができること
 福島市の『未来』へ続く道
 一人一人親切に
 親切で愛情あふれるまちをつくろう
 みんなが幸せでいられるように
 みどり豊かな福島市へ
 家族の健康とコロナについて
 自然あふれる福島のために
 親切な町づくり
 みんなの心はつながっている
 福島の為、未来の為、今できること
 空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう
 福島市民憲章について
 ごみのないキレイな町にするために
 『親切』について思うこと
 福島市民憲章について思ったこと
 自然豊かな『福』のまち
 親切で愛情あふれるまちをつくりましょう
 親切で愛情あふれるまちづくり
 すばらしい『みどりのまち』へ

福島市立渡利中学校	本	田	美	87
福島市立渡利中学校	山	口	羽	86
福島市立渡利中学校	大	宮	人	85
福島市立渡利中学校	関	美	禾	84
福島市立渡利中学校	吉	ほ	の	83
福島市立渡利中学校	旭	真	結	82
福島市立蓬萊中学校	佐	藤	漣	81
福島市立蓬萊中学校	高	光	希	80
福島市立蓬萊中学校	佐	真	翔	79
福島市立蓬萊中学校	樋	未	菜	78
福島市立蓬萊中学校	茨	瑛	介	77
福島市立蓬萊中学校	齋	忠	寿	76
福島市立蓬萊中学校	星	琉	衣	75
福島市立蓬萊中学校	湊	希	生	74
福島市立清水中学校	宮	凜	人	73
福島市立清水中学校	山	野	呼	72
福島市立清水中学校	清	野	人	71
福島市立清水中学校	山	田	佳	70
福島市立清水中学校	大	波	奈	69
福島市立清水中学校	鈴	木	音	68
福島市立清水中学校	佐	花	梨	67
福島市立信陵中学校	菅	陽	太	66
福島市立信陵中学校	佐	優	太	65
福島市立信陵中学校	小	一	花	64
福島市立北信中学校	猪	美	穂	87
	狩	実	穂	86
		愛	穂	85
		美	花	84
		一	太	83
		優	陽	82
		太	花	81
		菅	陽	80
		佐	優	79
		小	一	78
		猪	美	77
		狩	実	76
			穂	75
			穂	74
			美	73
			穂	72
			穂	71
			美	70
			穂	69
			穂	68
			美	67
			穂	66
			穂	65
			美	64

今の私にできること
 緑を守るために
 安全な町——私の思い——
 少しでも自分ができることを
 生涯をかけてやりたいこと
 自分達でもできる協力
 福島をもっときれいな町に
 あたたかい僕らの町
 空も水もきれいなみどりのまち
 身近なところからきれいにしよう
 今の福島を作り上げている見守り隊
 祖父の野菜
 きれいな環境きれいな水
 飯坂町の宝物
 人とのふれあい
 空も水もきれいなみどりのまち
 福島の自然を守り続けるために
 きれいな福島市をつくるために
 自然を大切に
 事故から身を守るには…
 親切で愛情あふれるまち
 安全なまちをつくるために
 きれいな町・すこしやさしい町にするために
 ゴミのポイ捨てについて

福島市立北信中学校	野口	きらら	88
福島市立北信中学校	荒木	夢凜	89
福島市立北信中学校	森山	夢羽	90
福島市立北信中学校	高橋	結愛	91
福島市立北信中学校	鈴木	紅葉	92
福島市立北信中学校	黒羽	唯元	93
福島市立北信中学校	田中	大耀	94
福島市立西信中学校	加藤	要	95
福島市立西信中学校	轡田	ほのか	96
福島市立西信中学校	佐藤	勇瑠	97
福島市立西信中学校	村上	大晟	98
福島市立西信中学校	佐々木	惺哉	99
福島市立大鳥中学校	安藤	美琴	100
福島市立大鳥中学校	大西	慧一	101
福島市立大鳥中学校	斎藤	南未	102
福島市立大鳥中学校	佐々木	梨乃	103
福島市立大鳥中学校	扇田	達也	104
福島市立大鳥中学校	紺野	葵	105
福島市立大鳥中学校	佐藤	空	106
福島市立大鳥中学校	穴戸	美璃	107
福島市立大鳥中学校	高橋	来咲	108
福島市立大鳥中学校	安田	宙蓮	109
福島市立西根中学校	木村	宙奈	110
福島市立西根中学校	佐藤	希光	111

福島市民憲章に対する現実
 親切で愛情あふれるまち
 安心安全な町
 町の環境について
 福島市民憲章
 福島市民憲章を知って
 親切で愛がある福島をつくるために
 笑顔あふれる福島のみち
 福島市民憲章について
 ゴミを減らすために私にできること
 愛情に支えられているわたし
 よりよい福島市にするために
 安全で健康なまちへ
 福島市の自然
 感謝の言葉
 私の周りにいる素敵な人たち
 福島市が健康で安全なまち
 ゴミとこれからの福島市
 マスクの中の笑顔
 笑顔と希望
 モーニングルーティーンと改善
 活気のある町
 あいさつと礼儀
 数々のプロフェッショナルたち

福島市立西根中学校	佐藤	真陽留	112
福島市立西根中学校	菱沼	未空	113
福島市立西根中学校	星碧	翔	114
福島市立信夫中学校	横山	陽紀	115
福島市立信夫中学校	佐藤	菜月	116
福島市立信夫中学校	大和田	幹	117
福島市立信夫中学校	安齋	弥紗	118
福島市立信夫中学校	听齋	嬉花	119
福島市立信夫中学校	渡邊	登巴	120
福島市立信夫中学校	岩崎	真奈未	121
福島市立信夫中学校	山下	花凛	122
福島市立野田中学校	山田	えみる	123
福島市立野田中学校	佐藤	玲輔	124
福島市立野田中学校	藤井	優菜	125
福島市立野田中学校	玉城	未羽	126
福島市立野田中学校	内藤	莉乃	127
福島市立野田中学校	亀岡	美波	128
福島市立吾妻中学校	紺野	夢生	129
福島市立吾妻中学校	角張	向日葵	130
福島市立吾妻中学校	後藤	絆希	131
福島市立吾妻中学校	佐々木	優奈	132
福島市立吾妻中学校	峯	千尋	133
福島市立吾妻中学校	金澤	怜愛	134
福島市立吾妻中学校	小坂	太陽	135

金賞

「輝く福島の内面を磨く」

福島大学附属中学校

齋藤 優衣

福島市の中心部に佇む信夫山。常に刻々と変化してゆく情勢の中、毎日変わらない場所にあるその姿を見ると安心する。季節に応じ見せる様々な表情に魅了されるばかりだ。

学校への登校時。この時間は私にとって魔法のようで、たった数十分にも関わらず、気分が下がっている時も、学校に着く頃には必ず気分が上がっている。それは人々の温かさのおかげだ。「おはようございます」の一瞬の会話で、なぜか心がほっこりする。今日は登校時、何人の人と挨拶を交わしただろうか。ふと思いつき考えてみると、近所の方、見守り隊の方、友達……。数えきれない程の人と挨拶を交わしていることに気が付いた。それだけ福島市には心の温かい人がたくさんいるのだろう。素晴らしい自然と人々に囲まれた福島市。キラキラと輝

いている。

そんな福島市内を歩いていると、福島市民憲章と書かれた看板が目に入った。五つの呼びかけの文章を一通り読んでみる。「今の福島市そのものではないか」というのが初めに持った感想だ。しかし、辺りを見渡すと、まだ課題があるようだ。歩道にゴミが落ちていたのだ。その瞬間私は過去に、停車中の車に乗った人が路上にためらいもなくゴミを捨てている場面を目撃したことを思い出した。これでは市民憲章にある「空も水もきれいなみどりのまち」とはいえない。

福島市のゴミについて興味を持ち、帰宅後に調べると、福島市のゴミの排出量が並外れた量である事実を知った。このままでは環境が悪くなる一方だ。これにより、ゴミの減量をしなければとの思いが生まれ、行動を起こすことにした。

まず、現状を理解するために、自分が一日に排出している燃えるゴミの量を量った。結果は八百五十グラム。これを基準に考えると、一週間に六キログラム、一か月間に二十五・五キログラム、一年間で

三百十キログラム程のゴミを一人で排出することになる。「環境のために」と、その日からゴミ減量に努めた。すると一週間後には、一日の燃えるゴミの排出量を、前の週よりも二百グラム少ない六百五十グラムまでにも減らすことができた。私のゴミの主たる物であった紙類を大切に使用したことが一番の要因だと考えられる。具体的に、汚れを拭き取る際に布の台拭きを活用したり、紙ゴミのリサイクル回収を利用したりといった取り組みを行った。このような取り組みを更に広め、市民のゴミの減量の意識を高めるために、まずはゴミの減量の重要性を身近な人に伝えようと思う。

市民憲章にある言葉が本当の意味で現実になるよう、自ら行動することで地域に貢献したい。輝く福島の内面を磨き、より良い社会、そして未来を市民全員で作りに上げてゆくために。

銀賞

「その言葉でみんなを笑顔に」

福島市立北信中学校

矢吹 蘭

「行つてらっしゃい。頑張つてね。」

朝、自転車で登校している時に、偶然すれ違ったおじいさんが声をかけてくれた。当時私は、吹奏楽部の県大会に向けて急きょステージに上がることになり、朝から少し不安な気持ちでいた。そのおじいさんは農家の方で、とても笑顔で私に応援の声をかけてくれた。私は自然と心が明るくなって「頑張ろう」という気持ちになつていった。

〃親切で愛情あふれるまち〃人に親切にするのは当たり前の事だが、案外知らない人やお年よりの方にそう接するのは難しい。でも、朝声をかけてくれたあのおじいさんのように、人から親切にされると、とても嬉しくなる。「親切」というのは行動だけでしか表せないと思つていたけれど、言葉でも表せるのなら、自分も、より多

くの人に親切にできる機会があるかもしれないと思つた。きちんと相手の目を見てあいさつをしたり、会釈をしたりするだけでも、自然と相手の人の心は温まっていくなと思う。私は、この作文を書くまで、自分の住んでいる大好きな地域に「福島市民憲章」というものがあることを知らなかった。その中の一つにある〃親切で愛情あふれるまち〃では、進んで実行していく勇気が無くても、自分のまわりにいる人達が親切にしてくれたら、その相手の親切さに気付けたりすれば、自然と自分も実行することができるかもしれない。それを多くの人が少しずつ積み重ねていけば、後に得られるものはとても大きなものになると思う。

自分の住んでいる地域だからこそ、より良くするためにはどうすればいいのか、自分達にできることはないか、そう考えたときに思うのは、まず人との関わりを深め、絆をつくり、信頼しあえる仲間をつくることだと思ふ。そして、時にみんなで声をかけあって進んでいくことも、これから必要になつてくるのではないだろうか。

今思えば、あの時声をかけてくれたおじ

いさんは、ただすれ違ったからではなく、私のマスク越しに見える少し不安そうな顔を見て応援してくれたのだろうか。たとえおじいさんがそのつもりでなくても、その一言で私は前向きな気持ちになれた。そんな声を私もたくさんの人にかけてあげられるよう、生きていきたい。

銀賞

「人の温かさが福をつくる福島」

福島市立西信中学校

西山実穂

福島市は、特産物である桃がとてもおいしかったり、自然が豊かだったりしてたくさんの良い所がある町だ。中でも、私が、一番良いと思った所は、人の心の温かさが親切さである。

七月二十二日に私たちの身近にあるあづま球場でオリンピックのソフトボールのカナダ対アメリカの試合が行われた。試合後の記者会見で、アメリカの監督が、

「桃はデリシヤスだった。」

と県産の桃を絶賛したり、

「福島の人々は素晴らしい運営をしてくれた。ファーストクラスの対応だ。」

とねぎらったりして球場の芝の状態などを評価した。そして、

「とても美しい町で山々が印象的。」

と福島の良い景色を気に入ってもらえた。福島市は、十年前に東日本大震災で被

害を受けていて、放射性物質などの影響で、差別や偏見があったから、魅力がアピールする機会がなかったが、オリンピックのおかげで福島の魅力が、国内だけでなく、海外にまで広められた。そのうえ、このようなことも話した。

「まるで王様と女王様のようなていねいな扱いをしてもらった。」

ここから、福島の人々は、親切であることも間接的に伝えてもらった。

三年前に私の地元である土湯に、ソフトボールの日本代表の選手が強化合宿で訪れた。その時、地元の方々は、選手にたくさんのおもてなしをしていた。ここでも、福島の人々の親切さを感じることができる。自分の地元がたくさん選手が来たことは嬉しかった。しかし、地元の人々の心の温かさを改めて知ったことはもっと嬉しかった。

今回のオリンピックのソフトボールが、福島で行われると決定したとき、ソフトボール日本代表の上野由岐子選手は、

「福島からもらったパワーをプレーに変えて、自分の思いを福島に置いていこう。」
そう誓った。これを知った時、上野選手は、

私の大好きな福島に思いを置いていってくれるんだと知ってとても励まされた。

福島のこれまでのおもてなしや親切さがあつて福島の良い所がオリンピックを通して伝わったのならやっぱり福島は「福」のあふれる所だと思う。加えて、市内で行われた試合が金メダルへの良いスタートになったのだと感じとれるから、私は幸せだ。
この町、福島は、心温まる素晴らしい町だ。

銅賞

「親切の循環で魅力的な町に」

福島市立岳陽中学校

川井美希

『親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。』この福島市民憲章を目にしたとき、普段は気にとめることのないささいなことでも、思い返すと「親切」や「愛情」の気持ちからの行動だったんだ、と気づかされました。

例えば、お店で両手に買い物袋を下げて、エレベーターのボタンを押そうとしたときに、近くにいた人が

「ボタン押しましょうか。」

と声をかけてもらい助かったことや、妹がころんでしまったときに、見ていた人たちが心配そうにかけ寄って来てくれたことなどです。こういう時が、「親切」や「愛情」の気持ちから表れた行動なのだと思います。

中学生になって、登下校の距離も長くなり、重いカバンを背負って歩く帰り道は大

変です。その日は、特に日差しが強く、いつもよりも重い足取りで歩いていると、遠くにエメラルドグリーン色のランドセルが見えました。(もしかして) と思い、早足で近づいてみると、やっぱり友達の子でした。小学二年生で体も小さく、ランドセルに体が隠れてしまいそうです。その上、両手いっぱい荷物を持って一步一步あるいています。(私でもこんなに大変なのに) そう思うと、すぐに声をかけて荷物を持ってあげていました。両手があいた彼女は笑顔で

「今日暑いからさあ、これ日がさだよ。」
そう言っ、開いた折りたたみかざの中に
入れてくれました。家の前まで送り届ける
と、

「ありがとう。気をつけて帰ってね。」
と言っ、見送ってくれました。その後
は、自分でも不思議なくらい足取りが軽く、
清々しい気持ちで家へ帰りました。

自然な気持ちでした行動は、私が小さい
時に受け取った親切な行為と同じものだった
のだと思います。親切にされた人もうれ
しい気持ちになるし、親切にした人も目に

見えない何かを受け取ることができません。
このような「親切」や「愛情」の循環が、
福島市全体で起これば、より住みやすく、
より魅力的な町になっていくと思います。
そのために、これからも、自分のことだ
けではなく、周囲の人に気を配ったり、困っ
てる人がいたら勇気を出して声をかけ、助
けが必要か聞いてみるなどしていこうと思
います。同じような人が増えたら、町全体
が優しくなっ、ここで暮らしたいとい
う人も増え、町の発展につながっていくと思
います。

銅賞

「心と心がつながるために」

福島市立信夫中学校

佐藤 奏美

「親切で愛情あふれるまち」については、ほっこりとする出来事があった。

それは、学校へ自転車で登下校している時だった。私が渡ろうとしていた道路は横断歩道がなく、車通りも多かったためここを渡るのは無理かなとあきらめていたそのときだった。車が止まってくれたのだ。私は、あわてて自転車を押し、道路を渡った。その際、私は運転手に向かってお辞儀をした。そして、運転手は少しにこっとほほえんでお辞儀をした。私は、単純に道をゆずってくれたことはいれなかったが、それ以上に運転手の心の暖かさが伝わり私も、心地よかった。他にも、このような経験がある。横断歩道や道路を渡る時も、運転手の人は親切に止まってくれてしかもお先にどうぞと手で合図をし、道をゆずってくれたこともあった。それはまるで、マスクを

していても運転手と私の心がつながったようだった。

親切と愛情について考えた時、意外にもすぐそばにあるものだと思う。登下校の時、見守り隊の方々が私たちが安全に登校できるようにしてくださること、朝すれ違った時も「おはよう」と一言声をかけてくれる人それも、親切と愛情から成り立っていることだと思う。だが、親切にしたりするのは簡単ではない。人が困っているから手助けしてあげようという暖かい心がないと出来ない、でも私の周りには、親切にしてくれる人がたくさん居る。だから、福島は愛情があふれ、自慢したいほど誇りな場所だと思う。

そして、私も「親切で愛情あふれるまち」にするためにできることを考えた。一つは、困っている人がいたら助けること。それは、けがをしていたらばんそうこうをあげることや、具合が悪そうな人がいたら「大丈夫？」と一言声をかけることなど、私でも身近にできる人を助けられることだ。二つは、学校など先輩に「こんにちは」とあいさつをすること。そして、親切な行動をさ

れたらしっかり感謝の気持ちを書くことも心がけていきたい。マスクをしていても心と心はつながると思ってる。

私は、今まであまり気にしていなかったが、やさしさはすぐそばで身近にあるものだと改めて気づかされた。そして、私も「親切で愛情あふれるまち」にするために困っている人がいたら助けること、あいさつをすることを心がけたい。マスクをつけていても心と心はつながり「親切で愛情」があふれる福島にしていきたいと思っ

銅賞

「美しい福島にするために」

福島市立野田中学校

山岸 心 春

私は「空も水もきれいなみどりのまち」という言葉を聞いて福島市もそうなったら、とてもきれいでみんながいいところだと思えます。でも最近そういう姿に近づいているのではないかと思うことがありました。

一つ目は、私が登校している時です。歩道のすみの方におかしのごみが落ちていました。その時に一緒にいた年上の先輩がそれを進んで拾っていました。私は目には見えていましたが進んで拾うことはできませんでした。まちをきれいにして環境を守っていくというのは、ほんのささいなことでも役立つのだと知った瞬間でした。それから私は、落ちているものがあつたら進んで拾うように心がけています。何かの役に立つととてもうれしいし、すっきりするので続けていきたいと思いました。

二つ目は、ごみでいっぱいになった小さな川をそうじしていたおじいさんを見た時です。その川は私も前から少し気になっていました。毎日そこを通ると何だか少し汚いなと思っていてきれいになったらすごく気持ちが良いのと感じていました。そして、ある大雨の次の日、おじいさんが川につまっていた草などを川に入ってそうじしているのを見かけました。私はその人を見てとてもすばらしい人だと思いました。いつか私も自然を守るようなことをしてみたいと思いました。そうして私は地域のごみ拾いなどに参加してみました。少しの場所なのにごみ袋三ふくろ分ほどのたくさんのごみがありました。ごみ拾いが終わるととてもすっきりしたし楽しかったです。このような活動が本当に環境を守るのにつながるのだと実際にやってみて実感することができました。

私は福島市がもっともつと美しい空や水、みどりになっていくように少しのことでも役立たないと思わず、いろいろなことに取り組んでいきたいと思えます。いつか、きれいな空、水、みどりの福島市が私の自

慢の場所だと言えるように今のこの環境をずっと守っていききたいです。一人一人が環境に気を配り、たとえほんの少しでも福島のために何かをやれば、さらに福島はすてきなところになると思えます。未来の美しい福島をつくっていくために環境を大切に続けていきたいです。

佳作

「『親切で愛情あふれるまち』を

目指して」

福島市立岳陽中学校

菅原 悠愛

私は福島市を「親切で愛情あふれるまち」にしたいです。そう思ったのは、同級生のある行動を知ったからです。

「二年生の男子二名がたくさんの荷物を持っていたおばあさんに声をかけて、荷物を持つのを手伝ってくれたようです。おばあさんからお礼の電話がありました。」という校内放送がありました。私は自分から困っている人に声をかけたり、手伝ったりした事ありません。もし、そのような人が自分の目の前にいても彼らのように声をかけることは勇気がなく、出来ないと思います。

でも、彼らのような人がこの町に増えたら、親切で愛情あふれる良い町になると思います。どうしたら親切な人が増えるのか考えた時、まずは自分から変わる事が必要

だと気付きました。

今までの自分の行動を振り返ってみると、身近な家族に対して、優しく出来ない事に気付きました。例えば、妹が宿題で悩んでいる時に自ら教えてあげる事が出来なかったり、母がいそがしくしている時に自ら声をかけて進んで手伝いをする事が出来ていませんでした。身近な家族に優しくする事は今すぐに実行出来るので、これからは進んで手助け出来るように意識して生活していきたいと思います。

また、登下校時の地域の方々へのあいさつや、地域のごみ拾い、ボランティア活動などに積極的に参加するなどして、家族以外の人に声をかける事に慣れていきたいと思えます。そうすれば、地域の方々の交流も出来て、いざという時に自然と声をかけ、行動出来るようになると思います。

そして、地域のごみ拾いなどの活動は福島市民憲章の「空も水もきれいなみどりのまち」づくりにもつながります。また、通学路や道端、普段使わない道などでもごみが落ちていないか気を付け、進んでごみを拾う事で、「空も水もきれいなみどりのま

ち」に一歩近づくと思えます。

今は、新型コロナウイルスの影響で交流が制限されていますが、まずは自分から、そして小さな活動での交流から親切が地域へと広がり、どんどん大きく広がってけば福島市は「親切で愛情あふれるまち」になつていくと思います。

佳作

「美しい福島のと緑」

福島市立蓬萊中学校

柳 優人

「福島のと緑はともきれいだねえ。」

大阪に住んでいる私の祖母は言う。

僕が幼い頃、大阪に住んでいる父方の祖母は、時々福島を訪ねてきていた。するといつも決まって祖母は散歩に出かけ、思いきり深呼吸をする。

「空気がおいしい。」

幼い僕は、祖母はおもしろいことを言うなあ、と思っていた。

東日本大震災のあった年、大阪の祖父母の家に避難していた時があったと母から聞いた。周りに緑がとも少なく、建物に囲まれた場所から、福島に戻ってきた時母は、

「私は福島が大好きだ。」

と、心から思ったと教えてくれた。

「福島の空がきれいだったっていうのは本当だよ。大阪の空はこんなに青くなかった。」と母は言った。

「でも昔はもつときれいだったはず。お母さんが小さい頃、ホテルがたくさんいたけど今はいないでしょう。」

母は近所の田んぼに、祖父とよくホテルを見に行ったそう。

僕は実際にホテルを見たことがない。調べてみると、ホテルは「きれいな水のある所でしか生息できない」とあった。今、この辺りでホテルが見られないということは、母が言うように、昔より空気や水が汚れている、ということだ。

社会科の授業で、残念なことに福島市のごみの排出量は、全国平均でみるととても多いということを学んだ。ごみの焼却では二酸化炭素が排出されるため、空気を汚す原因になる。世界で見れば、二酸化炭素は地球温暖化の原因だ。

学習してからごみの分別など、できることをやっていたが、もつと意識して、ごみを減らすよう努力してみよう。美しい福島の自然の中に住む僕たち市民が、たくさんのごみを出しているなんて変だ。

僕たちは、福島の美しい自然の恵みをたくさん受けている。花見山のきれいな桜、

おいしいお米、くだもの…、その恵みをあたり前のものだと思う、これから先、僕たちが住んでいく福島の自然を大切に、祖母や母が好きな、空と緑がきれいな福島を守っていききたい。そしてまた、

「福島の空と緑はともきれいだねえ。」と、祖母に言ってもらえるように。

佳作

「つなげていきたい思いやり」

福島市立信陵中学校

佐久間 陽 菜

私はこの作文を書くにあたり、初めて「福島市民憲章」について知った。その中の「親切で愛情あふれるまち」という項目に目が留まった。

小学生の頃、私の家から学校まではかなりの距離があった。一年生の頃の私にとつて、重いランドセルを背負って長い距離を歩くのは大変だった。だが、毎朝地域の見守り隊のおじさんやおばさんが元気に、

「おはよう。今日は暑いね。いってらっしゃい。がんばってね。」

と笑顔であいさつをしてくれた。私のその元気なあいさつのおかげで、「今日もがんばろう。」と勇気と元気をもらった。

また、六年生になって数か月後のある日、こんなことがあった。私の友達が通学班の班旗を側溝に落としてしまった。困っていると近くにいたおじさんが

「どうしたんだい？」

と声をかけてくれて、自分の家からはさんでつかめる棒を持ってきてくれた。そして、何十分もかけて取り出してくれた。私達はおじさんに申し訳ない気持ちになった。それと同時に、困っていた私達に対し、こんなにも一生懸命になって助けてくれたことに、感謝の気持ちでいっぱいになり、心が温かくなった。

これらの経験から、「親切で愛情あふれるまち」をつくるには、一人一人があいさつを元気に交わしたり、困っている人がいたら、自分から進んで

「どうしたのですか。大丈夫ですか。」と声をかけることが大切だと思う。

私はこれから、もっとよりよい福島市をつくるために、あいさつや、声かけから始めたい。今までは、夏祭り、除草作業、いも煮会、スポーツイベントなど、地域の人と交流をもてる機会がたくさんあったが、新型コロナウイルスの影響により、そのような機会がもてなくなってしまう。自分達が今までしてもらっていたことを次の世代へとつなげていきたい。今はできな

くても、そういう気持ちをもって、一人一人が安心して暮らせる、「愛情あふれるまちづくり」に自らも進んで取り組んでいきたい。また、これから少子高齢化は加速していくだろう。私達若者が積極的にご年輩の方々に働きかけたり、交流がもてる機会を作ったりして、元気で活気ある福島市にしていきたい。

佳作

「福島市民の温かさ」

福島市立信陵中学校

荒井 柊 人

小学校を卒業してから数日。僕は福島県に引越して来た。他県から来た僕だからこそこの地域の人について気づいたことが何点がある。

真っ先に気づいたことは、僕が通ると皆、一度作業をやめてこちらを見てあいさつをしてくれるということだ。これは僕が福島県に来て良かったと思う理由の一つだ。そうするとこちらもその人の目を見て気持ちよくあいさつを返すことができる。もちろん僕が前にいた県でもそういうこともあったが、この地域では毎日のように気持ちの良いあいさつがもらえる。これはなかなかできることではない。皆が皆自分の作業を中断してまであいさつをしようとは思わないだろう。

また、それは大人やお年寄りの人に限った話ではない。学校が早く終わった日、下

校の際に小学生が横を通っていった。二年生くらいだろうか。その子は、僕に向かって大きな声で「こんにちは」と言った。僕は少し驚いた。今まで小学生にあいさつをされるような経験がなかったからだ。今思い返してもとても気持ちの良いあいさつだった。小学校低学年でもこれほど良いあいさつをできるように教えられているのだ。自分の中で低学年のあいさつのイメージが覆されたことを感じた。

僕が気づいた福島市民の良さはあいさつだけではない。先日登校中に草木の手入れをしている人たちを見かけた。その人たちはいい笑顔で和気あいあいと楽しそうにしていた。福島市民は自然を大切に、人と関わり合うことができるのだ。僕があいさつをすると、その人達はやはりこちらを見て「おはよう。」と言ってくれた。

僕が気づいた福島市民の良さをまとめてみたが、こうして思い返すと本当に気持ち良く住むことができる市だと思う。この地域の人達にとって福島市民憲章の存在はやはり大きいと思う。この中で僕が挙げた例すべてにあてはまることは、「親切で愛情

あふれるまちをつくりましょう。」というところだと思う。そしてこれは一番大切なことだとも思う。

福島の人達はとても良い人ばかりだ。これからも福島市民憲章を忘れずに親切で愛情あふれる町であってほしいと思った。そのためにも僕もただあいさつをするだけでなく、相手の目を見て気持ちの良いあいさつを心がけようと思う。

佳作

「愛情の輪」

福島市立信陵中学校

矢 吹 美緒里

愛情はみんな平等にかけるべきではないのだろうか。人にだけでなく、動物にも平等に愛情をそそぐ。そのようなことができない人が増えれば、もともと福島市は良い町になるのではないか。

私は去年まで私立の小学校に通っていた。学校が遠かったため、スクールバスや自家用車で登下校することがほとんどだった。だから地域の人と交流する機会は自然と少なくなってしまう。しかし、私は今年から市立の中学校に通い始め、学校まで歩いて行くようになった。いつも横断歩道で子どもたちを見守ってくださっているボランティアの方々、「おはよう。」「がんばってね。」と声をかけてくださる地域の人々。私はそんな人々の姿から毎日元気をもらい、地域の人に愛情をそそいでもらっているのだと実感した。初めて会った

ときから笑顔で話しかけてくださる地域の人を見て、福島は良い町だ、この町を守っていきなれと思った。良い町を守るためにはどんなことが必要だろうか。きっと、地域の人がお互いにあいさつをかわしたり、感謝の心を持って生活したりすることだ。地域のひととの関わりがなくなってしまうら、この町の良さを見つげづらくなり、毎日の生活も楽しくなくなってしまうだろう。登下校中の些細なことから、地域の人の愛情と大切さを感じることができた。

しかし、愛情をそそぐのは人だけではないのか。動物にも愛情を持って接することが大切なのではないかと私は考えた。現状は福島県の犬や猫の殺処分数は全国ワースト三位。毎年殺処分数は減ってきてはいるが、今でも約二千匹の犬や猫が命を落としている。飼い主が「大きくなったから」「引越すから」などという理由で動物を捨ててしまうことが、殺処分の一の原因だ。なぜ罪のない動物が人間の身勝手な行動で命を落とさなければならぬのか。私はいつも心が痛み、疑問を感じている。私の家には十七才の猫がいる。母が保護した猫だ。

今は家族全員に愛されて長生きしているが、母が保護していなかったらどうなっていただろう。もしかしたらこの猫も不幸な短い人生になってしまったかもしれない。殺処分される動物を減らすには、一度飼った動物を最後まで愛情を持ってお世話することが大切だと思う。殺処分数が0になることを願っている。

このように人も動物にも愛をもって優しく接すれば、良い結果が待っているはずだ。中学生の私が福島市を大きく動かすことはできない。でも、一人一人が優しい心を持つことでその輪は広がり、自然と周りの人も優しい心を持てるようになるだろう。その優しい心の輪がどんどん広がって、愛情あふれる福島市になるといいと思う。

佳作

「私たちがつくる福島市」

福島市立北信中学校

佐々木 心

私は福島市が好きです。福島市には楽しいせつがあつたり、美しい自然も多くあると思うからです。「福島市民憲章」について考えたとき、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」という部分に注目してみました。今の福島市はきれいなまち、といえるのでしょうか。

私の家の前にある道路はときどき、ゴミが散らかっていることがあります。どうしてこんなことをするのだろう、と毎回悲しくなります。全国的にも福島県、そして福島市はゴミの量が多いと聞きました。

ですが以前、散歩をしている人が家の前のゴミを拾っているところを見ました。そのとき私の悲しかった心が温かくなった気がしました。最近では駅前などでボランティアの方々も福島市のゴミ拾いを行っている姿をよく見ます。福島市をきれいにする取り

組みをたくさんの方が実行していて、すごいと感じました。私たちも積極的に行うべきですが、なかなかできることではないと思います。だからまずは私たちができる、ポイ捨てをしないことなど簡単そうでも重要なことをするのが大切だと考えました。「きれいなみどりのまち」をつくるために実行していこうと思います。

しかし、福島市の自然には課題だけでなくたくさん魅力もあると思います。以前、都会の方に住んでいる友人が、

「福島市の川はきれいだし、水もおいしい。」

と、言っていました。確かに川はきれいで水がおいしいなど感じます。川のきれいさをたもっているのは先ほど言ったボランティア活動も影響していると思いました。また、自然だけでなく「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」という面でも良いところがあります。私が小学生のころ、登校中には交通指導の方や地域の方々が必要見守ってくださいました。私たちのために協力していただいていますごく感謝を感じました。福島市の

大きな魅力には住む人の優しさ、親切さがあり、安全にくらせるところもあると思います。

福島を見つめると、福島市には少し課題などありましたが、それよりも人柄の良さやたくさんの方々の魅力もありました。これらもつと良いまちにしていくには、「福島市民憲章」をしっかりと心に残し、一人一人が福島市民だということを自覚することが大切だと考えました。「誰かが」福島市をつくるのではなく、「私たちが」福島市を魅力いっぱいにするの良いまちに変わっていくと思います。

佳作

「親切でいっぱい」

福島市にするために

福島市立信夫中学校

小田桐 麻 結

福島市には、環境や教育・文化、健康・スポーツに関わる、生活にかかせないさまざまな公共施設があります。

私がよく利用していたのは、「地域の学習センター」です。幼稚園に入る前、私は母と一緒に小さい子とそのお母さんが参加できる、子育てサークルに入っていました。東日本大震災による原発事故で外で遊ぶことができなかつた時期、屋内で遊べるところを探してたどりついたところが、このサークルだったそうです。そこには、ボランティアで絵本の読み聞かせや手遊び歌など、親子で楽しめる工夫した遊びを、たくさん教えてくださった地域の方々がいました。その方々は子育て経験のある先輩ということもあり、慣れた手つきで子どもをあやしたり、優しく接して下さって、不

安を抱えた子育ての中、とても心強かったそうです。

やがて私は小学生になり、友達に誘われて同じ学習センター内の茶道教室に入りました。お茶の先生は地域の茶道クラブのみなさん。小学三年生で始めた時は、正座すら長時間できませんでした。お辞儀の仕方、お茶の点て方など、覚えることはたくさんありましたが、ある程度作法も身につけ花やお菓子から四季を感じたり、掛け軸や道具にふれるなど、日本の代表的な伝統文化を学べました。気付けば、小学六年生まで続けることができました。

学校ではなかなか学べない場に参加し、知識だけではなく、地域のみなさんと触れ合えたこともとても良い経験になりました。私は地域のみなさんの愛情にあふれた優しさで大きくなったのだと、改めて思いました。

親切にしてもらうと、とてもうれしくなります。逆に、自分から進んで優しく接する機会はまだそんなに多くはなく、少し勇気が入りますが、身近な友達が困っていたら一緒に寄りそい、小さな子が泣いていた

ら声をかけるなど、出来そうなところから実行していきたいと思います。そしていつか地域のみなさんにも恩返しができるような大人になりたいです。

市民全ての幸せと、郷土福島の限りない発展を願いながら、市民一人ひとりが心をあわせ、快適で明るく住みよいまちづくりを進めるためのよりどころとして、昭和四十八年に制定された市民憲章。今回私が着目した「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」の項目は、他の項目全てに当てはまると思うので、大事にしたいと思います。また、最近新聞やテレビでよく聞くようになったSDGsが掲げている目標を理解し、市民憲章と関連づけて関心をもつことで、輝くまちへ貢献できるのではないのでしょうか。

佳作

「この大自然・人々に感謝の心を」

福島市立信夫中学校

菅野 翔叶

「今日の吾妻山は、すごくきれいだよ。一日、晴れだね。」

僕の家は、毎朝決まって、母がこのような第一声をあげます。雲で吾妻山が見えない日はがっかりしています。初冠雪の日は、しみじみと冬が来ている事を実感しているようです。僕たち家族は、毎朝、福島市のシンボルである吾妻山を見て、その時の季節を感じています。通学時、その山々に向かって毎日、歩いていきます。楽しい時も辛い時も、いつも僕達にエールを送ってくれていると感じます。そして、僕はそのエールに応えようと、山に向かって心の中で「今日も一日、やってやるぞ」と気合を入れて学校へ向かいます。

先日開催されたオリンピックでは、県営あづま球場でソフトボールと野球の試合が行われました。快晴の中、ソフトボールの

TV中継を見た時、緑が美しく映る吾妻連峰に一瞬で心を奪われました。緑豊かな、この美しい山々が日本中に、いや世界中に映し出されたこと、本当にうれしくなりました。目にも鮮やかな緑色で、今でも忘れられません。このような感動を僕達に与えてくれる福島の大らかな山々を僕は誇りに思います。いつまでも大切に守っていくことが僕たち人間の使命だと思います。また福島市には、自慢できることがたくさんあります。福島を代表する夏の果物桃。美しい河川、荒川。先日、来福したソフトボールの外国の選手達が、「桃」をととても気に入って下さり、何回もおかわりしてくれたというニュースは、とてもうれしく、農家の皆さんの一生懸命作られている姿が思いうかびました。きつと僕以上にうれしかったと思います。また、十一年連続水質日本一に輝いた「荒川」。十一年も連続で水質を維持していくことは、とても大変な事だと思っています。地元の方々の地道な努力により、この状態が保たれているとのことで、大変感謝したいです。また、忘れられないのは、福島市出身の古関裕而先生です。多くの作

曲をされ、人々に勇気と力を与えたことは、福島市民にとつて大きな誇りと言えます。コロナウイルスによって学校行事が縮少されたり、中止になって悔しい思いをたくさんしました。そんな時、大好きな音楽を聴いて心がいやされたことが何回もありました。

僕は、この美しい福島市に生まれたことに感謝し、いつまでもこの自然がそのままであるように、何か役に立てる事を見つきたいと思います。また、偉大なる先人のように、いつか大舞台に飛び立てるよう、日々、努力していこうと思います。

佳作

「みんなが親切に」

福島市立野田中学校

石橋 心優

親切で愛情あふれるまちをつくりましょ
う。

これは福島市民憲章の第三条です。親切にする思いやりのある温かな心は、人の心を動かしたり、うれしい気持ちでいっぱいになります。

私はよく、おじいちゃんの家に行ったときに近所のおばさんやおじさん、面識がありません。おばさんでも、

「こんにちは。」

と明るく、やさしい態度で言ってくれます。私はこの五文字だけでも、心がすごく温かくなります。そして、「こんにちは。」と自分が言うのと、自分もとても良い気持ちになることができたり、明るくなったりします。そこで私は、まず「こんにちは。」というあいさつから、町の人々と交流を深めていきたいと思います。

そして、もう一つ私がこの町はみんなが親切だなと思ったことがあります。それは、私が小さかったときのことです。おでかけしようとバスに乗りました。ですが、もう席は空いていなく、立って乗りました。そこで、おじさんが、

「立っているのは、あぶないからおじさんの席にすわりな。」

と言ってくれました。私はそのとき、とてもうれしい気持ちで、

「ありがとうございます。」

と言って、その席にすわったのを覚えています。そして、お母さんとても笑顔でした。中学生になった今、そのおじさんは親切でやさしい心の持ち主だったのだなと改めて思いました。私は、席をゆずってくれたおじさんのように、自分より小さな子やおとしよりの方が困っていたりしたら、やさしい態度で声をかけ、親切にしていきたいです。

十年後、二十年後と大人になったとき、今のようなみんなが親切な温かい町で在り続けるために、私達は子どもやおとしよりをいたわる。だれにでも親切を進んで実行

する。ひとにはいつも明るく、やさしい態度で接する。この三つを心にとめ、次の世代にも、親切にすることの大切さを知ってもらうことが必要だと思います。そして、親切で愛情あふれ、さらに住みよい希望にみちたまちで一人ひとりが幸せな気持ちになるようにしていきたいです。

佳作

「たった一言でも変わった重要性」

福島市立野田中学校

加納 沙菜

「ああ、まただ。」
こうつぶやいたのは、私のおじいちゃんです。

私が小学生のころ、私はおじいちゃんと毎回、ゴミ捨てに行っていました。ゴミ捨て場に行くと、悲しい顔をしてつぶやきます。どうしたんだろう。と思い見ると、青い網に入っていないゴミが、からすにあらされている様子が目に入りました。小さかった私は、何がだめなの、何がまたなの。頭は不思議でいっぱいでした。そんな日々がたくさん続きました。これは、私が小学四年生までのことです。

高学年になると、学校が忙しくなり、ゴミ捨てに行けなくなりました。朝も、見ないで通り過ぎるだけになっていました。ある日、私たちは授業で、福島市の課題について調べようという調べ学習の時間があり

ました。私は、何について調べようと悩んでいました。パソコンを見てれば何か見つかるかなとずっと探していました。すると、大きめの文字でゴミと書かれているのを見てそれにしようと思えました。開いてみると、とても衝撃的な写真がありました。それは、川に捨てられているゴミ、ゴミがあらされまくったゴミ捨て場、この時私はおじいちゃんで行ったゴミ捨て場を思い出しました。学校の帰り、そこを通ることにしました。実際に通ってみると、網に入っていないゴミがありました。今の私は、周りが汚れる、いやだなそんな事を思うようになりました。家に帰っておじいちゃんに聞いてみました。

「本当は、そうじとかしたいんだけどねえ。」

と話してくれました。私の家の近所はお年寄りが多いので大変なんだそうです。私は、やる時間がなく、そうじをする事ができませんでした。四日後くらいに、近くに若い人が引っこしてきました。とても優しい人達でした。

少したった日、おじいちゃんとゴミ捨て

にいくと、とてもきれいになっていました。周りの人は、引っこしてきた人がやってくれたと話していました。私はすごいなと思いました。それは今でも変わりません。みんな大人になりたいとずっと思っています。

福島市民憲章第四条、きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちとある通り、たがいに助け合って大切にしていくことがどれだけ大事なかが分かりました。「ああまただ」から「きれいでいいね」に変わる重要性を。

佳作

「自然も心もきれいな福島」

福島市立野田中学校

西戸 光彩

私は先日、国語の授業で「福島市民憲章」というものがあることを知りました。その中で私の心に残ったのは第一条の「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」と第三条の「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」です。なぜこの二つが心に残ったのか、事例を四つ紹介します。

一つ目は、千葉県にいるところやおばが福島に帰って来た時の話です。

「福島の空気はおいしいね。」
帰ってきたおばがいました。それを聞いた私はすぐうれしかったです。そしていところやおばが帰るとき手を広げて、たくさんたくさん空気を吸って帰っていききました。

二つ目は、おじいちゃんの家のお家の木の木です。おじいちゃんの家は私の家となり

あるのでいつも朝、

「いってきます。」

と言ってから学校に向かいます。春になるとおじいちゃんの家のお家の大きな大きな桜の木にはパステル系のピンクの桜が元気に咲きます。それを見ると、

『今日もがんばるぞ。』

と思い、一日を楽しく過ごすことができました。

三つ目は、小学生の時、不安がなく安全に横断歩道をわたれたことです。毎朝、早くから横断歩道に立って、私達がわたる時には、

「おはようございます。いってらっしゃい。」

と旗を持ってわたらせてくれたからです。すぐくやさしいなあと思いました。

四つ目は、登下校の時、

「いってらっしゃい。」

「おかえりなさい。」

といってくる地域の方がいることです。私はすぐく人見知りですが私のようにも思っても行動できないのですが私のことをまったく知らない地域の方があいさつをし

てくれて私は毎日ニコニコで登下校することができて、福島の人は心もきれいなあ」と改めて思いました。

私はこの「福島市民憲章」を未来に繋いでいきたいです。「福島市民憲章」があるおかげで福島がすばらしく誇らしいからです。たとえ「福島市民憲章」がなくなっても心に刻んでおきたいです。「福島市民憲章」をつくってくださった方、ありがとうございます。

佳作

「よりよい町へ」

福島市立飯野中学校

菅野 結愛

「私に出来ることをして、より良い町にしたい。」私が授業で初めて福島市民憲章を知ったときに、こう思いました。私が住んでいる飯野町は、みどりがあり、優しく親切な人がたくさんいる町です。福島市民憲章を知って思ったことと考えたことを、二つ紹介します。

一つ目は「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」です。飯野町は自然が豊かできれいな川が流れていて、とても気持ちが良いです。ですが、ポイ捨てがあり、ごみが落ちているのが見られるときがあります。それを見て私は、とても悲しくなりました。どうしてきれいな町を汚してしまうのだらう、と。そこで私が考えたのは、町のごみ拾いのボランティアを行ったり、ポイ捨て防止のポスターの作成をしたりすることです。そうすることで、飯野町

のみんなが気持ち良く過ごせると考えました。私はこの活動を行い、飯野町の自然を守っていききたいです。

二つ目は「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」です。飯野町には、魅力がたくさんあります。親切で優しい地域の人の、それから伝統行事や文化です。飯野町には、つるしびなやこつこどり、ユーフォーや宇宙人が有名です。つるしびなは毎年二月に、きれいなつるし飾りやひな人形、さるぼぼなどで商店街が飾られ町が華やかになる伝統行事です。こつこどりは、夕方子供達が飯野町をコッコッコと言ってお菓子を貰う行事です。飯野町はユーフォーの日撃情報があり、町の街灯がユーフォーの形だったり、宇宙人の石像がたくさん置かれています。この素敵で楽しい文化や伝統行事も、

今は新型コロナウイルスの影響で中止になっています。行事が出来なくて悲しい人もいると思います。私もその一人です。いつもならもつとにぎわって、笑顔も多かったのにな、と思っています。でも、その中で何出来るかを考えていきたいと私は思いました。たとえば、もつと多くの人に飯

野町の文化や伝統行事を知ってもらおうことです。今は来ることが出来なくても、行けるようになったら「行ってみたいな」「見てみたいな」「楽しそう」と思ってもらえるようにアピールをする。そうすることで町の活性化にもつながり、町の人も来て下さった人も笑顔になるんじゃないかと考えました。私は、多くの人が飯野町の魅力を知って笑顔あふれる町をつくるためにこのような活動をしたいです。

この福島市民憲章で、「私にできることをして、より良い町にしたい」という思いを、実現していきたいです。

佳作

「協力の先の笑顔福島」

福島成蹊中学校

荒明 澄 伶

私は「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」を見て近所の人や通学中に、すれちがう人達が最初に思い浮かびます。

一人目は、私の家の裏に住んでいる近所の人達です。ときどき私の家の前に、ごっそりと、たくさんの野菜を置いていってくれています。

私が学校から帰って来た時、家の前の草がかられていることに気がつきました。母は、「近所の人達が草むしりをしてくれたのだろう。最近やっていなかったから助かるな。」と言っていたことがあります。

私の母のように一人でも「助かるな。」という気持ちになってくれる人がいるのなら、私も、お手伝いや近所のゴミ拾い、草むしりなどの行事に参加してみたいと思いました。

二人目は通学中に、すれちがう人達です。私は母に毎日送り迎えをしてもらっているので車で登下校します。

通学中に、毎朝七時前から草むしりやゴミ拾いをしている人達がいるのをよく見かけます。すごい人は一日中、草むしりをしている人もいます。

私はその人達を見て「こんなに朝早くから仕事をやっていてすごいな。私は、やることが絶対起きることすらできないな。」と感じました。

私が見るかぎり若い人達がゴミ拾いや草むしりなど環境に関する活動をしているところをあまり見たことはありません。

私は、今よりきれいなみどりのまちをつくるには、多くの人のちよつとしたことや、協力が必要だと思っています。

例えば、町中ではガムやその辺にゴミが捨ててあったり、田舎では空きカンやビニール袋が捨てられていることがあります。このようにゴミをポイ捨てしない、行事に参加するということを少しでも心がけていけば、きれいなみどりのまちは、みんなで作ることができると思っています。

私は自分から進んで活動すると、周りに広がっていつていずれはみんなが、自然にやっているといることがあると思います。私も「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」を実現するために、いろいろな環境に関する行事に参加して自分なりに、できることに挑戦してみようと考えました。

佳作

「もりんシェアサイクルを

利用して」

福島成蹊中学校

栗木花野

私はもりんシェアサイクルを利用すれば福島市民憲章を達成できると思います。なぜ私がもりんシェアサイクルに興味をもったかというと、福島駅の駐輪場を利用するときに毎回見るからです。

もりんシェアサイクルは市内中心市街地に設置されたサイクルポートであればどこでも自転車のレンタル・返却ができるサービスです。サイクルポートは計十二箇所あり、市役所や図書館、古閑裕而記念館などにあります。

現在コロナ禍における深刻な運動不足が問題になっています。外出自粛などで家で過ごす時間が多くなり、以前よりも運動したり、体を動かす時間が減っています。そんな今だからこそもりんシェアサイクルを利用し、福島市の様々な場所をまわって

みるのはどうでしょう。もりんシェアサイクルに乗ることで、観光も兼ねて乗ることが可能です。今まであまり行ったところがないところ、見たことがないところにももりんシェアサイクルを使って、自分の力で行ってみると今までにない達成感を得ることができるとは思いませんか。ひとふみひとふみ自分の足でこぎ、今までにない発見、経験を自分で感じることもできるもりんシェアサイクル。ぜひ観光客の方だけではなく、福島市民の方にも利用してもらいたいと思います。観光の方はいつでもスキなときに移動することができ、市民の方は通勤、通学、買い物などに利用してみてください。

次にももりんシェアサイクルを利用することで、駅前の放置自転車が減ることです。放置自転車は通勤、通学や買い物および不法投棄や盗難車の乗り捨てなどにより、駐輪場のような場所以外に放置されている自転車のことです。駅前は特に駅から学校、会社に自転車で行く、夜や休日、連休などの長時間の駐輪に対応できるレンタサイクルの導入が進んでいるそうです。

私も駅から学校への通学路の様々なところに放置自転車が置いてあるのをよく見ます。ですが、この放置自転車も、もりんシェアサイクルを利用すれば減っていくということが分かり、非常に画期的な取り組みだと思いました。

最後にももりんシェアサイクルを利用すると「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」を達成できると思います。コロナ禍における運動不足の解消、駅前などの放置自転車を減らすということに貢献することができます。しかも、もりんシェアサイクルは観光客の人のみならず福島市内在住の人でも便利で楽しく、新しい発見ができます。もりんシェアサイクルを利用すれば、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくることができると思います。

「親切で優しいまち」

福島市立福島第一中学校

黒澤 董

私はこの福島市を親切で優しいまちにしたいと思っています。分からないときや間違えたときには親切に教えてくれて、お互い優しく接することができる町です。私は親切にされた体験がたくさんあります。その中でも、二個お話ししたいと思います。

一つ目は、私が五才くらいのときです。お母さんとスーパーに来ていたときに私がお母さんとはぐれて迷っていたとき、高校生くらいの人が迷っている私を助けてくれていっしょにお母さんを探してくれました。私はたまにこのことを思い出して、名前もなにも分からないのに助けてくれるんだなと尊敬することがあります。

二つ目は、最近で部活が終わってバスで帰るときです。この日は、小学校の頃から仲良くしている三年生の先ばいも偶然バスにいました。私と先ばいの近くの座席に

座っていたランドセルを背負っている小学一年生くらいの子が寝てしまっていました。すると、先ばいはバスでおおりるところを過ぎないように一年生を起こしてあげました。それに、一年生がおおりるところはまだ先だったので安心しました。私は、こういう体験をして人のために自分の時間を削って助けてくれているところを見て、私の周りには優しい人がたくさんいるんだなと改めて実感しました。

なので、困っている人を見つけたら自主的に助けられるようにしたいです。そのために私がまずやるべきことは二つあります。

まず一つ目は、自分一人で助けられることからです。いきなり規模の大きいことからではなく、身近で自分一人で助けられる範囲で挑戦してみることです。例えば、バスの席でお年寄りの方や体を負傷している方がいたら複数もつていなくても貸してあげたりすることです。

二つ目は、どの人にも関係なく接することです。苦手な人が困っているけど「あの

人はちょっと苦手だから行かない。」ではなくて、優先して困っていたらどんな人でも助けることが今、私には一番大切で頑張ることだと思いました。

もし、人が困っていたら助けるということが定着した人生になっていったとき自分が困っているときもすぐに来てくれて優しく教えて、助けてくれる人がいてくれるのかなとこの作文を書いているとき思ったりしました。

最後に、私がこの福島市を親切で優しい町にしたいなと思ったきっかけは、最初にお話しした親切にされた体験の五才のときの体験がきっかけです。今は、その高校生の人が勇気があつてすごいなとただ尊敬しています。私もこの人のように、みんなに優しく接してそれをだんだん広げられたらいいなと思います。

「大好きな福島を守るために」

福島市立福島第一中学校

赤井利穂

私は、福島市が好きです。理由は山も川も近くにあり、自然豊かだからです。でも、最近町を歩いている時ごみを見かけることが増えていると感じます。みなさんは、どう思いますか。そこで、福島をよりよい町にするためにごみをなくし、きれいな町になるように提案をしたいと思います。

初めに、なぜごみを落とすしてしまうのか自分なりに考えてみました。一つ目は、コロナウイルスの影響です。コロナウイルスでマスクをしなくてはならないためか、道にマスクが落ちているのをひんぱんに見かけます。しかし、今落ちているマスクを拾う時に感染するリスクがあり、自分のマスクでないと不安でなかなか拾う勇気ができません。

二つ目は、空き缶です。道の脇に缶が並べられていることがあります。空き缶は、

一人が置いてしまうと、僕私が置いてもいいかなと思いついんどん連さしてしまうと思います。初めの一人がごみ箱に捨てれば大量の缶が並ぶことはないと思います。また、足元に捨ててあると小さい子供やお年よりや自転車に乗っている人が思わぬケガをしてしまう可能性があつてとてもきげんです。

次に解決方法を考えました。一つ目は、ごみ箱を増やすことです。ごみ箱を増やすことで近くにごみ箱があれば自然とごみを入れてくれると思います。また、大前提に自分のごみを自分で持ち帰る、自分のごみは自分で処理して町を自分の家だと思えばよいと思います。そうすれば、きれいでみんなが住んでここよい町にもつとなると思います。

また、コロナウイルス感染から身を守るには、手洗い、うがい、マスクを着用し、手指消毒を続けることが大切です。その他にも夏でも冬でも食べて栄養面や福島産の旬の食材を取り入れたものを食べたり、毎日の適度な運動で体力を付けたりして免疫力を上げて福島をみんなを守っていききたい

です。そして、一人一人がごみを捨てずに持ち帰ることや処理をしてみんながごみを捨ててもいいと思わないぐらいきれいな町にして福島に住む人が快適でここよい福島にして、コロナウイルスがおさまりにおとずれた観光客が驚くほどきれいな町にしたいです。そのためには、みなさんの協力がが必要です。みなさんももう一度福島をどうすればよりよい町になるか考えてみてはどうでしょうか。

「きれいな福島へ」

福島市立福島第一中学校

亀山遥萌

私は福島がもつときれいな町になってほしいと思っています。ときどき道路や道にゴミが落ちているのを見かけます。

テレビなどで、よくゴミをそうじしてくれているボランティアの人を見たことがあります。毎日何こものゴミがはいったふろろが車につんであるのを見て、そんなにゴミが落ちているんだなど、おどろきました。

福島市民憲章の一つに、「空も水もきれいなみどりのまちづくり」が、かかげられています。ですが、ゴミがこんなに落ちている中で、本当にそんな町がつかれるのか不安です。

私はこのままゴミを道に捨てる人が増えてしまったらきれいな福島には絶対にできなと思っています。そのため一人一人がゴミを道に捨てないということを意識して生活していくことが大切だと私は思いました。

私は、今、私達にできることは何かと考えました。私が思いついたのは、二つです。

一つ目は、全員がゴミを道に捨てないように努力して生活するという事です。道にゴミを捨ててしまうと、環境にどのようなえいきょうがおこるかをしつかりと考えて、ゴミを道路や道に捨てないように努力して生活することが大切だと考えました。

二つ目は、もし道や道路、自分が通った場所にゴミが落ちていたら、ひろって捨てるということです。ゴミが落ちていたのにそのままにしておくと、どんどんゴミがたまってきれいな福島なんてつくれなくなってしまうと思います。

だから自分が通った場所にゴミが落ちていたら、ひろってあげることが大切だと思います。

福島をきれいな町にしていくには一人一人が意識してゴミを捨てないように、落ちていたら拾ってあげるといったことが必要だと考えました。

福島の人たち全員で協力し、ゴミを道に捨てないよう心がけて、きれいな福島にしていけるようにがんばりたいと思っています。

す。

身のまわりにある福島のたくさんの方々の自然を守っていくために、全員で協力し、努力して福島をきれいな町にしていきたいと思っています。

そして、今よりも、もっともいい福島になるのではないかと思います。

「福島健康なまちづくり」

福島市立福島第一中学校

村上 彩華

「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」

これは、福島市民憲章の一つである。はたして、できているのだろうか。「安全なまちづくり」は、私が考えるにはできていないと思う。だが、「健康なまちづくり」はどうだろうか。私が以前、テレビで見たCMで、福島県はワースト三位ぐらいには入るほどの肥満体型の人がいると初めて知った。昔と今を比べると、少なくなったように思える。だが、まだそうではないという人もいるだろう。

肥満体型減少の対策をするには、運動が長期間続く、あきらめない、楽しくできるなどが当てはまることだろう。そのため、私はこう考えてみた。例えば、美しい景色を眺めながらのウォーキングである。福島の桃源郷と呼ばれる花見山を歩き、登った

ときに体感できる気持ちは、すごく良いだろう。次に、運動量を増やすのである。目標を決め、一日ずつ伸ばし、達成したら、自分へのごほうびで気分を上げ、次も頑張ろうとする考えは大事だろう。そして、運動した距離や時間を記録し、『目に見える化』することである。見えることで、現在の記録や達成状況などが分かり、今の自分の結果から、今後、どのような運動をすれば良いかなど、いろいろな考えが出てくるのではないだろうか。

また、こういう観点からも見てみた。それは、『部屋が汚い・きれいにしたい。』というところである。実行しているうちに、最初は、どんどんめんどうくさくなったり、あきらめて放置する人も出てくるだろう。だが、部屋がきれいになって、ストレスの解消や、このきれいな状態を保ちたい、という人が出てきて、毎日・毎週の掃除が習慣となり、もしかすると、前に紹介した、ウォーキングなどの運動より心がさわやかになり、効果が出てくる人もいるのではないだろうか。

今回、私は「健康」をテーマにして考え

た。私一人の意見にすぎないが、参考に運動をし、福島市民や福島県民に効果がでて、ワーストくらいのところから抜け出したなら、とてもうれしい。これは、私が考えた案のため、あまり結果が出ない人がいるかもしれない。だが、肥満体型を治したい、と思う人がいるだけ運動ができてなくても、あきらめないと私は信じている。自分自身が健康になるため、もっと体を大切にしてほしい。そういうことを考えて生活していくと、ずっと一緒にいたい人と長く暮らせるのではないだろうか。

「私の大好きな福島」

福島市立福島第一中学校

室 本 柚 妃

私は福島市が大好きです。都会のような華やかさや便利さは無いけれど、福島には四季を感じられる祭りや山があります。春は写真家の秋山庄太郎氏が「福島に桃源郷あり」と絶賛した桜の名所である花見山には色々な花が咲きほこります。夏には日本一の大わらじを担いで練り歩く福島わらじ祭りが行われます。秋には福島稲荷神社の例大祭が行われます。夕闇の中数多くの提灯に明かりを灯した約二十台の山車が連なる連山車は必見です。冬は信夫三山暁まいりがあります。重さ約二十トンの大わらじには圧倒されます。江戸時代から四百有余年にわたり受けつがれています。

私の部屋からは吾妻山を見ることができません。天気が悪い日は吾妻山に雲がかかると思はれます。吾妻山がはっきり見える日には洗濯物を外に干すことができますと母

は私に教えてくれました。母は祖母に教えてもらったそうです。

春になると雪うさぎがはっきり見えます。夏に浄土平から見る星空はまるでプラネタリウムです。夏から秋にかけてはフルーツラインの果樹園で果物狩りをすることができます。私は萱場の梨が好物です。降雪のため磐梯吾妻スカイラインは冬季閉鎖となります。高さ四メートルほどになる雪の回廊を見ることが出来る春には祖父母と必ず見に行きます。雪を見ながら高湯温泉での雪見風呂は私の至福の時です。このように四季を市内にいて楽しむことができる福島が私は大好きです。

私は福島の魅力をもっと知ってもらい福島市民であることに誇りをもってもらいたいと考えています。「ふくしまの水」は二〇一七年から四年連続モンドセレクション最高金賞を受賞するほど美味しく、荒川の水は日本一に十年輝くほど水質が良く、それを農業用水として活用することでみずみずしい野菜が採れます。私たちがその良さを後世に伝え、残していく役割を担っていく必要があります。そのためには自分た

ちが生まれ育った福島市の良さを再認識する機会をもったり、こまめに蛇口を止めて水を大切にしたり、汚れ物はそのまま流さずふきとってから流すなど、出来ることから少しずつ始めていきたいと思えます。そして、何十年何百年とこのすばらしい福島市の財産を、次の世代に残していきたいと考えています。

「福島によさ」

福島市立福島第一中学校

柏木 萌音

私は、福島によさがたくさんあると思っています。田舎だからといって、都会にまけているわけではなく、田舎だからこそその何かがあると考えています。

私を知っている福島が一番のよさは、自然だと思っています。吾妻山などたくさん山があつたり、緑が美しかったりと、都会では想像できないような美しい自然が広がっています。いつもなにげなくみている自然が、福島をずっと守ってくれているのです。そして、福島市民の私たちは、このすばらしい自然をほこらしいと感じています。

しかし、福島には、悪いイメージをもつ人もいるかもしれません。福島は、東日本大震災で多くの被害を受けました。今は、その復興の真っ最中です。その中でも、支援してくれた方達のおかげで、イメージが良い方向にいつていると思います。桃など

の果物は、安心して食べられるようにもなりました。福島の復興がこんなにも回復してきたのは、山に守ってもらっているからかもしれないですね。

その中でも、福島は、また大きなかべに立ち向かっています。やりたいこともできない、行きたいところにも行けない、こんな日々が続いています。コロナウイルスは、人から人に感染もします。が、人と人との心を遠ざけてもいます。マスク生活であるということとは、相手の表情が分かりづらく、コミュニケーションが取れない日々。福島のみりよくの一つである笑顔が、少しずつ消えていくような感じです。しかし、福島の人たちが一人一人助け合い、協力しながら乗りこえていくことで、この大きなかべを破っていくことができると思います。この生活をもう少しがまんすると、福島に明るい未来が待っているのではないのでしょうか。

今の福島は、一つのかべを乗りこえようとしています。そして、私たちにできることは、なるべく外出しない、手あらい、消毒、など、コロナ前の環境にもどれるよう、

一人一人が県、そして国のため協力しなくてはならないと考えます。身の周りの自然と共に、一歩ずつみんなまで、歩いていきましよう。

「福島のとくさんの魅力」

福島市立福島第一中学校

菅野 愛実

みなさんは、福島が田舎だと思いますか。私は田舎だと思いますが、都会とは違うたたくさんの魅力があると思います。今回は、私が思う福島の魅力を紹介します。

一番の福島の魅力といったら、やはり自然だと私は思います。自然があるからこそ、他にも色々な魅力があるんだと思います。他にも私の中の福島の魅力は二つあります。

一つ目は、果物がおいしいところです。私は特にさくらんぼと桃が好きです。二〇一一年三月十一日の東日本大震災の影響でみなさんの中での福島の印象は悪くなったと思います。一時期、福島の野菜や果物は安全ではないと野菜や果物が売れない時期があったそうです。しかし、十年たった現在は、野菜や果物などがおいしいという環境がもどりとつあります。みなさんも

福島の果物を食べてみて下さい。

二つ目は、春夏秋冬それぞれの景色がとてもきれいなところです。春は桜が満開で、花見山に登ると、ピンクのきれいな桜がさっています。夏は緑がたくさんになり、自然の中でバーベキューをすると、とても空気がきれいで気持ちがいいです。秋はもみじで地面がいっぱいになり、足元が真っ赤で、まるで赤いカーペットのようです。冬は景色が一面真っ白で、とても心がいやされます。このように、春夏秋冬それぞれのよさがあり、とても景色がきれいです。

このように福島の魅力はたくさんあります。しかし、まだ直していかなくてはならないと思うことがあります。それは、ごみ捨て場ではないところにごみ捨てるところです。みんなが歩く道、みんなが遊ぶ公園などに、ごみが落ちていたりすることがあります。私は、みんなが使う場所のなれなれと思います。直すために、自分が出したごみを自分でしっかり処理することを一人一人が心がけていくことができれば、福島はもっといい場所になると私は思います。

「元氣な福島にするために」

福島市立福島第一中学校

齋藤 由奈

私は、ひとりで歩くのが嫌いだった。すれ違う車、自転車、人…。みんなが私を見ている気がして、いつもドキドキしていた。

ある日、いつものように歩いていると、私のほうを見ているおばあさんがいた。ドキドキしながらも、

「おはようございます！」

と、言ってみた。すると、

「おはよう、いつてらっしゃい。」

と、笑顔で言ってくれた。ひとりで歩いているときに、自分からあいさつをしたのは、これが初めてだった。

あいさつは、する側もされた側も、すがすがしい気持ちになる。でも、自分からあいさつするのは、勇気がある。さらに今は、町行くみんながマスクをしている。一人一人がどんな表じょうをしているのか分からない。そんな中、自分からあいさつを

する人は少ないと思う。

コロナウイルスが流行している中、誰もが不安や悩みをかかえているだろう。そんな今だからこそ自分にできることを考え、生活していくことが大切だと私は思う。様々な学校で、部活や学校行事が中止となり、去年開催されるはずだった東京オリンピックも延期…。今も、開催されるか分からない。そんな、みんながバラバラになりつつある今、福島市民憲章の「親切で愛情あふれるまちづくり」を達成できるはずがない。どうすればいいのだろう。考えたときに頭に浮かんだのは「あいさつ」だった。

それから私は、自分から進んであいさつをするようになった。学校でも、家でも。人とすれ違うときは、必ずあいさつをした。

「おはようございます！」
と言うと、

「おはよう」

と返してくれる人もいれば、

「おはようございます！」

「…。」

と、何も言わない人もいる。

東日本大震災の壁を乗り越え、コロナと

いう壁も乗り越えようとしている今、「あいさつ」の壁を乗り越えられないのはなぜでしょうか。一人一人が意識して生活することで、よりよい「元氣な福島」にすることができないのでしょうか。

「福島の魅力と愛情」

福島市立福島第一中学校

竹原 彩華

私は、福島のたくさんの方々の魅力を知っています。福島を田舎と言う人も中にはいるだろうと思います。私もその中の一人です。ですが、田舎だからこそ楽しめる美しい自然が福島にはたくさんあります。

福島の魅力は、県の行政都市ながら、綺麗な夜空を一覧したり、気軽に自然を感じることができる浄土平や、福島の桃源郷とも言えるほど、たくさん綺麗な花が咲き誇る花見山など美しい自然を楽しめるスポットが多いところが福島の大きな魅力だと思います。

また、芭蕉ゆかりの地、信夫文知摺、東北屈指の歴史を誇る飯坂温泉や土湯温泉など見所にも恵まれていて、たくさんの方々の歴史もあります。

どんなに田舎と言われても、都会と言われても、そこにはたくさんの方々の魅力や歴史

史、よさがあり、その地域それぞれの雰囲気があるのでとてもいいなと思います。

そして、福島の愛情。私は、いつも河川敷を歩いて学校に通っています。そこには、犬の散歩をしている人やジョギングをしている人、歩いて通勤している人とすれ違うことがあります。私が、

「おはようございます！」

と元気に挨拶をしたとき、

「おはよう。」

や、

「いつてらっしゃい！」

と、挨拶を返してくれる人がいる一方で、私が挨拶をしても返してくれなかったり、無視していつてしまう人がいます。私は、少し悲しい気持ちになりました。

愛情がこもった挨拶は、した人も、された人も気持ちが良いくなります。なので、私は、親切で愛情あふれるまちをつくることを意識してほしいなと思います。

このことだけとは限らず、この福島市民憲章についてみんなで意識して取り組んで、もっと考えてほしいし、それを実行してほしいです。

そしたら、今よりもっと魅力あふれる、とてもいい福島になると私は思います。

「福島の水が美しいわけ」

福島市立福島第一中学校

山口 祐樹

僕は休日には、犬を連れて散歩に出かけます。その中でも、よく荒川桜づつみ公園の辺りを散歩します。

「空も水もきれいなみどりのまち」

この文章を見た時、桜づつみ公園の景色を思い出しました。それは川沿いの道を歩けば川の水がとてもきれいな青色で、公園の中は春は桜の花、夏には緑など、一年を通して自然の豊かさを感じることが出来る場所だからです。

そんな美しい場所ですが、残念なこともあります。周りをよく見てみると、案外たくさんのゴミが落ちています。また、バーベキューや花火の火で草や石が焼けていることもあります。

あたり前のことですが、ゴミを捨てないで持ち帰ってほしい、火を扱う時には周りに注意してほしいと思います。

あの自然豊かな場所には沢山の生き物がいます。空には多くの野鳥、水の中にもたくさんの魚や生き物がいます。それなのに、僕たち人間が汚してしまったり、この生き物たちは生きていけなくなってしまうかもしれません。

荒川は十一年連続で一級河川の中で、水質が全国一位だそうです。全国で一位ということもすごいと思いますが、十一年連続というのは、もつとすごいことだと思います。この十一年連続一位という結果は、地元の人たちの努力の成果だと新聞で読みました。草刈りやゴミ拾いを地元の人たちで、長く続けているそうです。また、それが少しずつ浸透してきているそうです。

こうして地元の人達が大切に守ってきた、豊かな自然や水は、宝であり、大きな財産です。そしてこれは、そこに生息する生き物や植物にとっても同じことなのだと思います。

自然はとても尊いものです。

僕たちがそのことを忘れず、大切にしなければ守っていきけません。

「空も水もきれいなみどりのまち」

この言葉がずっと僕たちの住んでいる福島のことであり続けるように、一人一人がルールを守って、自然に優しい行動を取り続けられることを願い、僕も身近なところから始めていきたいと思っています。

「福島市について考えて」

福島市立福島第二中学校

五十嵐 彩 葉

私は、福島市民憲章の五つの内容の中から、「空も水もきれいなみどりのまちをつくるために」について考えました。

まず、現在の福島市は「空も水もきれいなみどりのまち」と言えるのかを考えました。答えは「言えない」だと思います。現在の福島市は、吾妻山や信夫山などの山に囲まれ、阿武隈川など川も多くあり、自然も豊かです。しかし、川をよく見ると、水が汚れてにごっていたり、ビニール袋などのプラスチックごみが浮いていたりしています。また、学校行事の一環として、学校周辺のごみ拾いをした時には、お菓子の包装紙やビニール袋など、たくさんのごみが落ちていました。

次に、私は福島市をどんなまちにしたいのかを考えました。私は、福島市を美しい山に囲まれ、森林が多くあり、空は青く澄

んでいて、川は汚れてにごっていたり、プラスチックごみが浮いていたりせず、道路にごみが落ちていないまちにしたいです。

最後に、福島市を「空も水もきれいなみどりのまち」にするためにはどうすればいいのか、私にできることは何かを考えました。私にできることはたくさんあると思います。一つ目は、ゴミを捨てるときに、きちんと分別をすることです。当たり前のことだと思いかもありません。しかし、実際にはできていない人もいます。二つ目は、ゴミを減らす工夫をすることです。例えば、着れなくなった服や使わないおもちゃは知り合いの小さい子にあげたり、買い物をするときにエコバッグを持って行ってレジ袋をもらわないようにしたりしたいです。三つ目は、ポイ捨て禁止についてのポスターをつくって、学校や市役所にはってもらうことです。そうすることで、ポスターを見た人の意識が高まり、ポイ捨てをする人が減っていくと思います。四つ目は、川や道路のゴミ拾いのボランティア活動に参加することです。川や道路をきれいにするため

には、一番はやい方法だと思います。この四つ以外にも自分ができそうだなと思ったことには、積極的に取り組んでいきたいです。そして、福島市を「空も水もきれいなみどりのまち」にしていきたいです。

「よりよい福島市をつくるために」

福島市立福島第二中学校

小林 美月

私は、空も水もきれいなみどりのまちをつくるために、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくるために、この二つについて考えました。

空も水もきれいなみどりのまちをつくるには、川を汚さないことが大切だと思います。実際に川を見てみると、汚れてしまっていて残念だと思ったからです。なので、川が汚れてしまう原因について調べてみると、私達でも川をきれいにするためにできることがあることが分かりました。

例えば、食器を洗うときに、食器についてた汚れをいらなくなった紙などでふきとってから洗うことも川を汚さないためにできることです。また、食器を洗うときに使う洗剤いや、シャンプー、石けんを使いすぎないということもできます。それに、川にごみを捨てないということも大切です。

川が汚れていることは、衛生的にもあまりよくないと思うし、見た目もよくないと思います。福島市のよさは、自然が豊かだということだと思います。空も水もきれいなみどりのまちをつくるためには、この自然の豊かな環境を保ち、川をきれいにすることだと思います。また、自分達が住んでいる福島市の自然に関心を持ち、よりよくしていくにはどうすればいいか考え、行動する、ということが大切なことだと思います。

子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくるためには、二つのことが大切だと思います。

一つ目は、交通事故にあわない、起こさないことです。左右や前を確認してから道路を渡ったり、スマホなどを見ながら、歩いたり、自転車や車を運転したりせずに出かけることで交通事故にあわない、起こさないということができると思います。

二つ目は、近所の人や毎日会う人にあいさつをすることです。私のまわりでも、あいさつしてくれる人がいて、あいさつをすると、自分も相手も気持ちよく過ごすこ

とができると思うからです。また、近所の人や毎日会う人にあいさつをして、コミュニケーションを取っておくと、災害時などに協力し合うこともできるということもあると思うからです。

以上のことを考えてきましたが、よりよい福島市をつくるためには、これまでに挙げたこと以外にもできることがあると思います。その、よりよい福島市をつくるためにできることを市民一人一人が考えて生活することが最も大切だというのが私の考えです。

「ごみを減らすために」

福島市立福島第二中学校

緑川 浩輝

僕は、空も水もきれいなみどりのまちをつくるために、福島市に必要なものや環境にとつて悪いものを考えてみました。福島市は山があり緑は多いと思います。けれど福島市はごみの量が全国でワースト十四位（令和元年）で他県と比べてごみの量がとても多いです。福島市の生活系ごみの中で八割が可燃ごみです。可燃ごみということ、処理するのにそのごみを燃やさなくてはなりません。ごみを燃やすと、排気ガスや二酸化炭素の環境に悪い物質がいっぱいあります。

ごみを減らすために、三つ考えました。一つ目は、リサイクルを呼びかけることです。ペットボトルなどの物は、スーパーマーケットなどで、リサイクルできます。ペットボトルが川に浮いていることも見たことがあります。ペットボトルなどのプラ

スティックは自然にくずれないので、ずっと捨てたら残っています。そのため、ポイ捨てや普通にプラスチックとして捨てるだけでなくリサイクルして再利用するのが、ごみが減るうえで、大切なことだと思います。

二つ目は、ずっと使うということ。例えば、アイスを買ったときプラスチックのスプーンなどが、一緒についてくるときがあります。そのスプーンをアイスを食べるだけに使ったら、少しもつたいない気がします。そのスプーンを使い終わった後、捨てるのではなく、これからも使うことにしてとっておくとごみは減ると思います。こうした小さな行動も、いずれは大きくなると思うので、こういう行動は大切だと思います。

三つ目は、無駄な物は買わないということです。あれもこれもと買ってしまつと、後々にゴミの量が多くなり、また、福島市のごみの量が多くなつてしまいます。もし物を使うなら大切にずっと使い続けることが大切です。なので、無駄な物は、買わないという事を市民全体が心掛けることが、

大切なことではないのかと考えました。

この三つを取り組むことが、大切ですが、やはり自然環境をきれいにするためには、僕一人では難しいことです。でも、数人になると少しは、ごみが減るのではないかと考え、少しでも、僕の周りの人達には、この三つを心掛けてもらうことが大切なのではないかと考えました。このことを取り組めば、ごみが減りみどりが多くなると思いました。

「福島に生まれて」

福島市立福島第二中学校

森 口 遥 香

私は、親切で愛情あふれた福島市にするため、どのようなことが必要かを考えました。現在の福島市は、見守りたいの方々やボランティアの方々など、私たちが子供の安全を守ってくださったり、地域のゴミ拾いをしてくださったり、人にも環境にも親切に、また地域への愛情にあふれている姿が見られます。しかし、実際にやってくださっているのは昔から、この福島に親しんでいる方ばかりで、若い方々がゴミを道ばたに捨てているところを何度か見かけたこともあります。

私は、全員が主体となり、この福島に愛情を、そして人々に親切にできるまちであってほしいです。福島の自然にふれ、山登りをするのもいいですが、道中に休んだのか、その後のごみが片付けられておらず、道中に包装紙やスナック菓子のふくろなど

が散らかっている様子を見ました。この行動は、あつてはいけないと思います。簡単に言えば、きれいにそうじしてある新幹線に、身勝手な理由でごみを置いたまま目的地でおられることと同じなのです。山だつて、地域のボランティアの方々などが協力してきれいにしているのに、それを身勝手な理由で汚し、何事もないように帰るのは、その人たちにも失礼きわまりなく、悪事をはたらいているのと同様です。

私は、親切で愛情あふれた福島市にするためにひとりひとりが福島市民としての自覚をもち、よりよい福島をつくろうと志すことが大切だと思います。また、自分の行動に責任をもち、行動ひとつひとつで福島市は良い意味でも悪い意味でもかわることをしっかり頭に入れておくことも大切だと思います。

以上のことを考えてきましたが、私は、今まで書いてきたことを自分はやっていなかったかと自分の行動を改めて思い返し、福島をきれいにしようとするひとりのすばらしい行動が、めんどくさいから、やりたくないからという出来心や軽い気持ちに

よって台無しにしてしまわないようにしたいです。ひとりひとりが、福島をよりよくしようとする、親切で愛情あふれた福島にしたいです。

「広がっていくあいさつと親切」

福島市立福島第二中学校

菅野 幹 人

僕は、親切で愛情あふれた町に福島市をするために、どのようなことが必要かについて考えました。現在の福島市では、気軽にあいさつしてくれる人や道のごみ拾いをしてくれるお兄さん達などやさしい人達が多く見られます。ですが中にはこちらがあいさつをしているにもかかわらずあいさつを返さない人や手をあげているのに車を止めてくれない人も多く見られています。このように良い事をしてくれる人もいれば、そういった行動を裏切るような人もいます。僕は、このままだと良い行動をしている人も悪い行動をしている人のせいで悪い印象がつかってしまうのではないかと思います。

まず、僕は小さな事から親切であふれる町ができるのではないだろうかと思えます。たとえば地域の人のあいさつから親

切が広がるのではないのでしょうか。それで少しづつでも地域の人と仲よくなり、そこからごみをすぐ捨てないよう呼びかければきっとだいたい人はそれに応じてほんの少しだとしても、道のごみが減ると思います。こういう小さい事であるあいさつは何よりも大切で親切で愛情にあふれる町への大きな一歩なのではないでしょうか。何事にも「こんにちは」「ありがとう」「おねがいします」などと日常生活での助け合いでもこのようなあいさつから始まっていると思います。そう、このようなあいさつは助け合い、親切のかたまりです。あいさつをすることは言い換えれば親切であふれる町にしたいと言っているようなものなのです。つまりあいさつをしていけばきっと、いずれはこの親切で愛情あふれた町に福島市はなると思います。いや全国、世界中でも、この親切で愛情あふれる町にできると僕は思います。

最後に、僕は悪い行動をしている人は、あいさつをすれば無くせると思っています。僕の見てきた人の中であいさつをしてくれる人は、悪い事をしているのを見た事があり

ません。でもこれはあいさつをしなければ悪い人は無くせません。なので僕は全ての人が返してくれるようなあいさつをして、それが世界中に広がるように、世界中が、この市民憲章である親切で愛情あふれるまちがつかれるように僕はその第一歩を歩み出したいと思います。

「市民憲章作文」

福島市立福島第二中学校

佐久間 ここな

私は「空も水もきれいなみどりのまち」について書きました。東京に住んでいるところが福島に来たときに星を見て

「星がきれい、初めて見た。」
といました。

その次の年、私は旅行で東京に行きました。夜景はきれいだったけれど星は見えませんでした。そこで私は福島に星がきれいな町であってほしいと思うようになりました。

東京に星が見えない理由は、明るすぎると空気がすんでいないからと聞きました。

なので明るすぎず、空気がすんでいる町にするために、住宅を一点に集める、街路樹を増やす、家庭ゴミを減らすの三つのことが大事だと思いました。

まず、住宅を一点に集めることで良い点

は、二つあります。一つ目は、電気を一カ所に集めることができるので山まで電気を送ったり道路をほそうするコストを削減することができるという点です。二つ目は、住宅街から離れた暗いところでは星がきれいに見えるという点です。

次に街路樹を増やすことで良い点は、二酸化炭素が減り空気がすむという点です。

最後に家庭ゴミを減らすことで良い点は、街路樹を増やすことで良い点と同じで二酸化炭素が減り空気がすむという点です。

私にはむだな物を買わない、物を大事にし家庭ゴミを減らすぐらいのことしかできませんが福島にはこのようなアイデアなどを取り組み「空も水もきれいなみどりのまち」にしてほしいです。

この作文を書くまではもともと東京のように夜景がきれいになればいいと思っていました。ですがみどり豊かな福島だから見れるきれいな星があると考えを見なおせる良い機会になったのもっと色んな人に自分の町のことを見なおしてみしてほしいと思いました。

「新しい福島市をつくるために」

福島市立福島第二中学校

佐藤 基理

僕は、福島市を「空も水もきれいなみどりのまち」にするため、どういうことが必要かを考えました。今の福島市は、自然豊かな姿が見られます。しかし、阿武隈川を見てもみすと、河原にごみやレジ袋などが捨てられているのを目にします。それも、何回もです。

僕は、川がきれいなまちであってほしいです。僕は前に、荒川の水質が、日本の中でも上位だということを聞いたことがあります。たしかに汚れている様子がなく、上流の方だと透明といっても良いと思います。しかし、河川によって汚れているところがあるように思います。そのために心がけることは、ごみなどによって水質が悪化するのを防ぐために、川岸や河原などにごみを捨てないように呼びかけること、自分のごみは正しく処理すること、ごみ拾いの

ボランティアに参加することが大切だと思います。今注目される「SDGs」の項目の一つである、「海の豊かさを守ろう」とそう離れていないと思います。河川に捨てられたごみは、下流から海へと流れます。その結果、生態系に影響したり、海水の水質が悪化してしまうのではないのでしょうか。そう考えると、「SDGs」がどれだけ重要なことなのか、改めて考えさせられます。

また、空がきれいになるために考えたことがあります。それは、「ガスなどの排出を抑えることを重視する」ということです。空が汚れていると、地球温暖化を進めてしまいます。今は大丈夫だと考えていると、僕らが大人になったとき、気候変温問題は非常に大きいものになると思います。僕らの住んでいるこの福島市から「SDGs」に貢献できることを期待しています。

以上のことから、「空も水もきれいなみどりのまち」にすることが大切なことだと考えます。福島市には、自然豊かできれいな川が多く見られる一方で、ごみが河原に上げられていたり、ガスの排出などが少な

いというわけではありません。一人一人が市民憲章へ取り組みことができれば、今の福島市を超える、「新しい福島市」ができることでしょう。今は一つずつ行っていくことが、後に大きな影響があると考えます。

「福島の『宝』を守りたい」

福島市立福島第二中学校

鹿野 実那子

福島は、自然が豊かで美しいまちです。自然は福島の「宝」です。

ですが、現在は木の伐採や捨てられたゴミなどで自然が壊れているように思えます。実際、山は木が切られ地肌が見えたり、ずいぶん前からありそうなゴミが落ちていたり汚れている部分も多いです。

私はそんな福島を見ると悲しくて申し訳なくります。

特に、福島から南相馬に行く時に通る霊山道路は自然を感じるいいところなのですが、所々木がなく地肌が完全に見えてしまっていて、悲しくなり目をそらしています。

また、他の道路には車から投げ捨てられたであろう多くのゴミが落ちていて、人を不愉快にしたり、自然を破壊したりする原因を人間がつくっています。

ですが、このような問題は解決できるのではないのでしょうか。

まずは木の植林。伐採してばかりでは自然が壊れる一方です。なので植林を行うといいのではないかと思います。

そこで問題なのは参加者の確保です。参加する人はほんの一部にすぎません。実際、私は生まれて十三年ですが植林は十年近く前に一度やったきりで、その後は全く関心を持たなくなりました。そういう人は多いでしょう。

なので、学校の行事にするなど人が関心を持てるように行えばいいのではないのでしょうか。関わりがなければ行動につながらないと思います。だから学校などで「必ずやる」ということにすれば自然の破壊を止める第一歩へとつながると思います。

次にゴミ箱の設置。道路などに落ちてくるゴミはポイ捨てや置いていくということが原因だと思っています。

そこでゴミ箱の設置を提案します。道路のいろいろなところにゴミ箱を設置することで、今までポイ捨てしていた人が「ゴミ箱に捨てようかな」と思えたり、ゴミを見

た人が「拾ってみよう」と行動したりできたらきっと外に捨てられたゴミは減ると思います。

本当にできるかは分かりませんが、少しでも理想の福島に近づけるようにみんな協力していきたいです。小さなことにも気をつけて自然豊かな福島を目指してみたいと思いました。

「親切で愛情あふれる

まちづくりへ」

福島市立福島第二中学校

鈴木 心海

私は、親切で愛情あふれるまちにするため、ということが必要かを考えました。現在の福島市は、ゆずり合いがなく、とても静かな感じが見られます。

私は、ゆずり合いのある優しい心を持ち、知らない人でもあいさつをするまちであってほしいです。登下校をしている時、横断歩道で止まっていると、車を止めてくれるのは、すごく少ないことが分かりました。これは、法律で決まっていることだから止まっている人がいたら、しっかりと止まっているいろいろな人がゆずり合いをする町になるといいと思いました。私は、運転している人がいそがしいとしても親切にしてゆずることが大切だと思います。

また、近所の人や知らない人でも、えがおであいさつをするようにしてあかるい町

にしたいです。私の近所の人はいない人があいさつをしているが、他の町はあいさつしている人でも声が小さく相手に声が届いていないことが分かりました。これは、あいさつをするだけで明るくなるし、雰囲気良くなったり、うれしくなったりするから町全体が明るくなると思いました。

以上のことを考えてきました。私は、今まで書いてきたことを行くと、福島市がより親切で愛情あふれるまちになると思います。また、一人ひとりが福島市をよくしようと考えることが、いいアイデアを生み、それを実践することでもっといい福島市になると思います。

二つ目は、空も水もきれいなみどりのまちについて書きます。今の福島市は、川の周りがゴミだらけになっていて、そのゴミを拾っている人がいますが、その人が一ヵ月後同じ所に行ってみるとすごく荒れている状態が見られたというテレビをやっている残念だと思いました。このことから、私は車に乗っている人がポイ捨てをしている人を見かけたのでこういう人がどんどんゴミを増やしていると考え、ポイ捨てをして

いる人がやめて、落ちているゴミを見かけた人が拾えばゴミが増えないと思います。以上の二つのテーマで福島県が良くなると思います。

「暮らしやすい町にするために…」

福島市立福島第二中学校

武田 明香里

私は、市民憲章について、親切で愛情あふれたまちの福島市にするために、どのような町にしたいかや、良い現状を継続していくことを考えました。なぜならば、子供からお年寄りの人達まで、快適に暮らすことのできる福島市や、思いやりのある福島市を継続したいと思ったからです。そのことについて考えたことを書きます。

それは、あいさつをすることです。私が所属している町内会では、一年に一回町内清掃を行っています。そのことにより、町の人々の交流が深まり、あいさつをする機会が増えると思います。あいさつをすることによって、笑顔が増えるので、親切で愛情がたくさんある町にできると思いました。

次に考えたことは、植物を植えて、自然を多くすることです。植物を植えれば、植

物が二酸化炭素を吸収してくれるので、酸素の割合が増え、二酸化炭素が少なくなり、お年寄りの人達も気持ちよく生活することができるようではないかと思いました。今は、木も植えられています。伐採されてしまうことがある現状があります。伐採をし過ぎてしまうと、植物が少なくなってしまうと思います。この現状をなくすために、木を植える時には、じゃまにならないかをよく考えてから行動することが大切だと思います。

それに、道にゴミを捨てないことも大事だと考えます。ポイ捨てをしてしまうと、お年寄りの人達や、小さな子供達が散歩をしていたとする時に、道にゴミがあつたら、快適に楽しく散歩ができません。そこで、散歩をしながらゴミ拾いをする人や、注意を呼びかけるポスターや看板を設置すれば、目立つので、道にゴミを捨てる人が減るのではないかということを考えました。そのことを実行することで、より快適に、暮らしやすい町にできると思いました。

改めて福島について考えて、小さなことでも工夫をしたりすれば、もっと暮らしや

すく、親切で愛情あふれた町にできると分りました。

これからは私も見直して、ゴミ拾いやあいさつなど、自分にできることを考えて行動できるようにして、身近な人にもよびかけられるようにしていきたいです。

「空も水もきれいな福島市」

福島市立福島第四中学校

青山 夏生

僕は、この夏初めて「福島市憲章」を知りました。福島市憲章とは、僕たち市民一人一人が心を合わせ快適で明るく住み良い町づくりを進めるためのよりどころとして、昭和四十八年に制定されました。約五十年も受け継がれてきたこの市憲章について何も知らなかったことを、とてももったいないことだと思いました。なぜなら、福島市憲章には僕の大好きな福島市をもっとより良くしていこうとする前向きな気持ち、たくさんこめられていると感じたからです。

僕は、五つの福島市憲章で印象深いのは、「空も水もきれいなみどりのまち」です。僕の住む家のそばには、みどりに包まれた信夫山があります。小さなころには、信夫山に虫をとりに行ったり、公園で遊んだりしました。公園がきれいなのは当たり前だ

と思っていました。ある日おじさん達が、ゴミ袋を持ってゴミ拾いをしているのを見かけました。そこで初めて僕の知らないところで地域の人がきれいな環境を守るための活動をしているということが分かりました。だから僕もみどりを守るためのボランティアに積極的に参加し、福島市の自然を守っていこうと思います。

そして、空も水もきれいなおかげで、福島市にはおいしい農作物がたくさんあります。ですが、最近は農家の高齢化や後継者不足などの問題もあると言われています。さらに外国からの安い農作物の輸入で価格競争も大変だと聞いています。しかし、僕の家近くには農産物直売所があり、新鮮でおいしい野菜がとて安く売られています。例えばとても大きなナスやバターナッツかぼちゃ、生のきくらげ、色とりどりのトマトなど、スーパーでは見かけないような野菜がたくさん売っています。このような所で野菜やフルーツなどを買って地域を応援していきたいと思えます。そして、それらのおいしく新鮮な野菜を食べることが僕の健康な心と体を作ることも役立って

いると思えます。

僕は、福島市民としての誇りを持って、僕の住む福島市を大切にしていきたいと思えます。そして、より良い福島市を作っていくために、自分ができることは何か良く考え実行できるようになりたいです。

「全ての子供達に公平な教育を」

福島市立福島第四中学校

植田 瑞己

僕が「住みよく豊かなまち」を築くために必要だと最も感じた市民憲章は全ての子供に公平な教育を届けることです。

そう感じた理由は、教育を受けることで優秀な人材をたくさんつくれるからです。簡単に優秀な生徒をつくることは出来ません。ですが、そのため格差が大きい社会の中で貧困の家庭などの生徒でも学びの機会を与えられるような福島市に変わって

いってほしいと思います。福島市でも学習支援を多く取り組んでい

ると思います。その中で特に良い取り組みは地域の学校

応援団です。地域の年配の方々が子供達に学習意欲を

高められるようにという気持ちから始まった団体です。地域の学校応援団でとても素晴らしい所

は数多くあります。

ですが、僕はコロナ禍なので改善する所があると思いました。

交流する事も難しいご時世の中では中止している所はたくさんあります。

それでも地域の人々といっしょに学習についての行事をするには広い空間、遠い距離、回数を分けるなどすることが優秀な人材をつくるために必要なのではないのでしょうか？

福島市の予算から学習についてのお金を使用し、無料塾を作るのも良いし、学習用品を無料で配付することが良いと思います。

「住みよく豊かなまち」を築くことは新型コロナウイルスのせいで難しくなりましたが、福島市が負けないように一人ひとりが感染予防することが重要です。

学習意欲を高め、優秀な人材を作ることが福島市にとってのメリットです。

デメリットは予算です。予算は無駄にしないように使用し、そして福島市を住みやすく豊かなまちにすることが一番です。

これから市民全員で新型コロナウイルスに負

けずに伝統を守り、他県から知ってもらえるような取り組みをしましょう。

「このご時世の中で豊かな緑を」

福島市立福島第四中学校

石田 智久

今、このご時世出来る事が制限されているなかで福島のために少しでも役にたたい。自分の住む町だから。新型コロナウィルスにより、「マスク」「密だ」「話さない」など今まであたりまえだった事が変わりました。そのなかで福島市民全員がコロナ禍でもコロナ禍じゃなくても見る所、通る所、それは外です。コロナ禍で外に出る事は減っても無くなる事はありません。

そんな今、暗い世の中、外に出たらキレイな町が広がっていたらどうだろうか。

そんな事を僕は実現できたらと思ひ、そのためにはどのような事をすれば実現に近づけるかそれにはやっぱり一人一人の行動にかかっています。たとえば、ゴミを捨てない。緑を大切にするなどの基本をしっかりと行うこと。ゴミを捨てるなんて事はダメだと、その人も分かっているんだと思うの

ですが、それでもゴミを捨てる人がいるという事は、とても残念な事です。この間、映画を見た帰り、道にゴミ捨て場のゴミがちらばっていました。自転車の人たちは見えてみぬふりをして通ってゆく、僕たち（友達）は、そのゴミをあつめて元に戻しました。スッキリした気持ちと残念な気持ちが半々でありました。

このような事があつた時にまよわず行動できる人に大人になってもできるようにしたいそう思ひながらひろいました。

話は戻って緑を増やすという事は、もつと道の両側に緑がたくさんの木などがあつたらどうでしょう。歩く人、走る人、自転車の人、車の人みんなが目にする所に緑があつたら、今の世の中でも少しでも心が豊かに安らぎができればいいなと思います。それを最終目標にして、緑を増やしていきたいと思ひます。

こんな今だからこそ緑を増やして福島を日本を世界をこのこんらんのうずの中でも、ほんの一瞬でも心の中に「キレイだな」という気持ちがあうまれてくれる事を今一番思っています。

この方法の他にも、色々な人が色々な方法で今を救おうとしています。その一つにこのような事があつたらいいなと思つた事を僕は書きました。ぜひ、ゴミについてなどもう一度考え直していただけるとうれいです。

「もっと楽しい福島に」

福島市立福島第四中学校

二階堂

昊

私は福島市民憲章の中でも、特に親切で愛情あふれるまちをより親しみやすくするために二つ提案があります。

一つ目は、すれ違う人にあいさつチャレンジです。このチャレンジは登下校中や、ペットのお散歩、ジョギング中など外で活動しているときに、すれ違った人へ元氣よくあいさつをするというものです。このチャレンジを通して福島市民憲章を広めると共に、コロナなどのえいきょうで社会とのかかわりが少なくなっているお年よりの方の交流する場が増えてほしいです。また、私はこのチャレンジを小学生のころから実行しています。実行してからは、人にあいさつをする習慣ができて顔見知りも増え、一人でどこかに行っても、人に声をかけられるようになりました。なので、私のような学生にもメリットがあると思います。よ

りあいさつをしている実感わかせるために、一回あいさつすることに色をぬるカードを作っても良いと思います。

二つ目は、ポスターけいじです。これは、どんなことを人に親切にするというのかを書いたり、○○な内容で困っている人には、□□で助けてあげるといような親切ガイドを作りポスターにして、こむこむ館などの公共施設にはってもらう活動です。もし可能であれば、私の町の親切さんとして、なにか人助けした人の写真を出して助けた内容をしようかいしても良いと思います。なぜこの活動を提案するかというと、私が雨の中で下校しているときに、両手に買い物ぶくろを持ってぬれながら歩いてるおばあちゃんがいて、何といつてかさを差し出せばいいのか分からず、そのまま通りすぎてしまったことがあるのでそんな体験をする人を少しでも減らしたいからです。

もしこの二つの提案のうちどちらか一つでも採用されたら、福島が今よりもっと笑顔とあいさつと思いやりがあふれ、みんなが住みたいと思う楽しい町になると思います。

最後に、私は今回の作文を書くまで福島市民憲章を知りませんでした。でも福島にはこんなといい、お手本のようなルールがあり、この憲章をすべて実行できたら、日本のモデル地区になれるかなと感じました。これからは、自分でもできる限り憲章を実行できるように心がけながら生活し、家族にも、いっしょに実行できるような声をかけていきたいです。中でも、交通安全とあいさつ、緑を大切にすることはすぐに実行できそうなので、福島市の一市民としてより良い生活をしていきたいと思っています。福島市民憲章がもっと福島全体に広がってほしいです。

「私の大好きな福島県自然」

福島市立福島第四中学校

大河内 心 晴

私は福島県自然が好きです。私がなぜ福島県自然が好きになったのか。それは、環境を守ろう、関心を持ってほしいという願いがこめられたイベントです。その中で私が心に残っているイベントは三つあります。

一つ目は、星の観察です。分かりやすい説明。そして、あたりまえのように光っている星で、私は、自然に興味を持ちました。

二つ目は、植樹祭です。木が減ってしまっているので小さな木のなえをみんなで植える活動です。この活動では、未来の自然を守っているんだと、関心したのを覚えています。

三つ目は清そう活動です。ごみ拾いを顔も知らなかった人たちと協力して行いました。まったく知らなかった人たちなのに、ごみ拾いをしていくうちに、少しずつながっ

た気がしたり、このような活動が、とても楽しく感じたことを覚えています。このようなイベントに参加し、私は、自然が好きなになりました。他にも、川の音、夕がたの空、朝の風、花のにおいがする福島県自然が大好きです。

そんな私ですが、悲しくなることもあります。そもそも清そう活動は、ごみがあるから行います。自然を守ろうとしている人がいるけれど、ポイ捨てをしている人がいるのかと、悲しくなります。さらに、最近、新型コロナウイルスのえいきょうで、人々が集まってイベントをすることができません。なのでとても良いイベントなのに、協力して行うことができないんです。

でもこのあいだ、散歩のときゆくに落ちていたごみを拾ってくれている人がいました。このようなことをしなくても、出てしまったごみを持って帰るだけでいいんです。ごみをごみ箱にすてるだけでいいんです。このようなイベントがまたできるようになることを願っています。いや、福島市の方たちが、一人一人、自然に関心を持ち、このようなイベントたちがなくなるこ

とと、これからの福島市が明るいまちになることを、心から願っています。

「福島市のあいさつとは」

福島市立福島第四中学校

菅野 結愛

「おはようございます。」

朝、この声をかけるだけで一日のよいスタートがきれるような気がする。家族にあいさつをするのが、あたり前。でも地域の人にあいさつをするのもあたり前。私は、そんな福島市がとても大好きだ。

私は、今まで歩いている時しかあいさつをしないと生きていた。でも今はちがう。地域の人を見かけると自転車に乗っていたとしても、

「おはようございます。」

その一言が口から出てくる。みんなあいさつを朝からすることで自然と笑顔になれる。

「よし今日も一日頑張ろう。」

あいさつをするだけで、こんなに前向きな気持ちになれる。福島第四中学校では、

「あいさつは、どこの中学校にも負けな

い。」

という目標をもっている。だが、在校生一人一人があいさつを大きな声でしているわけではない。正直、部活動の練習試合で

「あのチームのあいさつ、とってもいいな。」

そう思ったことが何度かある。だからこそ、

「四中のあいさつも、あんな風になりたい。」という意志から、まずは自分だけでも大きな声で明るくあいさつをしてみよう。そう思えた。誰か一人でも多くこのような考えを持つ人がいるならば、これからの四中のあいさつは、今までとは打って変わって自慢できる最高のあいさつになると思う。

このように、中学生に限らず小学生や大人など、広い範囲であいさつが広がっていけばいいと思う。あいさつとは、人を明るく、やさしくするはずだ。コロナ禍であり人としやべれない中で、あいさつをする機会が減っているのかもしれない。だとしても、そんなコロナになんか負けずに、いつまでも変わることのない美しい福島市のままでいてほしい。もちろん、こんなに福島市が豊かなのはあいさつだけではな

く、もつとちがうことで豊かなのかもしれない。でも、時代を越えても福島に必要なのは、みんなの元気なあいさつだと私は思う。この元気なあいさつがあるだけで、

「誰もが親切で愛情あふれる平和な街」だと確信している。

「町の一員として」

福島市立福島第四中学校

清野 碧

「とび出したら、あぶないよ。」

私の姉がまだ小学生のころに、近所の〇〇さんがよくかけてくれた言葉です。

私の家族は今の町に、十年位前に家をたてました。ここは父の地元でもないし、母も県外の出身で、私たちにとって初めて住んだ町です。私はまだ小さかったのであまり覚えていないのですが、母は引越してきた時に、〇〇さんがあなた達のことをいつも良く見ていてくれて、助けられたのよ、と言います。

確かに自分が知らない土地に暮らして、すでにコミュニティが整った町に入って暮らしていくのは、緊張するし、不安だっただろうと想像出来ます。私も中学校に入学した時はそんな気持ちでした。

家族のように、私達の事をみていてくれる人がいるというのは、母にとって、とて

も安心する環境だっただろうし、今思うと私もうれしい気持ちになります。

私の住んでいる町は、高齢者が多いように思います。町内会の集まりや、地域合同の運動会でも、おじいさんやおばあさんが参加しています。

先日、母が車で出掛けようとした時、行く先にたおれている人を見つけました。母はすぐに車からおおりて、その人にかけてつきたそうです。顔をみると、いつも私たちを気にかけてくれていた、〇〇さんです。通りすがりの人と協力して、助けたと聞きました。その話をする母が、「顔と名前を知っていたし、どこに住んでいるか、分かっていたから、救急の方にもすんなりと伝えることが出来て、ご近所づき合いの大事さ再認識出来たよ。」と言っていました。たしかに普段は、交流がなくても生活には全く困りません。でも、地震や台風など、災害があった時には協力することが大事だし、私達若者が、高齢の方を助けることが出来るかもしれないと、今回のことや小さいときの経験から学びました。

小学校の時は、視覚支援学校や、聴覚支

援学校の生徒さんとも交流をしました。近所では、白杖をついた人にもよく会います。色々な人がいて、個性を大事にして、お互いを尊重し合う社会になるといいなと思います。小学生の時にみんな、学校の周りの危険な場所を調べたことも、すごく大切なことだと感じています。

私が今出来る事はあまりないかもしれませんが、近所の事を良く見て、知っておくこと、あいさつをして、顔と顔を合わせ、お互いを知ること、そんな事が大事なかなと思います。

「親切で愛情あふれるまち」その中の一人、その中の一族になれるように、意識して毎日過ごしたいです。

「いつでも心は密であるように」

福島市立福島第四中学校

橋本芽依

「親切で愛情あふれるまち」この文章を読んだ時私はある朝のことを思い出した。中学生になってすぐ、いつものように信号を待っていると、

「今日も朝から暑いね。今から学校かい。もしかして中学生かい。」

とおじいさんに聞かれて私はすぐに

「はい。」と答えた。

「そうかい。今日も一日がんばろう。」

と言って話しかけてくれた。私はどきどきする心をおさえて信号をわたった。ほんの少しの間だったけどとても楽しかった。

そういえば、私のまわりには、「おはよう、いってらっしゃい。」などいつでもあいさつしてくれる人がいる。あいさつをされるとなんだかうれしくなる。あいさつはされていやな人はいないと思う。私たちは

の安全のために、朝はやくから信号や交差点などに立って守ってくれるボランティアのみなさんもいる。地域の人々のやさしさは、「やさしくしよう。」と思ってたやさしくするやさしさとは違うと思う。きっと私が生まれるずっと前から続いていると思う。福島市のみなさんでしかできないことがある。「私は福島市のみなさんに育ててもらった。」と言ってもおかしくないと思う。たくさんの人に支えてもらい、助けてもらった。明日からは福島市のちゃんとした一員として、こまっっている人がいたら迷わずに助けに行くことを心がけたい。私は福島市が大好きだ。そしてなぜだかほこりに思う。

私は今まで、「福島市民憲章」というものを知らなかったし、聞いたこともなかった。でも、私は「福島市民憲章」と出会ってよかったと思う。福島市についてアピールできるからだ。好きなものへの愛は一生冷めないと思う。

今の時期はコロナウイルスで人と人がふれ合って協力をするということはできない。ならば私は人間の心の強さをあらわせば

ばいいと思う。ふれ合うことはできなくても心をつなぐればきっと負けない。

最近、AIなどが増えてきて便利な一面もあるが、自分たちの力を出していない悔しさもあると思う。私はあまり厳しいことをいえる立場ではないけど「人間の愛情はどこまでも強くなれる。」それだけは強くさげびたい。そして心と心はいつでも「密」でいられるやさしさと愛情があふれる福島市をつくりたいと心から思う。

「私にとっての大きな一歩」

福島市立福島第四中学校

芝宮 心都

みなさんは「福島市憲章」というものを知っていますか？私はこの作文を書くまで知らなかった。この市憲章は、だれにでもできる当たり前のことだが、福島を安全に快適で住みやすくするにはとても大切なことだと思った。私は五つのテーマがある中で「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」というテーマについて考えてみようと思った。

私は福島市を、お年寄りや子供などみんながお互いをいたわり親切にする。そんなまちにしていきたいと思った。これを見て、「簡単」と思う人もいるかもしれない。しかし、行動で表してみようとするの難しいと感じることも多いのではないだろうか。私も今までは、自分から行動できなかったり、その機会を見つけられずにいた。

夏休み中のある日、友達と部活のため学

校に行っているとその途中で一人のお年寄りの女性が転んでしまったのか、頭から血を流していた。意識はあり、すぐさま私と友達も自転車置いてその女性の元へと急いで行った。最初は出血していて少しとまどったが、私は

「大丈夫ですか？」

と声をかけた。すると

「転んじゃって。すいません。」

と言う女性に、私は勇気を出して

「手をお貸ししましょうか？」

と声をかけることができた。その後は通りかかった方や近所の方にも助けてもらって、無事に女性を家へ送ることができた。最後に女性が私達に

「本当にありがとう。助かりました。」

と言ってくれて、うれしかったし勇気を出して助けて本当に良かったと思った。私にとって初めての人の助けだった。大きな一歩をふみ出せた気がした。この話とは逆に私も助けられたことがある。私が友達とボールで遊んでいた時、側溝にボールが落ちてしまい私達では取れず困っていたら、車で通りかかった男性が、取るのを手伝ってく

れた。この時、私は改めて福島市に優しい人はたくさんいるんだ、と実感した。

私はこれから、よりよい福島市にするために積極的に行動したり困っている人がいたら、例え見知らぬ人でも助ける。これら自分の中で当たり前にしたと思った。助ける側と助けられる側どちらも経験した私だからこそ、親切で愛情あふれたまちにしたいと強く思った。「大丈夫ですか？」などという言葉が自然と口から出て、手を差しのべられる自分になるということが私の大きな目標だ。人を助けるといふ機会はなかなかないと思う。でも、もしそんな時があったらあなたも一歩ふみ出して欲しい。

「知るところから、始めよう」

福島市立福島第四中学校

渡 邊 藍

「福島市民憲章についての作文を書いてきてください。」

思わず「えっ?」と言いきりになった。国語の先生から急に作文を書いてきてほしいと言われたことに対してではない。「福島市民憲章」とは何だ?ということに対して、だ。記憶をたどってみると、頭の隅で小学校の体育館でチャラッと見たような気がしたのと思いついたが、それだけだった。早速、「そんな憲章、あったっけ?」である。妹に聞いてみても、「そんなの知らない。」とのこと。

知らないのに作文は書けないので、要項と共に渡された憲章について細かく書かれたプリントを読んだ。が、何だか変な気持ちになった。福島市は「ごみのないきれいな環境」ではないし、自分も含めて「親切を自分から」している訳でもないし、「隣

近所なかよく」している訳でもないように感じたからだ。あくまで私が感じたことだが、特に間違ってもいけないであろう。現に通学路のポイ捨てはひどいものである。「空も水もきれいなみどりのまち」のなかの「ごみのないきれいな環境」には程遠いのである。

改めて考えると「憲章」とは「大切なきまり」のことだ。となるとこの「福島市民憲章」は福島市民全員がより詳しく知っていないければならないのだろう。

しかし、私の家族は知らなかった!いや、もしかしたら少しは覚えていたのかもしれないが思い出せなかった……つまりその程度だったということだ。

「憲章」を知っている人はどのくらいいるのだろう。知らない人がいれば知ってもらわなければならない。そうしてやっとな憲章のようなまちづくりが始められるというものだ。この憲章のようなまちになったらそれこそ「美しい」まちだろう。道にゴミがなく、人に親切にできる人たちが大勢いて、隣近所なかよく、助け合えるまち……本当に理想だ。

このまま何もしないと、今のままである。理想のまちは理想のまちで終わる。福島市のこの憲章を広め、多くの人に理解してもらい、その人たちがまた別の人に広め、理解してもらおう……それがあってこそその憲章だと思おう。

こんなに美しいまちになるのは来年かもしれないし、再来年かもしれない。もしかしたら十年後かもしれない。私はその「美しいまち」になるまで、自分にできることを精一杯やっていきたい。

「『森林減少』を止めるには」

福島市立岳陽中学校

逸見真央

現代の生活は、昔と比べて便利になった。だが、それにもない、森林減少が大きな問題になっている。二〇一〇年～二〇二〇年の間、世界中で年間約十三万ヘクタールもの森林が失われている。森林減少は、私たちの生活にどのような被害を及ぼすのだろうか。また、森林減少のリスクが高まるのを防ぐために、私達に何ができるのか。

森林減少のデメリットは大きく二つある。

一つ目は、大気汚染だ。植物は、酸素を排出したり、有害ガスを吸収したりして、環境を無害化する働きがある。森林が減少すると、水や空気、土が汚くなる。植物の生長が妨げられたり、二酸化炭素の量が増えたりして、ますます森林が減少しやすくなる。

二つ目は、地球温暖化だ。森林減少によっ

て吸収する二酸化炭素の量が年々減って、大気中の温室効果ガスの濃度が上がり、地球温暖化につながってしまう。この状態が続くと、海水が蒸発して降雨量が減少し、砂漠化が進んでしまう。これも、水分が足りず、木が枯れて森林が減少する。

このままでは森林の減少は、止められなくなってしまう。これらの原因を作っているのは私達である。特に問題なのは、木の使い方を間違えているということである。使い方を誤ると、森林減少につながってしまう。

そこで私達は木を効率的に使用していかなければならない。木工品は、空気中の二酸化炭素を木として固定する働きがあるため、木材を住宅や家具に利用することは空気中の二酸化炭素を減らすことにつながる。だが、木が吸収する二酸化炭素の量は時が経つにつれて減っていく。だから、森林減少を防ぐとして、そのまま森林を残しておいても環境は悪化する一方だ。そのため森林を有効に利用して、新しい木を植え続けなければならない。そこで、木以外の材料で作られているものを少しずつ減ら

し、木製のものを、増やしていかなければならない。例えば、火に強い木材ができるように品種改良して、コンクリートで作られている建物を木造にする。コンクリートよりも木のほうが地震には強く、木材の消費が進んで林業にもお金が回り、森林減少を止めるための取り組みを進めることができると思う。

現在の人々は便利さだけを求めて、プラスチックやコンクリートや金属などを使い続けている。だが、木は金属よりも軽くてぬくもりがあり、コンクリートよりもしなやかで加工しやすい。それだけでなく、森林は空気や水をきれいに保ち、魚の生存環境を整えたり、土砂災害を防いだりすることができるといえる。私達は、森林減少に悩まされている現状を自覚していない。木工品を使うことが森林減少を止め、自然を保護することにつながるということを意識しなければならない。

「きれいな福島のまち」

福島市立岳陽中学校

安 斉 結 衣

私は、福島市民憲章の、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」という項目が、とても良いと感じました。荒川が流れていたり、美しい山が見える福島にはびったりだと思ったからです。これを実現するためには、福島市民一人ひとりが美しい自然について考え、自分からまちをきれいにしようとするのが大切だと思います。

私の中学校の近くには、荒川が流れています。登下校時にいつも見えますが、いつでもきれいです。これには日ごろからごみひろいをしたり、荒川を守っている人がいるのだと思います。天気の良い日には、あづま山や信夫山が見えます。これは空がきれいな証拠です。ここで疑問が生まれません。もう目標は達成できているのではないか。そういう風を感じている人もいます。

いますが、本当にそうでしょうか。福島の自然を守っているのは福島市民全員ではなく、一部の人たちです。私は福島市民憲章を見るまでそのことを考えたことはありませんでした。そもそも福島市民憲章を見たことが無い、という人もいます。そこで私が提案するのは、学校や職場でポスターをはったり、実際にごみひろいなどを行うことです。ポスターだけでは見るだけでもない人が多くと思います。ごみひろいを体験したりすれば、まちをきれいにしていくことが楽しいと、思ってくれたり、もちろんまちもきれいになり、良いことがたくさんあります。市民一人ひとりがきれいなまちについて、考えるきっかけになれるかもしれません。これを実現していくのは、とても大変だと思いますが、行動しなければ必ず、今の美しい自然は壊れていってしまいます。福島市民のみならず、そんなことがあったらとてもかなしいと思うはずです。だからこそ、一人ひとりが「空も水もきれいなみどりのまちをつくる」ことを、大切にしていってほしいです。

いまずぐに、結果はでないかもしれないかもしれませんが、いつか必ず「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」という目標に、福島市民全体で取りくめる日が来ると思います。私も、言うだけではなく、しっかりと行動します。ごみひろいなどを通して、福島のきれいな自然を壊さず、守っていきけるように、一生懸命がんばっていききたいです。

「水がきれいな荒川」

福島市立岳陽中学校

鵜川 琴白

福島市内を流れる荒川は、国土交通省により、十年連続で「水質が最も良好な河川」に選ばれているそうです。

家の近くの荒川で水の中のをのぞき込むと、川の中にある小石がはつきりと見えま

す。なぜこんなに、十年連続で「水質が最も良好な河川」なのか調べてみたところ、良好な河川環境を保全、再生するため、地域住民、市民団体が主体となって、河川周辺の清掃活動を行っているそうです。また、河川愛護月間と定め、河川愛護運動を実施しているからだそうです。

国交省の調査は、全国の一級河川を対象に実施されています。調査では、水質の代表的な指標である「BOD」（生物化学的酸素要求量）を計測します。

このような記事を読んで私たちにもでき

ることはないかと考えました。毎日の生活でちよつと気をつかうだけで川に流れこむ汚れの量はぐつと減るそうです。例えば、油汚れなどは紙で拭いてから洗うこと。シャンプーや洗剤などを使いすぎないこと。三角コーナーやろ紙などで、食品くずが流されないようにする。など他にもいろいろあります。私も今日からシャンプーの使いすぎに注意しようと思いました。

逆に荒川の水が汚かったらどうなるのか調べてみました。魚が住めなくなったり、水道の水が使えなくなったり、農作物が作れなくなってしまうそうです。

BODが一〇をこえるような汚い川では、イトミミズやあかむしなど、汚いところに住む物しか生きられない、死の川になってしまうそうです。私は、幸せだと思いました。

今まで「福島市民憲章」というものなど夏休み前まで、あることは知りませんでした。ですが、身近にある荒川のことがかくわしく知れたのでよかったです。これを機会に水質が汚染しないように自分ができることを心がけて生活しようと思いました。こ

れからも「水質が最も良好な河川」に選ばれるように地域全体で取り組むことが大切だと思いました。

「美しい自然のある福島へ」

福島市立岳陽中学校

薄 祐 麻

今回、私はこの作文に取り組みまで福島市民憲章についてあまりよく知っていませんでした。しかし、これをきっかけに、福島をより良くするにはどうしたらいいのか考えてみることにしました。

その中でも私が特に注目した市の取り組みは、ゴミ拾いボランティアでした。毎年多くの人がボランティアとして参加し、福島的美しさを保っていました。また、競技としてより多くのゴミを拾い合う取り組みや、小中高生も協力しているという事例があったりと、ゴミ拾いだけでもたくさん取り組みが行われていました。これは、市民憲章の一つでもある、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」という目標をみざしている活動であるということでした。

私もボランティアとして活動してみたい

と思いましたが、何から始めればいいのか全く分かりませんでした。そこで、身の周りにあるゴミから拾ってみようと思いました。小学校でも、日常の中で大切なことだと教えられていましたが、改めて思うと自分では勇気がなくて行動できていなかったと実感しました。身の周りのゴミを次々と拾うと、なぜか部屋の整理整頓がしたくなったりと、やる気が出てくるようにも感じるようになりました。また、ゴミの分別にも取り組んでみると、同じくやる気が出たり、すっきりした感じがしました。このことから、ゴミ拾いやゴミの分別は、自然環境をきれいに保つだけではなく、人の心もすっきりすることができると気づけました。

今、世界ではコロナウイルスにより大変な事態となっていますが、環境問題も同じく大きな問題として影響が出ています。これからの未来のためにも、環境問題についてより気をつけなければなりません。そのためには、まず自分の日々の暮らしについて見直すことが大事だと気づけました。最初から大きなことをするのはなく、自分

の身の周りのことについて見直し、小さなことから段々始めていくことが大切で、自分の街を救うこともできます。それが、わたしたちの街である福島を、美しい自然でいっぱい未来へ繋いでいけるヒントなのかもしれません。

「緑豊かな福島市自然」

福島市立岳陽中学校

佐藤 未彩希

福島市には、緑豊かな自然がたくさんあります。私も福島市は大好きです。家から見える、吾妻小富士は雪が降り春に近づくと雪うさぎが見えます。雪うさぎは春の訪れを教えてくれるような福島のシンボルだと思います。自然に触れ合えば「綺麗」「美しい」という言葉では表す事の出来ない何か特別な感情が湧いてくると思います。そんな福島市では四季ごとにどんな景色を見ることが出来るでしょう。

まずは「春」みなさんは、春といえば何を思い浮かべますか？私は桜です。そんな桜を見る事の出来る場所が花見山だと思えます。名前からして桜などを楽しめそうな場所だと思います。私は、小さい頃から毎年花見山で家族とこの山に登り桜を見てきたと思います。私の小さい頃からの思い出が詰まった大切な場所だと思っています。

次に、「夏」です。夏はとても暑いので水辺に行きたくなりませんか？私は小学三年生の頃家族と高湯不動滝という場所に行きました。滝に着くまでは山道を歩いて暑かった記憶がありますが、滝に着いた時は、水辺までは近づけなかったけれど水しぶきでとても涼しかったのを覚えています。大変だった時こそ達成感が凄いなと思います。

続いて、「秋」です。秋といえば紅葉ですよね。私はあづま総合運動公園のいちよう並木の景色が大好きです。秋は暑くも寒くもない一番過ごしやすい季節だと思います。摺上川ダムで紅葉を見るのも水面に反射して輝く紅葉がとても幻想的でした。秋は食欲の秋という位なので、景色を見ながら何かを食べるのもいいですね。

最後に「冬」です。やはり冬といえば雪ですよね。冬は何処でも雪が降るので場所などは関係なくとっても楽しい季節だと思っています。

福島市の自然豊かな環境は、とても美しいという事がわかりました。この景色を見る事の出来る福島市が大好きです。

「みんなが快適に過ごせる福島に」

福島市立岳陽中学校

宮崎 湖羽

私は、「空も水もきれいなみどりのまち」という言葉を素敵だと思いました。そして、福島をそういうまちにしたいです。

今、私たちが住んでいる福島のみちでは、私が学校に登校したり、下校している道だけでなく、タバコの吸い殻やパンの袋などゴミがたくさん捨ててあり、汚くなっています。他にも、食事をした後に食器を洗って出る油や、お風呂やトイレを使うことでも、川や水が汚れる原因となっています。また、自動車から出る排気ガスや、工場の煙突から出るけむりなどが原因で空気も汚くなっています。最近では、あたり前のようになってきていますがこのようなことが原因で、空も水もだんだん汚れていってしまうと私は思います。それでは、みんなが快適に過ごすことができるような、「空も水もきれいなみどりのまち」にはなりません。

せん。

そこで私は、一人一人が少しでも意識して気をつけることが大切だと思いました。意識するだけで少しは変わると思うので、少しずつ福島のみちを変えていけたら良いと思います。そして、排気ガスを出さないように、自動車も、できるだけガソリンを使わずに電気で走る自動車にして、少しでも空気を汚さずに、きれいなまちになっていけば良いと思います。

そして、みんなが快適に過ごせるようにするために、ゴミを道や川に捨てるようなことは絶対しないようにして、もしゴミが落ちていたら、自分からすんで拾って捨てるのが大事だと思います。このようなことをみんなに呼びかけて、ボランティア活動を行うことも大切です。私は、学校に登校する際に、ボランティアで、ゴミを拾っている人を見かける時があります。私はその様子を見て、とてもありがたいな、と思いましたし、自分のまちを少しでもきれいにしようとしている人もいるんだな、と思いました。私は、自分ができることから始めていくことが大事だと感じました。生

活の中での問題は少し意識して、工夫すればよくなることばかりだと思います。皿を洗う時も、汚れのついた食器やフライパンなどは拭き取ってから洗ったり、お風呂では、シャンプーやリンスを使いすぎないようにするなど、工夫をしようと思います。こういう小さなことから、実行していくことが大切だと思います。

私は、これから自分たちで自分たちのまちをよくしていけたら良いと思っています。そして、今すぐには無理かもしれませんが、福島が「空も水もきれいなみどりのまち」にできたら良いです。

「密にならないように」

福島市立岳陽中学校

丹 治 苾 太

夏休み中、平日の午前中ずっとおじいちゃん家に行っていました。いっしょにニュースを見ながら、昼ご飯を食べていると福島県のコロナ感染者が二百三十人と、一日の感染者が最多となったときがありました。

そして、おじいちゃんが、「こんなに増えていったら、周りも自分もコロナにかかる可能性が大きくなってきたし、もっと移動が制限されちゃうな。」と、言っていました。自分も「そうだなあ。」と思いました。自分の誕生日も近かったので、そのニュースを見たときとてもガッカリしました。部活も八月中は、対外試合が禁止になってしまいました。不幸なことが続きました。このように、この地域での活動も減っていると思う。周りの人達と活動してしまうと、クラスターが発生して、自分にも周り

の人にも迷惑がかかってしまう。このような活動は、昔から地域のみなさんが大切につくりあげてきたものだと思う。新型コロナウイルスの影響でどの町でもこういう活動が減ってしまっています。この活動を復活させるためには、一人一人が、不要な外出を控えたり、三密を避けたり、マスクをつけたり、手洗い・うがいをしたりそういう風にして、感染対策を徹底することが、とても大切だと思う。

僕は、福島市がコロナの感染者だらけにならないように密にならないようにするためにポスターを掲示すると思う。人がよく集まる駅やコンビニ・デパート・学校などに掲示すれば、コロナにかかるの怖いな、家に帰ろうと思ってくれる人が増えて、密を避けることができます。そうすれば、コロナにかかる人が減ると思います。

そして、一人一人密をさけるように生活をすれば、この福島は、今よりももっと安心安全で、誰から見ても福島がいい町だとなるような町になるだろう。

「福島の美しい自然」

福島市立岳陽中学校

渡 辺 夏 帆

「福島市民憲章」というものを、私は今までまったく知らなかった。何を書こうかと悩んだ末、まずは手始めに福島市について調べてみようと思った。そうして、福島市について調べていくうちに、福島市はとても豊かな自然に囲まれた市なんだと気付いた。雪うさぎを見られる吾妻山、日本国内でもトップクラスの水質をほこる荒川など、その自然はとても豊かで美しい。そのことを改めて認識した私は、この豊かで美しい自然を後世にも残していきたいと思っただ。そして、この事を実現させるために今からできることは何だろうと考えた。

『自然を汚すもの』。それは何だろうと考えたとき、私なら真っ先にゴミを思い浮かべる。『美しい自然』を残していきたいのなら川や道ばたにゴミを捨てないということをしなければならぬだろう。そのため

には、何ができるか考えてみた。まず第一に、自分がゴミを捨てないようにしなければならぬ。故意的に捨てるようなことはもちろんしないが、たまたまバッグやポケットに入っていたゴミが落ちてしまう、ということも、起こらないようにする努力をしなければならぬ。そのために、私はゴミ用の袋を持ち歩くようにしようと思う。袋に入っていれば、ゴミよりも多少大きくなり、目立ちやすくもなるので、バッグやポケットから落ちにくくなり、万が一落としてしまっても、気付きやすくなるだろう。

第二にゴミを減らす努力をしなければならぬだろう。紙の無駄使いや過剰包装など、これらは、自然の破壊や汚染などにもつながってきてしまう。これらのことを防ぐためにできることとして、私は二つの事を実践している。一つ目は、絵を描いたり、文を書いたりする時、片面で失敗してしまつたら、もう一面に書くようにしている。二つ目は、エコバッグを持ち歩いて、ビニールの袋などをもらわないようにしている。これからも私は、さまざまな工夫を

して『美しい自然』を守っていききたいと思う。今まで私が書いてきた内容は、国連加盟国が二〇一六年から二〇三〇年までの十五年間で達成するために掲げた十七の大きな目標と、それらを達成するための具体的な一六九のターゲットで構成された『SDGs』のいくつかに関わってくる。その中でも『住み続けられるまちづくりを』、『陸の豊かさを守ろう』は、とても深く関わっている。福島市の美しい自然だけでなく、全世界の美しい自然も残っていくといいなと思う。

「私が知る福島市」

福島市立渡利中学校

佐藤 真伸

福島市のことを、わたしは、よく知らないと思っていた。でも、この作文をきっかけに福島市を調べてみると、ほとんどの観光所や自然を知っていたし、おいしい物も知っていた。そしてよく考えてみると、福島市の魅力はものすごい数あることに気づいた。福島市は全国にほこれる街だったのである。

福島市には、自然がある。福島市を見渡せる信夫山はもちろん、阿武隈川の中流が流れている。私が住む渡利には、全国、世界からも観光客が訪れる花見山がある。緑と花があふれる福島市だ。

見て楽しむ福島市もあれば、食べて楽しむ福島市もある。お盆に、祖母の家に行くため、飯坂の道を通ると、桃の果実がたくさん実った木が向こうの方まであるという光景を目にする事ができる。そこで私は夏

を感じるのだ。桃の他にも、ぶどう、梨、りんご、さくらんぼなどさまざまな果物に囲まれ、私は育ってきた。私はまだそのおいしさを知らないが、福島市には八年連続金賞を受賞しているお酒がある。また、私の学校には、金賞の水道水がじゃ口から出てくる。水もきれいな福島市だ。

最後に、とにかく楽しい福島市だ。わたしの一番好きな事、それは祭りだ。福島市には、最近リニューアルされた「わらじまつり」があり、毎年盛り上がりを見せているが、わたしが参加する祭りは「稲荷神社例大祭」だ。こちらも屋台が立ち並び、毎年たくさんの方が訪れる。ただ、わたしは、祭りは参加しないとおもしろくないと思っているので、母が昔住んでいた大町の一員として、一年で最も楽しい時間を過ごしている。この祭りでは、各町内の山車が順にたいこをひろうする連山車というものがある。各町内はそれに向けてたいこの練習を重ねるのだ。若者がどんどん盛り上げ、輝くが、そこには、裏で準備を進めてくれた大人がいる。この祭りに参加する者は、全員が祭りが大好きである。そんな全員の想

いが三日間に込められた最高の祭りなのだ。わたしは、この祭りで、地域みんなが笑顔になればいいと思う。

わたしが知っていた福島市は以上だ。みんながそう思うか、まだつらい経験をしていないだけなのかは分からないが、私はこの福島市が住みやすい。これからこの福島市をもっと知っていききたいと思う。

「自然を愛し大切に…」

福島市立渡利中学校

高野 優 大

僕たちは、いろいろな環境に恵まれて
います。例えば、美しい花見山やおいしい水、
果実たっぷりの果物などです。こんなに、
有名な事があるのは環境状態が良いのだと
僕は思います。しかし今の時代ゴミを捨て
る人が増え問題になっています。そうなる
と、美しい自然が壊れ、心が豊かになるこ
とができません。だから、そうなる前に自
分たちが出来ることを考えていく必要があ
ります。僕がこう思い始めたきっかけがあ
ります。

それは、僕が小学校の時花見山の観光案
内をした経験です。観光案内をする前に、
本やインターネットで花見山のスポットが
驚くほどありました。その時に僕は、この
自然を愛し大切にしている人がたくさんい
るのだと、気づかせられました。また、こ
の愛された自然を守っていかなくてはなら

ないと思い、僕たちができることを考えま
した。

例えば、ゴミを川や道路などに捨てない
ということ。この例は、当たり前ですが
ですがゴミを捨てる人がいます。ゴミを川
に捨てると水が汚くなり、僕たちの飲み水
だつて汚くなってしまうのです。結局僕た
ちが悪い事をすれば、自分に返ってきてし
まうのです。ですので、ゴミを捨てず環境
を良い状態で保つことが、大切だと思いま
す。

また、僕はボランティアに参加すること
も大切だと思います。

そう思ったきっかけは、また僕の経験か
らです。

それは、地域でゴミ集めのボランティア
に参加したときです。ボランティアに参加
した最初は、めんどくさいという気持ちがあ
りました。しかし、ゴミを集めている時
に思いました。ゴミ集めのボランティアに
参加することで、人と人との会話が深まっ
たり、人に感謝されたり、さらにきれいな
町づくりになることを今、僕がしているの
かと思うと胸がいっぱいになりました。そ

の時に、僕は自然が好きだからこのボラン
ティアに参加しているのだと思いました。

この二つの事例が、僕が体験した自然を
愛していることです。ふだん、何げなく参
加している行事やボランティアは大きく広
げてみれば環境を良い状態に保つエネル
ギーだと僕は思います。なので、自分がで
きることを探し、大きなことをやろうと思
わず小さくてもそれを実行にうつすことで
自然の良い状態が保たれると僕は思いま
す。

「緑豊かな町をみんなで守ろう！」

福島市立渡利中学校

前田 琉聖奈

私は、福島市が大好きです。なので、福島市がもつとすごしやすい環境になつてほしいと思います。そのために自分は何ができるのか考えてみました。

福島市は自然にかこまれています。たとえば、花見山や吾妻山、弁天山などがあります。花見山は四季が変わると咲く花も変わります。春だつたらきれいなピンクの桜。夏は、花ではないけれど、甘くておいしいフルーツ。秋は、きれいな赤色のもみじ。冬は、冬にしか咲かないオトメツバキなどが咲きます。福島市のみりよくはそれだけでは、ありません。温かくて心もいやされる温泉。さつきもあつた甘くておいしいももやし、りんごも、あります。福島市にある昔からある文化物は、「土湯こけし」などがあります。ほかにも福島市は、いろんなみりよくがあります。福島市観光キャ

クターのかわいい「ももりん」などがあります。でも福島市は、自然ゆたか、みりよくがいっぱいあるのですが、いろんな人たちが自然はかいをしています。きれいな公園にゴミを捨てたりしてしまっています。

なので、私の家では、さい利用できるものは、作りかえ、またつかっています。お米のとき汁は庭にそだてている野菜の根本にかけてあげて栄養ざいのかわりにしたり、水道に油を流したら、自然に悪いので、油は流さず、何回も使える用の入れ物にほぞんして、使えなくなつてきたら、油をかためるような粉を入れて、かたまつたら、小さいふくろの中に入れて、捨てています。自然はかいをふせぐために、ほかは何かやることはないのかと調べたところ、ほかにもいろんな事が出てきました。『ゴミは家に持ち帰つてから捨てる。』、『町の人々と協力し、ゴミ拾い活動をする。』、『ペットボトルなどは、リサイクルゴミに出す。』などがありました。私も、もつと工夫しながらゴミの分別をしたりしながら、もつといい福島市になつてほしいと思います。そして、県内のほかの市内の人や、県外の人

たちなどに、良さを知ってほしいと思います。そうすれば、福島市は、笑顔が増え、もつとにぎやかな町になると思います。

「福島の明るい未来のために」

福島市立渡利中学校

岡崎 純 弥

ぼくは、この町、福島市の自然を大切にすることを考えました。

まずは、ぼくの近くの環境です。ぼくの近くは、緑が多く割ときれいだと思います。しかし、学校から帰ると少しゴミが見当たります。ゴミ捨て場でもカラスがふくろを破いてしまいゴミが出てしまい、少し環境が悪くなってきました。まず、ぼくが直したらいと思うことは、ゴミ捨て場をあまりではなく、ケースみたいなものがないと思います。そしたら、カラスがゴミを出したりもしませんし、環境もよくなると思います。

次は、山や森の自然です。ぼくの家の近くには、山があり、生き物もたくさんいます。しかし、山の入り口付近には、少しですが、ゴミがあります。ゴミがあると、汚く感じますし、気分が悪くなります。なぜ、

ゴミは、その辺の道などに捨ててしまうのか。ぼくも正直、昔に何度か、その辺に捨てたことがあります。昔までは、全然考えていなかったけど、今は、インターネットなどで調べて見ると、たくさん人の協力です。町のゴミが少しずつ減っていつていることが分かりました。このことを考えると、道にゴミを捨てることは、たくさんの人にめいわくをかけているのだと分かりました。ゴミは、ゴミ箱へ捨てればいいことなので、これをみんな守れば、ぼくはポイ捨てが減っていくと思います。

最後は、自然を守ることです。けどどうしたら自然を守れると考えたところ、ぼくが考えられるのは、環境破かいから守ることやゴミを捨てないことです。環境破かいをしてしまうと、次々に植物たちが消えてしまい、福島の明るい未来も消えてしまいます。この辺では、あまり環境破かいがされていなくても自分たちが心がけなければいけません。自分が知らない間にこわしているかもしれない。一人一人心がければ、美しい福島の自然がこの先、何年も生き続くとあります。ぼくたち人間にとって、自

然は命です。これからは、家庭の木や花をいっばいにすれば、ぼくたちの未来も明るくなります。

みなさんも自然を乱暴に扱わずに一人一人ていねいに扱う心がけをすれば、自然も未来も明るくなります。

「笑顔あふれる福島市にしよう！」

福島市立渡利中学校

齋藤 幸奈

私たちが住んでいる福島市は自然が豊かでとてもいい所です。今旬の果物はももやなし、ぶどうなどがあります。これからはかきやりんごなどが旬です。そして春にはさくらんぼなどが食べごろです。福島市はほぼ一年中果物がたべられます。福島市の観光スポットでも自然を利用している場所がたくさんあります。花見山公園や土湯温泉など自然が豊かだからこそその観光スポットです。自然をいかしたスポットがあるのですが、最近道におちているごみがきになっていきます。せつかく豊かな自然があるにもかかわらずポイすてをする人がいます。私も何度かごみひろいをしたことがあります。ごみをひろうたびに悲しい気持ちになりました。ポイすてをしている人は福島市の人とはかぎりません。この問題は福島市だけのことではありませんがこんなポ

イすてをする人を少しでも減らすために私はごみ箱を道路ぞいに設置したらいいと思いました。ポイすてする人は家に持ちかえるのがめんどくさかったりすると思います。なので車にのりながらもすてられるようなごみ箱を作ればいいと思います。そのごみ箱に入ったごみは道路ぞいに設置したことによってごみの回収をしやすくする効果があります。ポイすてする人を少しでも減らしてもっともつときれいな福島市にしていきたいです。そしてこの自然をいかしてきれいな環境を保っていけるようなし設を増やしていけるといいと思います。例えば、いまはやりの自然をいかしたキャンプ場を作るといいと思いました。キャンプ場にあることによつて今のようなコロナがある中でも感せんリスクを少なくしつつお客さんを楽しませることができます。このようなし設を作れば福島市に住んでいる人だけでなく市外の人にも利用してもらえると、福島市の良いところを知ってもらえるので一石二鳥です。福島市の良いところをいかし、自然豊かで笑顔あふれるような所にしていきたいです。

「阿武隈川をもっときれいに」

福島市立渡利中学校

本 田 美 羽

私達が通う渡利中学校の近くには、阿武隈川があります。自然豊かな感じがして、とても良いのですが、そんな阿武隈川も汚染されてしまったり、外来種がいたりといった問題もあるようです。

まず、川の汚染についてです。工場からの排出だけでなく、家庭からの排出も原因になっているようです。排出されているものは、環境に害があるもの。川が汚れてしまっただけと思う人もいるのかもしれないけれど、人間以外の生物が生きていけないようになってしまう可能性もあります。そして、最終的には私達人間にも害を与えてきます。私達自身が私達に害を与えてしまっただけは何も良いことはないと思います。

なので私は、家庭でじっせんでできることを考えてみました。それは二つあります。食器用洗剤などの、台所の排水口に流すも

の量を考えることと、川のごみを減らすことです。

洗剤などに関しては、使用量を食器を洗ううえでの必要最低限の量におさえることが重要だと思っています。

川のごみに関しては、私自身がポイ捨てなどのごみを増やすようなことをしないのはもちろん、もし地域で川の清掃活動などを行っていたりするのなら、積極的に参加するようにすることが大切だと思います。

次に、外来種についてです。阿武隈川にも様々な外来種が生息しているようです。私にできることは、これ以上増やしてしまうような行動をとらないことです。なので、外来種に限らず、生き物を飼うときには、最後まで責任をもって飼い続けられるかを真げんに考え、飼ったからにはそれをじっせんするようにしたいです。私はもちろん、私以外の人達もこのことができるようにすること、外来種を増やさないと同時に、捨てられてしまう動物を減らすことができたらいいな、と思います。

この作文を書くうえで阿武隈川をよりきれいにするための方法を考えました。これ

らの方法は、全て今まで学校で学んできたことに基づいています。なので、学校でも、学校以外の場所でも、人の話をよく聞くことでこういった知識を増やし、たくさん人の協力が不可欠になりますが、私達が住む福島をよりよい場所にしていけたらな、と思います。

「自分達の文化を知るために」

福島市立渡利中学校

山口 雅人

僕が考える教育と文化を尊び希望に輝くまちは、市民一人一人が市の文化や文化財を知ることが大切だと思っています。なぜなら、自分の市に、自分の身近に代々伝わってきた文化や、国や県、もっと大きくいうと、世界から認められている文化財があるということを知るときつと、市民が自分の住む地域にほこりを持てるからです。それに、その他の地域の人も、自分の地域にある文化の共有や、文化財のしょう介などといった豊かな人間性と、豊かな知識を得ることが出来ます。そして、家族や学校、そして地域の人々が自分の住む市へのほこりをもつことによって社会全体が一体となることができるかと思ったりしたからです。

この市を、教育と文化を尊び希望に輝く町にするには、文化や文化財を学ぶことが

大切になってくると考えています。そのために、一から三時間を、文化や文化財を学ぶための時間や、本当に、見たりさわったりして、感じることでできる時間にしたらいと思います。そのためには、国語でも数学でも、どの教科でも早くすすんでいる教科があれば、その時間をけずってでもいいと考えています。それにもちろん総合や、学活の時間をつかってもいいと思いませんし、道中にある自然などを楽しみ友人とのコミュニケーションの場となったり、学校で勉強ばかりしている身体や脳を自然にふれさせることで、リフレッシュさせることによつて、また勉強をがんばろうという気分にかけてくれるのではないかと思ったりからです。

それに、文化を知ることによつて、先人たちの考えを知ることができ、これからの、生活に役が立たないことでも、自分の頭に少しでもきおくしているだけでも、むだにはならないと思いますし、自分の市をまとめてみようなどといった授業の間でも他の人より早く終わることができ、他の勉強も効率よく進めることができます。

最後に、僕も含めた、現代の小・中学生は、スマートフォンやゲーム機器の進化により、自然や市への興味は、あまり無くなっていると思います。ギリギリ自分は、空とか雲の動きとか見ますが文化財や文化のことは、まるで興味がありません。

ですが、きつと自分達が住んでいる地域や、市の歴史や文化にふれることは、脳のリフレッシュにもなるし、ある程度の興味はわくのではないかと思っています。

そして、これらのこと少しでも参考にしたい、福島市を希望に輝くまちにしてくれたらうれしいと思います。

「福島をよりよくするために」

福島市立渡利中学校

大宮 怜 禾

福島はとても安心しておちつける場所だと私は思います。みどりがとてもきれいでホッとします。学校から帰っているとき知らないおばあさんが笑顔で

「おかえりなさい。」

と言ってくれます。心がとても温かくなります。私はそんな安心しておちつける福島がずっと続くといいなと思っています。

しかし、今福島はゴミの量がとても増えています。ポイ捨てされたゴミをよく見かけるようになりました。それに自分からあいさつをしても無視して通りすぎていってしまう人がいました。私は少し悲しくなり、あいさつしたのがはずかしくなりました。ゴミのポイ捨てが多い、あいさつがなく、さびしい福島にはなってほしくないです。どうしたら明るく、ポイ捨てもなくなり、きれいなみどりのまちになれるのか、

福島市をよりよくするため自分ができること、みんなでやっていきたい取り組みがあります。

一つ目はポイ捨てをなくす取り組みです。なくすためには一人一人がポイ捨てをしなければいけないのですが、やはり、簡単にはなくならないと思うので、ゴミぶくろを持参し、ゴミをすぐに捨てられるようにして、ポイ捨てを減らしたり、町などに捨てられているゴミを拾って回収する取り組みなどを積極的に参加すれば良いと思います。ゴミを拾って回収と聞いたら、なんだかめんどうだなと思う人がいると思うから、ゴミ拾い大会、みたいな感じで多くゴミを拾って町をきれいにできた人たちに景品やプレゼントなども用意したら、おもしろそうと思ってくれる方が参加して、楽しくゴミ拾いができると思います。

何も考えず、皆がやっていることだからといってポイ捨てをする人が増えてしまうと、福島のきれいなみどりが汚れてしまいます。美しい自然を皆で守っていききたいです。

二つ目は、あいさつをする人が少なく

なってきたことです。あいさつをするという気分になりませんか。あいさつをかせしてもらったとき、うれしい気持ちになれるのです。あいさつにはすばらしい力があると私は思います。だから皆があいさつをしたら、笑顔があふれて今よりも、もっと明るい福島になると思います。その明るい福島を目指すために、あいさつの力のごさを知ってもらおうポスターや学校内でもあいさつを積極的にするため渡利中では生徒会の方々が朝、昇降口であいさつ運動を行っています。そのおかげであいさつをする人が増えたのです。

知らない人でもあいさつをしたら、その人と少しですがつながったと思いませんか。たくさんの方がたくさんの人にあいさつをすれば、たくさんの人とつながることができます。自然豊かで笑顔あふれる福島にしたいです。

「優しい心、親切な心」

福島市立渡利中学校

関 美羽

私は、福島市にいい所がいっぱいあると思います。例えばみどりがたくさんありきれいな場所、物がたくさんあります。でも、よくない所もあると思います。交通事故などが多いことなどです。なので私はよくないことがなくなり子供からお年寄りまで住みやすい福島市。事故、事件がない福島市になればいいなと思っています。そのためにもどういふことをすればいいか考えました。

私は、福島市民憲章を見ていいなと思ったのがあります。それは「親切で愛情あふれるまち」です。私が小学生のころおじいちゃんの家に向かっている時に道に倒れているおじいさんを見つめました。そして車からおおりて駆け寄りました。そしてみんなで人が集まってきました。そして救急車が来てそのおじいさんははこばれていきま

した。そして車にもどってある事を思い出した。人がすでにいるのに駆け寄る人がこんなにいることが驚きました。みんな親切だなと思いました。私が、もし一人だったら大人の人に声をかけて自分でもできることをしていききたいです。それとあいさつをしていききたいです。私は、あいさつをする顔がでてくると思います。なので積極的にあいさつをして笑顔があふれ「親切で愛情あふれるまち」になると思います。そういうまちになると事故、事件が少なくなると思います。今、信号がない道路で歩行者が待っているのに車は止まらないのが多いと聞きました。そうすると交通事故が増えると思います。でも、優しい心、親切な心がある人は止まってくれれると思います。なので全員がその心をもっていれば交通事故が少なくなると思います。それと事件も優しい心、親切な心をもっていればやらないと思います。そしてもし事件をおこそうとしている人がいたとしても優しい人が相談などにつてくれれば、不安などがなくなるし、人にはなせば楽になるかもしれないので、事件などが少なくなると思います。

私は、これから優しい心、親切な心をもって生活していききたいです。こまっている人がいれば声をかけるなどをしたり、なにがしてもらったりしたらしっかりと感謝の言葉を言うようにしていき、自分でもできることから積極的に行動にうつして、やっていききたいです。

「『福島市民憲章』を見て

自分ができること」

福島市立渡利中学校

吉田 ほのか

私は福島市で毎日学校に行き福島市内で生活しています。そんな中ふと思ったことがあります。それは交通ルールが守れていないということです。自転車が右側を走っていたり、車が信号無視をしていたということが日常生活によくありました。また自分自身を登下校などをしているときに交通ルールを守れているかをよく確認して生活したいと思いました。だから福島市民全員が交通ルールを守って市の交通事故ができるだけ少なくなつてほしいです。

また、親切で愛情があふれる町をつくるために自分から笑顔で元気にあいさつをできるようにしたいと思います。なぜなら、私は知らない地域の人に元気にあいさつすることができないからです。あいさつは笑顔で元気にあいさつを積極的にできるように

がんばりたいです。それから困っている人がいたらできるだけ声をかけたりしたいです。バスの中ではお年寄りの方に席をゆずったりと地域の方に気づかいはできるようになりたいです。知らない方にも親切に接して学校でも笑顔で明るく親切でいたいです。

次に、空も水もきれいな福島市をつくるためにできることはゴミをポイ捨てしないことです。ポイ捨てされたゴミがよく歩道に落ちています。自分は絶対にポイ捨てをしないようにしたいです。それに、ポイ捨てをしてしまうとペットボトルやゴミぶくろなどはそのまま残ってしまいます。そして自然が汚れて環境が汚くなります。福島はゴミの量が多い県なのでゴミの量を減らすということも大切だと感じました。ポイ捨てはみんなですぐ公共の広場が汚れてしまうのでもしポイ捨てしてあったら捨てるようにしたいです。

その次にきまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくるためにはルールやマナーを守って生活することです。ルールを守らないとみんなが気持ちよく生活する

ことができません。また色々な人が使う場所ではうるさくしないようにしたりさわがないでまわりの人に気づきやすいことができるようになりたいです。

私は「『福島市民憲章』を見て正しい行動をとれるようにしたいです。

「福島市の『未来』へ続く道」

福島市立蓬萊中学校

旭 真結子

福島市民憲章というのは、その名のとおり『市民』の『憲章』です。つまりどんな市をつくりたいか、ということなんです。では「福島市民憲章」を見ていききたいと思います。

『一 空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう』

空も水も汚染されていた時期もあったでしょう。でも今は自然にすぐ気をつかっています。みどり、というのもそうでしょう。私がこの場所に来たときは山が近いのもそうですが、すごく緑がたくさん、自然がたくさんあるところで、びっくりしました。あらためてみてみてください。

『一 教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう』

例えば文化だと古閑裕而さんとかです。朝ドラ『エール』などで全国に知られたと

思います。その今まで守られてきたものを私たちも守り続けることが大切です。

『一 親切で愛情あふれるまちをつくりましょう』

親切で愛情あふれるのは家族や友達などでもあてはまるとおもいます。つまり、だれにでも親切にすることです。簡単におもいかもしれませんが、これが少し難しかったりします。だれにだって苦手な人はいます。無理に関わらなくてもいいけど、それなりに上手くやれば一番理想ですね。

『一 きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう』

今は関係ないかもしれないけど、五、六年後には社会に出て働くことになります。そのときにみんなを合わせて楽しく働けたらいいですね。働くことは日本国民の義務です。だから、いろんな楽しさを今のうちに知って大人になってもっと楽しみたいです。

『一 子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう』

子どもからおとしよりまで安全にするためには私達子どもからみたら、おとしより

や、大人などを安全にするために、です。それは気を配ること、親切にすること。例えば坂とかでおとしよりが大変そうにしていたりしたら、なにかしら声をかけてあげるといいとおもいます。

ということなんです。この『福島市民憲章』はみどり豊かな希望に輝き、親切で楽しく働いて安全で健康なまちづくりを目指しています。自分でもできることを一つ一つこつこつとやっていきたいです。

「一人一人親切に」

福島市立蓬萊中学校

佐藤 漣

ぼくは、朝の登校や下校中にあいさつしてくれる人がいてその人はとても親切だと思いました。その日以外でも町の人達はたくさんあいさつしてくれました。そのこともあつて親切な人がたくさんいるんだなと思いました。

でもぼくはあいさつをしてくれる人に対して今まであいさつを返した事がありませんでした。だからこんどあいさつをしてくれる人にあつたら返してみたいです。それでもあいさつを返すことができなかったらぼくが親切な人と同じように多くの人たちにぼくからあいさつをたくさんして自分と同じように親切にあいさつをしてくれる人を増やし一人一人がみんなに親切でここではない別の場所でもたくさんゆつくりでもすこしずつでも、みんなが親切でたくさんあいさつのきこえるそんな町になったらいい

いなと思いました。そのほかにも外を歩いているときに落ちているゴミを拾っている人がいました。その人も親切だなと思いました。ぼくは落ちているゴミをみていやな気持ちになる人がいたらそのゴミを拾って人は親切な人と思うだろうと思ったからです。ぼくもゴミや人が使ったいろいろな物があつたらいやなのでそうやってゴミを拾ってくれる人がいるととてもうれしいです。だけど拾ってくれる人がいるから自分ではなくて自分と同じ気持ちの人がいるならばくもゴミを拾ってくれる人と同じように落ちているゴミをたくさん拾って親切だと思ってもらえるしゴミをみんなが拾えばその場所もきれいになるしみんなが親切だと思ってもらえると思うからです。題名どおり一人一人親切にという題名なので自分だけ親切ではなくてみんなが親切にしているかこうと思つてこのような題名にしました。自分一人で親切にしているだけに親切だね、や優しいですねといわれてうれしいかもしれないけど自分一人よりみんなが親切だねといわれれば自分一人ではわからない人の親切に気づくことができる気がすると思つたからです。たとえば自分が相手に親切にしているつもりでも相手からすればめいわくやいやだなと思つていることがあるかもしれません。だからこの前の文章でいったとおり、自分一人では気づけない相手のことも他に人がいればそれに気づいておしえてくれる人がいていやだと思つた人のこの気持ちを考えてその人の思う親切な行動ができると思いました。

「親切で愛情あふれるまちを

つくろう」

福島市立蓬萊中学校

高橋 光希

僕は、この蓬萊町に差別や暴力がない町
になつてほしいです。

なぜなら最近人種差別などが問題になつ
ているからです。そして日本にも外国人観
光者たちも増えているからです。

僕は差別をする人の意味が分かりませ
ん。障害者でも黒人だったりと同じ人間と
して生まれてきたのに差別されるなんて意
味が分かりません。障害者でも僕たちと同
じこともできるし、なんなら僕たちにはで
きないこともできたりするんです。

だから僕は差別がない町にしたいな
と思いました。

僕は普通の人間として生まれたけど、も
し障害を持って生まれて差別をされたり、
いじめられた時の気持ちも考えて差別など
をしないようにしようと思いました。

しかもパラリンピックなどで僕は、人
間って障害を持っていてもできないことな
どないということも知りました。

僕は、この蓬萊町が暴力や差別などがな
く平和な町になるようにしていきたいで
す。

僕は、一生けん命生きてるのに、いじ
められたり、差別をされたりしてかわいそ
うだなと思いました。

だからこの差別とかをなくすためにいろ
いろな人が理解しないとダメなんだと思
いました。

僕はこれからもっと観光客とかも増える
と思うんで看板とかにも英語で書いたり
とかして外国人観光客が来ても困らないよ
うにしたほうがもっと観光客が増え
て、蓬萊町がにぎやかになってその中でも
しつかり差別などをしないようにしていっ
たらいいのではないかなと思います。

また、障害者とかも困らないように点字
でロックを増やしたりだとか、信号が変
わった時に音声でも教えてくれるような物
とかも、どんどん増やして行って障害者も
外国人観光客も困らない町にも、してい

たいなと思いました。

僕はこれから困っている人や大変そうな
人を見つけたら手伝ってあげるとかをし
て、みんなにも、どんどん伝わっていつて、
この蓬萊町が親切で愛情あふれる町になれ
ばいいのかなと思いました。少しでもみん
なに伝わってよりよい蓬萊町にしていけた
らいいなと思いました。

「みんなが幸せでいられるように」

福島市立蓬萊中学校

佐藤 真翔

僕は、「親切で愛情あふれるまち」

この文章を見たとき、ある事を思い出しました。それは、去年の夏の時でも暑い日に、僕が妹と散歩をしていた時に、「今日はとても暑いから熱中症に気をつけてね。」と、近所の優しいおばあさんが、はなしかけてくれました。それで、僕と妹は、元気な声で、「はい、ありがとうございます。」

と、お礼をしました。

それに、そのおばあさんには、前もお世話になりました。

そのおばあちゃんの家が近所なので、野菜をくれたりします。その野菜をもらった時、

「お母さんにおいしい物でもつくってもらって」

といわれ、僕は、「はい」といった。

その、少しの会話でおばあさんの優しさや思いやりなどが知れた気がした。この僕が住んでいる福島市には、登校の時や、下校の時に毎回、毎回優しい声で声をかけてくれる人達がいる。僕は、そのような人達のおかげで、毎日安心安全に登下校ができている。

この、福島市は、少しの時間で出来あがったわけではない。僕達が生まれる何年も前から、福島市のみなさんが助けあって築きあげてきたものなんだと思う。福島市みんなの深いかわり。そのしゅうかんは、都会などでは、少なくなってきた。

「おはよう。気をつけてね。いつてらっしゃい。おかえり。」

このような少しの会話でもずっと続けていったほうがずっといい町でいられると思う。このあいさつという物は、これからもずっと人と人がかわる中であつても大切になつてくると思う。

これらの言葉を、ずっとずっと大切に使っていきたいと思った。この言葉をずっと使ってきたからこそ、この福島市というとても素晴らしい町ができているのだと思

います。

でも、今は新型コロナウイルスという物ができてきていて、人とふれあう事が厳しくなってきました。そんななかでも、ソーシャルディスタンスを守って、より良いまち作りをしていきたいです。

この「おはよう。気をつけてね。いつてらっしゃい。おかえり。」

この言葉を、僕達がひきついで、笑顔がたえない福島市にしていきたいと思った。

「みどり豊かな福島市へ」

福島市立蓬萊中学校

樋口 未菜

私は福島市民憲章を、作文コンクールで初めて知りました。市民憲章の五つあるうちで、私の目に留まったのは「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」です。

この文章を読んで、小学六年生の時にグループでごみ拾いをしたことを思い出しました。一週間学校の周りをごみ拾いしたところ、なんと三十個以上も見つかりました。私はいつも見ている蓬萊町に、こんなにごみが落ちているとは思いませんでした。ごみはお菓子の袋が多く、食べ歩きをしているときに簡単に捨ててしまっているのかと思いました。そんな簡単な気持ちで捨てても、環境はどんどん悪くなっていくので、悲しいなと思いました。環境が悪くなると、植物たちも過ごしづらくなるはずですよ。

きれいな水やきれいな空気を保つには、

みどりが必要だと私は思います。草木が呼吸すること、きれいな空気もできるし、みどりのある良い環境なら良い水もできます。実際今の福島はきれいだし、水道水はモンドセレクションで金賞を取るほど美味しい水です。でも、これからだんだんとみどりが減ってきたら大変なことになります。空気は悪くなるし、水も悪くなるかもしれません。そうならないためにも、私たちが自主的にみどりを守っていかないとけません。

みどりを守っていくために私たちにできることは何でしょうか。例えば、庭に花などを植えて、植物を増やしてみどりあふれるきれいな町にしたり、ごみは捨てずに持ちかえることを心がけたりすれば、今の福島市を保つことができるし、今よりもっと良い福島市に向かっていくと思います。花は比較的簡単に植えられるし、ごみを持ちかえることはすぐに実践することができます。私は、このような小さなことも集まればすごく環境のためになると思うので、自分も実践していきたいです。

私たちのふるさとの福島市をこれからも

守るためにも、みどりを大切にし、環境を守り、ごみをポイ捨てしないように気をつけたいです。福島市の良いところの一つは、自然あふれるきれいな町というところだと思います。そのような福島市を守っていく、そのすてきな一面を無くさないように、福島市民の私たちが自分たちで守っていくように努力を忘れずにいたいと思います。

「家族の健康とコロナについて」

福島市立蓬萊中学校

茨木 瑛介

僕は福島市に住んでいるので、福島市民憲章について調べてみました。この憲章は、昭和四十八年に制定されたものです。これは、「市民すべての幸せと、郷土ふくしまの限らない発展を願いながら、市民一人一人が心をあわせ、快適で明るく住みやすいまちづくりをするための精神的なよりどころ」というものです。その中で五つのテーマが定められています。

今回はこの福島市民憲章を調べていく中で国でも「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、経済や社会や環境対策などの大きな目標に対する取り組み「SDGs」が決められているのを知りました。これは、いろいろな国が、一丸となって達成すべき十七の世界目標と百六十九の達成基準で構成されています。

僕の暮らす福島市では、今年の五月

二十一日に内閣府から「SDGs 未来都市」に選ばれたそうです。市民憲章の五つのテーマとSDGsの十七の目標が一つにまとまりうまく機能しているのが本当にすごいことだと思いますし自分が生活する福島市がみんなのことを一生懸命考えてくれるのがわかりうれしいです。

僕は今回調べた五つの福島市民憲章の中の「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」というテーマが一番いいなと思いました。ニュースをみると交通事故がおきてケガをする人や亡くなる人が無くなりません。僕達自身も交通ルールを守って通学しないといけないと思いますし、歩いているお年よりや小さい子供達を見守ることも大事だと思います。それに健康についても規則正しい生活を心決めて生活する事や部活などでも力をいれてがんばりながら体力をつけていきたいです。また、今はコロナウイルスが流行しているの、特に僕の家には祖父母がいつもに生活している事もあるので、外出する時には必ずマスクを着用する事を守っていききたいと思いました。

僕が心に残ったこのテーマについて福島市ではSDGsの十七の目標の中の十一項目が同じグループとして決められています。

僕が生活する福島市では一つの市民憲章のテーマに対して国の決めたSDGsの中の、十一項目がいつしよとなっているので、安心して生活ができると思います。

しかし、福島市ががんばっているいろいろな決めてくれても、それを僕が実行出来なければ全く意味がありません。ですからしっかりと自分自身が自覚を持って生活していきたいと思います。

「自然あふれる福島のために」

福島市立蓬萊中学校

齋藤 忠寿

僕は自然あふれる福島が好きです。家から一歩外に出れば豊かな自然、きれいな空、美しい植物がある。このような光景は、学校の登下校の時などにあたりまえのように見ることができます。

しかし、このようなことは本当にあたりまえなのでしょうか。この自然あふれる福島をこれからも維持することはできるのでしょうか。

今の環境は変化してきていて前までみどりにあふれていたところも家などのいろいろな建物ばかりになってきています。建物をたてるということは、大量の木々などの自然が失われているということです。

しかし、福島の様々なものが発展し、毎日が生活しやすいのが悪いわけではないと思います。自然あふれる福島をのこしつつ、人々が笑顔で暮らしやすくなるのが人々の

願いだが、それを実現するのはそうとう難しいことだと思えます。登下校の時に見ていたあの光景を見られなくなるのは僕はいやです。

自然が少なくなってしまう原因の一つは、自然災害が関係していると思います。どのようなことかと言うと、二年前に起こった台風で僕の住んでいる町の一部が土砂くずれをおこしてしまいました。そこは、春になると桜がたくさん咲いてとてもきれいな光景だったのですが土砂くずれの影響で、今は桜の木がなくなり、コンクリートで補強されました。補強されたおかげで安全に日常を送ることはできますが、その光景を見られることができなくなり残念な気持ちになります。台風が発生するということは温暖化が関係しています。

では、台風などの自然災害を防ぐために僕たち中学生ができることは一体どのようなことなんでしょうか。

まず、温暖化を防ぐためには、僕たち一人一人がゴミをなるべく出さないことなどを日々心がけることだと思えます。他にもまちのボランティア清掃活動など、今ぼく

たちができることはたくさんあります。

今僕たちが考えている福島への思いを大切にし、何年後になるか分からないがその理想の福島が現実になっていれるように小さなことからがんばっていかたいと思います。

自然あふれる福島のためとこれからの未来のために。

「親切な町づくり」

福島市立蓬萊中学校

星野 琉衣

ぼくが住んでいる町は、とてもいい町です。自然豊かで一人一人がいい人ばかりです。

ずっと前に、僕が歩いていたら小学生ぐらいの子がおばあさんの荷物を持って歩いていました。僕は小さいのにえらいなあと思いました。そして、帰る時に僕の家近くに住んでいるおばあさんが荷物を持ちながら階段を昇っていたので荷物を一つ階段の下までもっていったら、

「ありがとう」

と言われてとてもうれしくなり、こまっっている人がいたら助けてあげようと思いました。そして、横断歩道でこまっている人や道に迷っている人などを、助けてあげると色々な人がありがとう、ありがとうと感謝してくれます。その感謝がとてもうれしくなりました。そして、町を見ていると小さ

い人から大きい人が

「だいじょうぶですか」

とか

「手伝いますか」

と老人の方や困っている人に声をかけている所をみるとやっぱりこまっっている人に声をかけて助けあうっていい事だなと歩いて思います。そして、違う所にいてもやっぱり声をかけて助け合っていることがよく見れました。そして、僕は、この場所じゃなくても色々な場所人と人の助け合いがあるんだと学ぶことができました。やっぱりこの町でも他の場所と同じく助け合いながら生活しているんだなと思いました。そして、一つ一つの声かけ

「だいじょうぶですか」

とか

「手伝いますか」

といろんな人に声をかけ合っていることによつてこれによつて老人の方や困っている人々が

「ありがとう」

と感謝されるとみんながみんな心が温まるようにうれしくなります。

僕は、この町やいろんな県でも人に感謝されるといいことはとてもいい気持ちにもなるしこれからも、もつと手伝いをして感謝されたいと言う気持ちに僕はなりました。これからも、もつとたくさんの手伝いをしたいなと思いました。人は、感謝されるととても温かい気持ちになれることを知りました。

「みんなの心はつながっている」

福島市立蓬萊中学校

湊 希生

「親切で愛情あふれるまち」という文章を見た時に親切にしてくれたことを思い出しました。

遊びに行っている時、学校のかえりなどに横断歩道をゆずってくれました。わざわざスピードなどを落としたり手で「先どうぞ」と分かりやすくしてくれました。

他にも、レジなどをゆずってくれたりしたことがあります。このような小さい事でも人の親切さにふれる事ができました。自分でも、朝など夕方などに、「おはよう」など「こんにちは」などを言うようにしています。だいたいの方が返事などを返してくれたのでうれしいです。自分からではなく相手の方からあいさつもしてくれるのでうれしいです。

他にも僕たちのために、ゴミ取りをしたり、雑草などを取ったりしてくれて親切さ

が良く伝わります。

僕は最初は、福島市民憲章という言葉はあまり分かりませんでした。これを通して良く分かり地域の親切、愛情などが良く分かりました。小学生の時などは、あいさつをしなかったりしてたけど地域の人々と仲を深めたいなど福島市全体をいい町にしたいという気持ちがあります。

この作文を書いていろいろな事を学べて良かったです。僕はこの作文がなかったら地域の人々の優しさや親切さについて改めて考えることはなかったと思います。

福島市の人々は、小学生、中学生の事を見守ってくれているのだと思います。だから毎日楽しく安全にすごせていると思います。

みなさんが福島市を親切、愛情であふれる市にしてくれたんだと思います。小さな事でもお礼など言うことは大切だと思います。

新型コロナウイルスのえいきょうで人と人がふれあう機会が減りましたが、福島市全員がコロナにかからず親切で愛情があふれる市をつくっていきましょう。

みなさんが福島市で作ったこの二つ「親切」と「愛情」この二つを忘れずに地域の人々とこの市をもっともっといい市にしていきたいと思った。

新型コロナウイルスでとても大変ですが、みんなが助けあって親切と愛情この二つを必ず忘れずに楽しい地域を作っていく、一人一人が親切的な行動ができる市をつくっていききたい。

「福島の為、未来の為、

今できること」

福島市立清水中学校

宮 島

凜

「一 空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」福島市民憲章の一つでもあるこの目標をみなさんは守れていますか。私は、福島市はまだ、この目標を守れていないと思います。その理由は二つあります。

一つ目は「ポイ捨ての量」です。私があるローカル番組をみていたとき、たまたまゴミ拾いで福島を旅するという企画が放送されていました。私は、そこで福島のポイ捨ての量に驚きました。一キロメートルも歩かないうちに一袋分のゴミがでたり、同じ場所を少しゴミ拾いするだけでも一、二袋分のゴミがでたりしていました。これを見て私は、福島をみどりのまちにするには、このようなポイ捨てをなくし、またゴミを拾う習慣を市民全員が身につけること

が大切だと思いました。

二つ目は「ゴミの排出量が多い」ことです。福島市役所のサイトによると、福島市の一日一人あたりのゴミ排出量は、令和元年度一・二〇グラムで、全国平均の九一八グラムと比較し、約一・二倍となっています。これは、全国ワースト十四位（人口十万人以上の都市）の排出量だそうです。ゴミの排出量が多いとゴミを燃やす量も多くなるため、二酸化炭素の排出量が多くなり、環境汚染につながります。すると、空がきれいな福島を実現できなくなってしまうです。きれいな空のため、まずは自分のゴミの排出量について考えてみてはどうでしょうか。

また、私はきれいな水のために気をつけてほしいことが二つあります。

一つ目は「油」です。油を使った後に、そのまま水と一緒に流してしまうと、水道管に異変がでたり、水が汚れて生き物が住めない環境になってしまいます。きれいな水のため、油はきちんとふき取り、正しく処理しましょう。

二つ目は「水辺にゴミを置かない」こと

です。水辺にゴミを置くと風などの影響で川などに流されてしまいます。ゴミが川に流されると、えさだと思った魚たちがゴミを間違えて食べてしまうことが多くあります。そうになると、その魚や魚を食べた人間などにも悪影響を及ぼします。このようなことにならないよう、水辺にはゴミを置かないようにしましょう。

私はこれから、福島を「空も水もきれいなみどりのまち」にするために、このようなことを市民一体となり取り組む事とが大切だと思います。これからの福島のため、未来のため、福島市民憲章の内容を実現させていきましょう。

「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」

福島市立清水中学校

清野 呼人

私が空も水もきれいなみどりのまちをつくるためには、まず、ポイ捨てやお買い物
の時に、ビニールぶくろじゃなくて、エコ
バックとかを持って、自然を悪くしない
ようなことをまず最初にできればちよつと
はよくなると思う。

あと自然に大切なリデュース、リユース、
リサイクルを心がけて、生活すれば環境が
よくなると思う。

こうしたちよつとした考えで少しはぜつ
たいよくなると思う。

たとえば、ペットボトルキャップやペッ
トボトルを回収してるところに持っていく
だけでゴミがへるし、ダンボールを持って
いくと、リサイクルや色んなことにやくだ
つかもしれないし、こまっっている人がえが
おになるかもしれないからそういうことを

すればいいのかなあと思いました。

あと、工場のガスをへらしたり車とかが
電気自動車とかになると大きくかんきよう
がちがうのかと思いました。

二〇五〇年には地球おんだん化がすすみ
たいへんみたいなニュースを見てこわいな
と思いました。

だからほくも、気をつけようと思いまし
た。少しだけ二酸化炭素をへらそうと思
うように心がければおおきくちがうのかな
と思いました。

そのためにも、木やそういう二酸化炭素
をへらす物をいっぱいにすればみどりもふ
えるし、ゆたかな地球になるからいいな
と思いました。

少しみんなが心がけたら、たのしく、き
れいな町になると思いました。

水をきれいにするためにはまずせつけん
をむだづかいしないで、ちゃんとただし
りようにつかえば少しは水をきれいにでき
ると思う。皿あらうときとかは、環境にい
いせんぎいをつかえばさらに環境がよくな
ると思う。

こういう風に少しでも心がければ空も水

もきれいなみどりが作れると思います。

みなさんもポイすてや、リデュース、リ
ユース、リサイクルとかせんぎいの使い
ぎとかを心がけてもきれいなまちがつくれ
ると思います。

みなさんも空も水もきれいなまちをつ
くりましょう。

「福島市民憲章について」

福島市立清水中学校

山田 佳奈

私は、この夏休みに、福島市民憲章について考えました。今回の作文で、福島市民憲章という言葉をはじめて聞きました。福島市には、このような言葉があり、市民の健康、安心、安全、お年よりまで安全で快適に、過ごせる福島市に、生まれてよかったですと思います。

そこで、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちについて考えました。

まず、たまに私が歩いている時に思うことがあります。私が、横断歩道を歩いている時によく、信号無視をして来る車や、自転車があります。気をつけて歩いていても、私もたまに、

「あぶない!!」

と思うことがあります。交通ルールを守ってほしいです。

「私もこんな大人になりたくないなあっ

てならないようにしよう！」

と思い、心がけています。自分も大人になり、運転するようになったとき、自分が怖いと思ったときのことを忘れずにし、相手にしないように心がけていきたいと思います。このようなことから悪い大人になりたくないのです、自分から進んでみんなに気をつけるように、言ったりできるりっぱな大人になれるようになりたいです。

次にスポーツです。

私は昔からスポーツは苦手でしたが、ドッチボール、バレーボール、フットベイスポールなど、体を動かすのが前より上手になって今ではその三種類のボール遊びが大好きです。

そのため、今もお友達とバレーボール、ドッチボール、フットベイスボールをして体を動かしてきたえます。たまに小さな子と遊んだりすることもあります。

私はこの事から、コロナで思いきった運動ができなかったのでコロナがおさまったら思いっきりスポーツをしたり、お年よりと話してみたりいろんな人と話したり、交流をし、仲を深めるサークルを作ってみた

いと思います。そのためには、いろんな人のやくに立つようになり尊敬されるようがんばりたいと思います。

「ごみのないキレイな町に

するために」

福島市立清水中学校

大波 結音

私たちの身のまわりにある道路や公園、河川などを見ると、お菓子のごみやごみ袋、チラシなどが落ちています。今自分が住んでいる町をごみのないきれいな環境にするにはどうすればよいのでしょうか。

まず、ごみのない町にするには一人一人が道路や公園にごみを捨てないように意識する必要があります。ごみ拾いのボランティア活動に参加し、ごみを減らすことも大切ですが、まずは、ごみを減らすことが重要だと思います。今落ちているごみは、持ち帰るのがめんどうで公園などに捨ててしまうのか、持ち帰るつもりでも、気づかないうちに落としてしまうのかはわかりませんが、今この時期はコロナウイルスの感染症が流行しているので今まで以上に自分のごみの処理は大事だと思いました。

また、「自分一人くらい大丈夫だろう」という考えの人もいるかもしれませんが、そのような考えの人が何十人、何百人、何千人といるとごみの数は意識していない人の分どんどん増えてしまいます。逆に「自分一人でもみんなのためにごみを持ち帰ろう」という考えの人が何十人、何百人、何千人、といるとその分ごみは減ります。なのでやはり一人一人のごみを捨てない意識はとても大切だと思います。

しかし、どうしてもごみを道路や公園、河川に捨ててしまう人はゼロにはなりません。そこで、ごみを拾うボランティアに参加したり自主的にごみ拾いをしたりすることも大切かなと思います。しかし前にも言った通り感染症が流行しているので遊びに行く途中や学校の登下校中にごみを見つけて、拾ってきれいにしたい。と思っても、誰がさわっているのかわからないものを素手では拾えません。なので自主的なごみ拾いにも限度があるのかなと思います。なので地域で行われているごみ拾いなどに参加してみたいです。

最後に、ごみのないきれいな町にするた

めに身近な家族や友達などからごみを捨てないように呼びかけたり、ポスターをつくったりしたり、ごみ拾いボランティアに積極的に取り組むことが大切だということがわかりました。私もごみのないきれいな町にするために、自分でできることをどんどんやっていききたいです。

『親切』について思うこと

福島市立清水中学校

鈴木花梨

私は今回、福島市には市民憲章というものがあることを知りました。そのの三番目に、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」と書いてあり、私は「親切」とはどういうことなのだろうと考えてみました。

まず私は、親切とは、思いやりのある行動のことだと思いました。困っている人がいたら声をかけたり、誰かの役に立つかもしれないと想像して行動したりすることだと思います。具体的には、目的地がわからず迷っている人には、場所を案内することや、教室掃除のとき、欠席した人の机を運ぶことなどです。誰かに親切にすることで、「ありがとう」とお礼を言われ、行動した人もとても良い気持ちになります。自分以外の誰かが親切な行動をしているのを見ると、「偉いな」と思います。私はそういう

行動があまりできないので、人に親切にすることを心がけたいです。

しかし、こちらから見ても「困っている」と見える人は、本当に困っているのでしょうか。誰かに助けを求めていると判断するのは、それを見た人です。「助けてほしい」と言われれば、「困っているんだな」とわかりますが、そうでない場合は、実は判断が難しいのではないかと思います。

私は、どちらかというと一人で行動するのが好きです。本を読んだり、何もしなくてもぼーっとしたりしている時にとてもリラックスできます。私が一人ではぼーっとしているのを、他の人が見たら「一人で何もすることがなくてかわいそう」と思うかもしれません。でも私は「さびしい」とかさなことは思っていないので、本当に何も考えていないのです。私に関心を持って、話しかけてくれる人はありがたいと思う反面、少し面倒だなと思ってしまうこともあります。また、登校するときに、わざわざ私の家まで来てくれる友達がいました。私は他人のペースに合わせて動くことが得意ではなくて母にも「早くしなさい」とよく

怒られます。家に来てくれた友達も、よく待たせてしまい、そのことでも母に怒られました。一人で行動していたら待たせることもないのになと思いました。

これらのことから、私は、「親切」とは相手の気持ちを考えて行動するものだと思います。相手の気持ちを考えない行動は、自分の「こうしたい」という気持ちを相手に押しつけているだけで、逆に迷惑になる場合もあると思います。

私は誰かに何かしてもらって「実は迷惑です」とは言うことができません。そこまです強い人間ではありません。だから私は、少なくとも自分が誰かのために何かをしようにするときには、よく考えてから行動しようと思えました。慎重になりすぎてなかなか行動に移せないことが多いですが、少しずつできるようにしたいと思います。

「福島市民憲章について」

思ったこと

福島市立清水中学校

佐藤 陽太郎

僕が福島市民憲章について思ったことは三つあります。

一つ目は福島市民のほとんどがこの福島市民憲章を守っているということです。福島市民憲章とは「空も水もきれいなみどりのまち」、「教育と文化を尊び希望に輝くまち」、「親切で愛情あふれるまち」、「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまち」、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」です。福島市は空は青くて、水もおいしくて、みどりがきれいです。福島市民は教育と文化を尊んでいます。親切で愛情あふれています。きまりを守っています。子どもからおとしよりまで健康です。

このように福島市民は福島市民憲章にあるような人になっていて、まちも福島市民憲章にあるような町になっていると思います。

す。

二つ目はそのすばらしい福島市を継続するにはどうしたらいいか、ということですが。この福島市民憲章がなくなってしまうたら福島市はすばらしい町ではなくなってしまう。また一人一人がこの福島市民憲章を守らないといけません。そのためには町にポスターをはって福島市民憲章のことについて知らせること、インターネットなどで知らせることも大切だと思います。

このようなことをして、このすばらしい福島市が何十年も続いてほしいです。

三つ目はこれから自分はどうしたらいいか、ということですが。僕はこのコンクールをやる前は福島市民憲章のことについてよく知りませんでした。でもコンクールをやったおかげで福島市民憲章についてよく分かりました。でも福島市民憲章のことについて知らない人もたくさんいるので、その人たちに福島市民憲章についておしえてあげたいです。またおしえるだけではだめです。これからもこの福島市民憲章を守ってもっとすばらしい福島市にしたいと思いません。そのためにこの「福島市民憲章」

を忘れないで生活していきたいです。

この作文に書いたことを実行し、もっとすばらしい福島市になってほしいです。

「自然豊かな『福』のまち」

福島市立信陵中学校

菅野 優太

福島市には豊かな自然がたくさんあり、その恵みもたくさんある。桃や梨などの農産物は国外でも広く名が知られている。僕の家からも吾妻山や果樹園が四方八方に広がっているのが見えるが、今までは特徴のない景色だと思っていた。

僕は小さいころから、広い田畑やそれを囲むように広がる吾妻山などの自然を見てきた。しかし、ここ数十年で市の自然は少し減ってきているように感じられる。僕の住む地区の付近の田んぼが住宅地になるといった話をよく耳にする。確かに最近、新しい家をたくさん目にするようになった。自分の住む地区に新しく引越してきた人もいる。だが、昔の福島市は農業が今よりも盛んで、もっと緑にあふれた町だった。それに比べ、最近はごみの不法投棄や交通網の発達による騒音などの環境破壊につな

がるような行為も見かける。「本当に大丈夫なのか。」と、僕は疑問を持つようになった。これは他人事ではないと思い、次の世代に福島の良い自然を残すにはどうするべきか考えるきっかけになった。

また、福島市には誇るべき水がある。福島の水道水は数々の賞を受賞していて、とてもおいしい。この水を飲む度に僕は、「この水は福島の水の恵みだ。」と感じる。それに、僕の住む地区の近くには荒川が流れている。荒川はとても大きく、水質も日本一といわれている。僕は前に、荒川の近くの住民が川原に落ちているごみを拾っている姿を見たことがある。つまり、福島の水がきれいなのは、地域住民の方々の協力の賜物だと分かった。以前に、テレビや新聞などでも、しばしば福島の水が取り上げられることがあった。「水」というものは人々の生活にも役立っている。福島でおいしいお米や果物がとれるのは、吾妻山から流れてくる栄養分たっぷりの雪解け水のおかげだ。「いい自然はいい水からなる。」僕はそう納得した。

このように、福島市には豊かな自然やそ

の恵みを利用した、おいしい食べ物がたくさんある。その一方で、農地の減少やごみの投棄問題があり、すぐに解決せねばならない危機に直面している。

今の自然は地域住民の方々の努力により良好な状態に保たれている。「空も水もきれいなみどりのまち」を受け継ぐのは僕たちだ。改めて今、福島の自然と共存して生活する方法を考え直す必要があるのではないだろうか。

「親切で愛情あふれるまちを

つくりましたよ」

福島市立信陵中学校

佐久間 一花

私達が生まれ育ってきた福島市。市民憲章について作文を書く機会を得て、五つの憲章の内、初めに目に留まったのは、

「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」の一文だった。

「親切」というのは、相手に優しく接することで、いいまちをつくるためにはとても大切なことだと思う。実際にどういふことをすればいいのか考えてみた。この福島市には、身近にお年寄りの方々がたくさんいる。街の中では、重い荷物を持ったおばあさんや、急な階段を上ろうとしているおじいさんも見かける。その時私は、助けたい気持ちがあったもののそのまま素通りするだけだった。でもそういう場面に出会ったからこそ、助けるべきだと今の私は思う。それに、人を助けるといふことは、相

手も喜んでくれるし、自分もうれしい気持ちで満たされる。助けることはどれも自分にとってプラスになることだと思う。親切には、判断力と少しの勇気が必要だ。でも弱い心に負けずに声をかけ、人の役に立たた人は、真の「親切」をした人だと思う。

「愛情」にもあたたかな気持ちという意味がある。愛情は、自分だけでなく、受けた相手もあたたかな気持ちになれると思う。例えば、家で飼うペットは、飼い主達が愛情たっぷりでお世話をすれば、ストレスなくのびのびと生きられると思う。それは人間も同じだ。愛情を込めることに悪いことはない。愛情込めて作ってくれた母の手料理は美味しいし、愛情がたっぷり心の持ち主は皆から好かれる。このようなことから私は、どんなことにも、愛情を込めた温かい気持ちでやることにはいいことが詰まっていると思う。このような人が一人いただけでもみんな気持ちが温かくなってくるはずだ。だから、私も、そんな人になれるよう目指し、そんなまちになるようにしていきたいと考える。

親切・愛情の言葉を聞き、浮かんできた

のは人見知りだった私のために気を遣ってくれた小学校の先生方。その先生方には、愛情も親切な心もたくさんあったと思う。私も中学校生活にはまだ慣れないところも多いが、そんな先生方を見習って日々努力していきたいと思っている。福島のため、明るい未来をつくるためにも、今一度、親切や愛情について考えてみてはどうだろうか。一人一人努力することが、まちづくりには一番重要だと私は考える。

「親切で愛情あふれるまちづくり」

福島市立信陵中学校

小松 美穂

私は、福島市民憲章の中でも「親切で愛情あふれるまち」というテーマが、私にぴんときた。なぜなら、私が住む地域はとても親切で愛情あふれる、まさにテーマ通りの場所だからだ。

私がいつも登下校する道には、町内会のゴミ捨て場がある。そのネットは、いつもきれいに整えられている。それは地域の人がボランティアできれいにしていることを数日前に知った。ゴミを捨てに行った時も、地域の人のおかげで、カラスやのら猫に荒らされていることがない。私はその時きれいに手入れしている人に「ありがとう」を伝えたい。そう思った。最近はその方を見かけないけど会ったら伝えようと思う。それと同様に自分もボランティアをしよう、と思った。ゴミがあつたら拾ったり、ネットがきれいに畳まれていなかったら整

えたり。ボランティアというのは、感謝されたくてやるのではない。他の人が気持ちよく生活するためのものであるということ深く知った出来事だった。

次は、除雪についてだ。私の家の前には、共有スペースというみんなが使っている場所がある。そこは、毎回きれいに除雪されている。寒い中朝早くから、きれいに除雪をしてくれる近所の皆様には、感謝の気持ちでいっぱいだ。私も早く起きて除雪をすることが何度もある。でもたくさん雪をスコップで除雪するのはけっこうつらいことだ。寒いし、雪は重いし。そんなに簡単なことではない。しかし、近所の方々はそれを毎回続けている。自分の家の前だけではない。共有スペースまで。私はこの出来事を通して、近所の皆様に感謝の気持ちと、大人になったら子供たちのために除雪しようと思った。近所の方が除雪をしてくれている理由は、もちろん思いやりからもあるが、将来私たちが大人になった時、子供たちのために働くことの大切さを知ってほしいという指導の面もあるのではないか。本当のところは実際に聞いてみないと分か

らないが、その二つの理由だと私は思った。このように、普段の何気ない生活の中でも、親切や愛情あふれる行動が見受けられる。では、今私達ができることは何だろうか。例えば、あいさつをしたり、困っている人に「大丈夫ですか？」と声をかけること。こういった小さなことでもいい。一人一人の親切や愛情あふれる行動が、「親切で愛情あふれるまち」「希望に輝くまち」にするための、第一歩なのではないだろうか。

「すばらしい『みどりのまち』へ」

福島市立北信中学校

猪狩 愛実

私は、福島市民憲章の「一 空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」について考えました。

福島市は、自然が豊かなまちだと思います。私の住んでいる地域も、様々な動植物を見ることができ、自然とふれ合える環境が整っています。

ですが、これだけで本当に「きれいなみどりのまち」といえるのか、疑問に思いました。

福島市には、たくさん自然や魅力がありますが、課題もあります。その中で特に目立つのが、福島市の「ごみ問題」です。

まず、道を歩いていると、よく落ちていくごみを見かけます。最近、ごみの「ポイ捨て」に関する、考えさせられる二つのことがありました。

一つ目は、家族や先生から、「ごみをた

めらいもなく辺りに捨てる人がいる」と聞いたことです。それまで私は、まさか身近に「ポイ捨て」をする人がいるとは思っていませんでしたので、ショックを受けました。

二つ目は、授業等に出た消しゴムのかすや紙切れを、机の下に落としている人がいたことです。確かにそうじの時間はありますが、これも「ポイ捨て」です。私は、見ているはずかしいと思いました。

ごみを辺りに捨てるのは、たとえその後片づけるのだとしても、好ましい行動ではないと思います。「きれいなみどりのまち」をつくるためには、私達一人一人が、身近なところから意識して変えていく必要があるのではないのでしょうか。

また、私は先日、福島のごみに関するニュースを聞きました。市民一人あたりが一日に出すごみの量が、全国でもとても多いというものです。道ばたに捨ててあるごみも問題ですが、ごみの排出量が多いのも環境に悪いです。一人一人が、ごみそのものを減らす努力をする必要があるのではないのでしょうか。

私の家では、市が取り組んでいる「福島

県廃棄物削減等モデル事業」から「家庭用剪定枝破砕機」を借りて、ごみになる予定だった枝葉をチップにし、再利用しています。また、生ごみをコンポストに入れて肥料にしたり、野菜くずを鶏のえさにしたりと、ごみの削減に取り組んでいます。私達の生活の中には、まだまだどうにかできるごみがあるはずです。これからも、ごみを減らすためにできることを行っていきたいと思います。

福島市は、すばらしいまちです。今は違っても、いつか本当の「きれいなみどりのまち」にすることができるとは思っています。他の市民憲章についても、何かしらの課題があるでしょう。私達のすばらしい福島市を、より魅力的なまちにするため、日々の生活から改めていきたいと思っています。

「今の私にできること」

福島市立北信中学校

野 口 きらら

私は、この五つの市民憲章の中でも「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」という言葉が強く印象に残りました。理由は、みんなが譲り合い助け合いのできる親切で愛情のある住み良いまちをつくっていくことは素敵なことと感じたからです。

電車やバスに乗車したときに、私より少し年上の方がお年寄りの方に席を譲っているとところを見たことがあります。その頃の私は、人見知りで、初めて会う人と挨拶をすることも会話をすることも苦手でしたので、衝撃的でした。譲ってもらったお年寄りの方は、笑顔で、

「ありがとね。」

と言っていて、譲った人も譲ってもらった人も笑顔でした。それをきっかけに、私もあの人のように親切で、思いやりのある人になりたいと思うようになりました。あ

る日、私は電車に乗ったときに小さな子が、席がなく困っていたので勇気をふりしほり自分から話しかけて席を譲りました。小さな子は、

「お姉ちゃん、席譲ってくれてありがとう。」

と笑顔で言ってくれて、私はとても心が温まりました。

それから私は、これから福島市で生活していく中で、より誇りをもつて過ごすことができるように自分にできることは何かと考えました。私の考えは、二つあります。

一つ目は、困った人がいたら話しかけてみることです。例えば、重い荷物を持った人がいたら、手伝いますと言い荷物を持つのを手伝いたいです。お母さんが重い物で、重い物を買ったときに持つのを手伝ったことはありますが、重そうな荷物を持つて知らない人を手伝ったことはありません。今度、そのような人を見かけたら、自分から声をかけ、手伝えるようにしたいです。

二つ目は、近所の人や初対面の人へ対しての挨拶です。私は朝が弱く、学校に行く朝はあまり元気がありません。でも、近所

の人は、朝から笑顔で優しく挨拶をしてくれます。私は、その時挨拶をすることの大切さと、小学生の時に聞いたことがある、挨拶をする人もされる人も良い気持ちという言葉が心に浮かびました。挨拶を心がけるようになり、今では朝が弱い私でも、朝から挨拶をすることで元気が出てきます。私は、これからもしっかり挨拶をすることを受け、相手から今の私が思うようなことを思われるように頑張りたいです。

私は、福島市民憲章という言葉を初めて聞き、これからも住みやすい福島市を作り上げていくためにはどのようなことをすればよいのか深く考えることができました。また、自分にできることは積極的に取り組めるようになりたいです。

「緑を守るために」

福島市立北信中学校

荒木夢凜

私は自然が大好きだ。透明でおだやかに流れる川、きれいな緑色の葉をつけた木々、木と木のあいだからもれる日の光、私はそんな神秘的な光景を今でも忘れられない。

私は宿泊学習で案内人の方に、緑あふれる場所に連れてきてもらった。虫がたくさなんて、危ない植物もあって、「嫌だな。」と思った。だが、ある案内人の方の言葉で、その考えがガラッと変わった。私が「自然を大切にするのは、なぜですか。」と聞いたとき、一人が

「それは自然にも命があるからだよ。苦手に思う人もたくさんいるけど、私たちは今まで数えきれないくらい自然に助けられてきた。だから、今度は私たちが守る番なんだよ。」

と言ってくれたのだ。私は目を見開いた。自然が地球の空気をきれいにしている、私

たちを災害から守ってくれたこともあるという話を以前から聞いていた。私はこのままではだめだと思い、視線の先を足元から前に移した。すると、驚きの光景が目の前に現れた。たくさん緑の中からこぼれる日の光、目をつぶれば鳥や虫の鳴き声や川のせせらぎが聞こえてくる。そんな見たことのない自然の姿に、一瞬でとりこになった。

突然、案内人の方が足を止めて何かを拾い出した。一カ所だけゴミが捨てられていたのだ。聞いてみると「最近よくある」とのことだった。自分が散らかしたというわけでもないのに、自然を守るために一生懸命ゴミ拾いをする、自然のためになる活動をする、そんな案内人の方が私には輝いて見えた。その姿にあこがれた。そして私も歩きながらゴミを拾い集めた。はじめは、ただあこがれたからだだったが、途中からはゴミがなくなってきた。そのときの案内人の方の「ありがとう」の一言は今でも覚えている。

私の家では毎年夏に野菜を育てている。

私が小学校二年生の時から育てていて、新鮮な野菜を食べるのが夏の楽しみの一つでもある。小さいころは楽しくて育てていたが、宿泊学習で自然について学んでからは、少しでも福島の自然が豊かになるように、少しでも緑が増えるようにという願いを込めて野菜を育てている。

私は福島が大好きだ。大好きだからこそ、より良い福島に変えていきたい。私が大人になるころには、自然が今よりも少なくなっているだろう。それを防ぐために、環境に良いことを少しずつしていきたい。私一人の力ではそれほど変わらないかもしれない。それでも、家族や身の周りの人にすすめるなどのできることを自分なりに行動に移していきたい。そして福島の自然を守りたい。これが私の考えだ。

「安全な町——私の思い——」

福島市立北信中学校

森 山 夢 羽

皆さんは、町で歩いている時や、車に乗っている時に、気をつけていることはありますか。私達が普段使用している道路には、多くの危険があります。例えば、「信号無視」「スピード違反」など、いつ事故が起きてもおかしくありません。このような事故を防ぐには、私達、一人一人の安全への意識が必要です。

私が、母の車に乗っている時、おじいさんが見えました。そのおじいさんは、目が悪いのか、赤信号で渡っていました。私は、「危ない。」と、心の中で言っていました。また、助手席に乗っている私は、母に、

「安全運転っていいね。」

と言いました。そしたら母が、

「あたりまえ。人ひいたら大変でしょ。」

と言い、母は、運転時、こう思っていると初めて知りました。

母に改めて聞いてみても、前回と同じようでした。友人に聞いても、似たようなことでした。

「私も、この町の一人だから、交通事故を絶対に起こさないようにしましょう。だから、安全確認をしっかりとしよう。」

と言っていました。

たった一人や二人の意見が、この市民憲章を通して、私の思いが市民に届いて、交通事故が減るといいな、と思います。未来は、自動運転かもしれないが、現在から未来まで、この先ずっと、安全確認、安全運転を意識してほしいと思います。

私が、市民憲章を通して伝えたいのは、「一人一人が交通ルールを守り、子供からお年寄りまでが、安全な運転、安心できる町をつくろう」です。運転手には、安全運転と、早めにライトをつけることで、歩行者には、左右確認や手を上げる、夜間には、反射板をつけることを、互いに意識してほしいです。また、目が悪いおじいさんがいたら、誰かが助けてあげると交通事故もなくなります。だから、道路で、困ってそう、危険そう、と思ったら、助けてあげましょ

う。

私の将来の夢は、看護師です。病院に、交通事故で入院してほしくないのです、これからも意識しましょう。

最初にも言いましたが、道路には危険があり、事故が起きてもおかしくありませんが、未来には道路に、安全性が高く事故が起らない町にしていきたいです。皆さんで、がんばっていきましょう。

「少しでも自分ができるところを」

福島市立北信中学校

高橋 結愛

みなさんは、だれかに親切にしてもらったり、親切にしたことはありませんか。ほとんどの人は親切にしてもらったり、したりしたことがあると思います。私は、親切にしてもらったら少しでも自分ができる恩返しをしたいと思っています。

いつも横断歩道を見ると、見守り隊の方が私達を見守って送り届けてくれます。元気がよくあいさつをすると、

「おはよう。今日もがんばってね。」と優しく笑顔で接してくれます。私は、とても優しく頼もしい、そして安心できると思いました。

友達に聞いてみると、同じ意見でした。毎日安心できて、とても優しいと言っていました。友達は、

「いつも見守ってくれているから見守り隊の方に何かしてあげたい。」

と言っていました。私は、その意見を聞いて少しでも恩返しがしたいと思いました。私は何か、恩返しができないかと考え、一つのことを思い浮かべました。

道徳の授業であいさつのことについて考えた時です。

「おはよう。」

と声をかけた相手に無視されたら嫌な気分になると話していました。私は、その話を聞き見守り隊の方も同じ意見なのではないかと考えました。私も、おはようと声をかけた相手に無視されたら嫌な気分になります。そこで見守り隊の方に笑顔ではきはきとあいさつをするのも少しの恩返しになるのではないかと考え、次の日から、見守り隊の方に会ったら笑顔でハキハキとあいさつをするようになりました。すると、見守り隊の方も笑顔でハキハキとあいさつを返してくれました。私は、一日中、とても明るく笑顔ですごすことができました。私は、見守り隊の方や近所の方に明るくあいさつをすると、笑顔で接してくれるのでとてもうれしくなりました。

このように、自分が明るく元気に接する

と相手も明るく元気に接してくれるので、みなさんも明るく元気に接してみてください。そして、少しでも自分ができる恩返しをすることで相手も嫌な気分にならずにすごすことができ、自分も嫌な気分にならずにすごすことができるので、みなさんも少しでも恩返しをしてみてください。

「生涯をかけてやりたいこと」

福島市立北信中学校

鈴木 紅葉

「教育と文化を尊び希望に輝くまち」私はこの市民憲章を見たときに、お父さんの顔が思い浮かんだ。私は、小学校二年生のときから、ミニバスケットボールを習っている。私がミニバスケットボールをはじめたきっかけは、私が住んでいる町の、あるお祭りに参加したときだ。そのお祭りで親しくなった友人の、

「私、バスケット習ってるんだけど人数が全然足りないの。紅葉ちゃん一回体験来てみない？」

この一言があり、私は一度お父さんと体験に行った。その日は、シユートの練習をコーチに教えてもらった。初めてだったからシユートも全然入らないし、体力もなかったから、すぐにつかれてしまったけれど、とても楽しかった。とても単純な理由だけれど、これが、私がミニバスケットボール

をはじめたきっかけだった。

私が習い始めたと同時に、中学、高校とバスケットボール部に所属していたお父さんが、「おれもコーチをやる！」と言って熱心に勉強し、指導者の資格を取った。お父さんは女子の指導者として練習を教えてくださいようになった。はじめは、お父さんが私達の指導者なのは嫌だなど思ったり、プレッシャーを感じたりしていたが、一緒に練習をする度に、お父さんが自分の指導者でよかったなと感じたり、お父さんが一緒だとなんだかすごく安心するなと思った。他のチームメイトも、お父さんと楽しそうに話している姿を見ると、なぜか私までうれしくなった。

私が六年生になったとき、お父さんは、今まで以上に熱心に私達に練習を教えてくださいました。私のチームは元々弱いチームで、試合に勝つことはなかった。しかし、「最後は絶対に勝つていい思い出を残してから卒業する」それが私の目標だった。

六年生になったとき、私もチームメイトも今まで以上に真剣に練習に取り組んだ。最初はそう簡単にはいかなかったけれど、

ど、何度も練習試合などに取り組むうちに、徐々に勝てるようになってきた。そして、最後の公式試合。結果は、一勝一敗と二勝できなかったのは悔しかったが、何よりも目標を達成できたこと、勝ったときに仲間と喜び合えたことがうれしかった。

高校を卒業してから、しばらくバスケットボールをしていないのに、またいろいろ勉強して、指導者の資格を取って、私たちに熱心に教えてくれて、いろいろ振り返ってみると、今のチームがあるのは、お父さんのおかげなのだと思う。私は「生涯をかけてやりたいこと」なんてまだ分からないけれど、一つあるとすれば、お父さんのようにかっこいい指導者になることだ。私は、お父さんのように、生涯学習の場に進んで参加する人がたくさん増える福島市にしていきたい。

「自分達でもできる協力」

福島市立北信中学校

黒羽 唯元

福島市には、市民全ての幸せと、郷土福島の限らない発展を願いながら、市民一人ひとりが快適で明るく住みよいまちづくりを進めるためのよりどころとして、「福島市民憲章」という憲章があります。そのようなかで、僕が気になったのは、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」の二番、「家のまわりや道路、公園、河川などをごみのないきれいな環境にしましょう。」という憲章が気になりました。

福島市は全国から見ても緑の自然が多く、水もとてもきれいでおいしいことが有名です。ですからそのきれいな環境を守ることが大切だと思いました。僕は小学生のころ、地域のゴミ拾いの活動にお父さんと参加しました。ゴミは道路などにもありましたが、田んぼや畑の方が僕は多いと感じました。すると、農家をしているお父さん

が、

「プラスチックなどのゴミは、自然にかえらないし、植物の生長を止めてしまうから、ゴミを捨てるのは良くないね。」

と、ゴミを拾いながらお父さんは僕におしえてくれました。お父さんの田んぼや畑にも前にお菓子の袋や紙のゴミなどがあり、お父さんがこまっているのを、僕は思い出しました。ゴミ拾いの活動が終わると、なんと一時間でゴミ袋七個分のゴミがあることにおどろきました。中でも多かったのは、菓子類の袋や、ペットボトルなどが特に多かったです。プラスチックなどは、さびたりせず何年もその場に残ってしまうので、自然を壊してしまうので、少しでも減らすことができたのでよかったです。

僕達が福島市の自然環境を守るためにできる協力は二つあります。一つ目の協力は、プラスチックやペットボトルのリサイクルです。リサイクルはスーパードなどに置いてある機械に入れることです。それに、このリサイクルはペットボトルを預けられるし、預けた分だけポイントをもらえるのでとてもおすすめです。

二つ目の協力は、ゴミを出さず、長く使えるものを積極的に使うことです。例えば、ペットボトルをたくさん買うよりも、水道水を水筒に入れる方が、ゴミを出さずそれに、一つのペットボトルを買うよりも、安く量もあるのでおすすめです。

このように一人ひとりの協力で、きれいな福島市の環境を守ることができるので、僕はこれからも、「福島市民憲章」の五つの目標を目指してがんばっていきたくたいです。

「福島をもっときれいな町に」

福島市立北信中学校

田 中 大 耀

僕が小学校の頃、夏によく祖母の家へ泊まりに行き、毎回いごと遊ぶのが楽しかったです。祖母の家の近くには大きな公園があつて、まずはその公園へ遊びに出かけます。

しかし、ある日またその公園へ行くと、ベンチの下に大量のタバコの吸い殻だったり、芝生にはお菓子の包み紙やペットボトル、空き缶だったり、公園の至る場所にさまざまなごみが捨てられていました。僕達はそれらを見て、「なぜこのような皆の遊ぶ場所に平然とごみを捨てるのだろうか。そのせいで、自然が壊されてしまうの」と思いました。

それから、祖母の家へ戻り、ビニール袋と木の枝二本を持ち、これから祖母の家へ行くときはごみ拾いをしようと考えました。身近なところのごみを少しでも拾い、

自然を少しでも守れたらいいなという思いからでした。

最初に準備した木の枝を箸のように使い、ごみにさわらずに、ビニール袋にごみを入れる作戦でごみ拾いをしました。最初は二本の枝でうまくごみをつかめませんでしたが、だんだんとやるうちにうまく箸のように使えるようになりました。ごみの分別もビニール袋二枚にそれぞれ燃えるごみ・プラスチックと空き缶と大きく分けてごみ拾いをしました。公園のごみ拾いを初めて行なった日に集まったごみは、ビニール袋二袋半で、想像以上に疲れましたが、集めたごみを見てとてもやりがいを感じました。

それからは、祖母の家へ泊まりに行くときは毎回ごみ拾いをやるようになりました。ごみ拾いをしていたある日、おじいさんとおばあさんがやって来て、「毎回ごみ拾いをしてくれてありがとうねえ」と僕達に声をかけてくれました。そのときの気持ちは、ただただうれしかったです。今度は高校生のような人達がいとこに「ごみ拾いをしてるんだ。ならこれ」と言つてごみを

渡してくれました。

今はコロナの影響であまり祖母の家へ行くことができませんが、僕達のごみ拾いしているところを見て、他の人もごみ拾いに取り組んだり、ごみをそこら中に捨てたりしないでくれれば、公園だけでなく、町までもきれいになるのではないのでしょうか。

僕達はこれからもごみ拾いを続けるので、ぜひ、皆さんも取り組んでみてください。

「あたたかい僕らの町」

福島市立西信中学校

加藤 要

僕の住んでいる町はとてもあたたかいです。道で会ったら笑顔であいさつをしてくださったり、逆にあいさつをすると笑顔で返してくださったりするなど、あいさつがとても多くみんな笑顔です。

僕は小学校一年生のときから中学校の今まで見守り隊の方々にお世話になっていきます。小学校の時と登校時間がほとんど変わっていないので見守り隊の方々とのあいさつは一日の元気をもらえる交流の場となります。ほんの一瞬でもあたたかいあいさつで見送ってくださるので今日一日がんばるぞという気持ちになれて良い気持ちで様々な活動に取り組むことができています。小学生のころ、僕が転んでけがをしましたがったときはばんそうこうを出してくださったり、かぜなどで休んでしまった次の日に登校すると、

「昨日はどうした？大丈夫かい？」

と声をかけてくださったり、僕たちの安全を第一に考えてくれるやさしい見守り隊です。晴れの日、雨の日、雪の日、どんな日も、毎朝交差点に立って、

「おはよう。」

「いってらっしゃい。」

と笑顔であいさつをしてくれます。地域の方々にもたまに、

「おはよう。学校頑張ってるね。」

などのお声がけをいただけるので僕は見守り隊と地域の方々を支えられながら生活できているのを実感できます。僕は、地域の方々や見守り隊の方々にあたたかいあいさつをいただけることがとてもうれしかったので、中学校に入って会うひん度が少し少なくなっても会ったときには必ず、

「おはようございます。」

と笑顔で自転車の上から言うように心がけています。

僕は、地域の方々や見守り隊の方々のあたたかいあいさつの中で成長してきたので、地域の方々や見守り隊の方々にしてもらったことを他の人たちにもしてあげたい

など思いました。そして僕がしたあいさつがどんどん広がって町全体が笑顔の良い町にしていきたいです。一つ一つの積み重ねがとても大事なのでこれからも「あたたかい福島」を目指して日々頑張ってあたす。

「空も水もきれいなみどりのまち」

福島市立西信中学校

轡 田 ほのか

私が住んでいる福島市は、みどりあふれるまちです。私は、生まれたときからずっと福島市に住んでいるため、身の回りに緑があふれているのは、当たり前のことだと思っていました。しかし、新潟県出身の、私の父と母たちは、福島市内から見える吾妻山や一切経山の四季折々の風景がとても気に入っているようです。そして、吾妻山から流れてくる荒川も魅力の一つです。私は、小学四年生の総合で荒川について調べました。調べてみると、荒川の水質はとても良くて、何年も連続日本一になっていることがわかりました。水質がいいのは、地域の方々が川のまわりのそうじをしているからだそうです。荒川では、毎年「ふるさとの川ウォーク」をやっています。これは、荒川のまわりを歩いて、みんなに親しんでもらおうという企画です。西信中学校

では、毎年何人かボランティアをする人がいます。私は、今年はできませんでしたが、来年こそはボランティアをして、観光客の方々にも、荒川に親しんでもらいたいです。さらに、福島市は山や川だけがみどりあふれているきれいなところではありません。福島市中心部もたくさんのみどりがあふれています。たまに駅に行つたとき、道のわきに木が植えてあったり、花だんに咲いている花がカラフルだったりするのを見かけます。その木や花がきれいに手入れされているのは、人々の努力があるからだと思います。環境がきれいになることで多くの人に福島市はいいところだなと思ってもらえたらうれしいです。

私たちが環境をきれいにするためにできることは三つあります。一つは省エネです。できるだけ、使わない電気は消しておいたりすることで、地球温暖化を少しだけですが、防ぐこともできます。二つ目は、ゴミの量を少なくする、または、ゴミ箱以外にゴミを捨てないことです。ゴミをゴミ箱以外に捨てると環境も悪くなるし、見た人を不快にさせたりもします。特にプラスチック

クは川や海の生き物に害をあたえます。三つ目は自主的にゴミ拾いをする、または、環境美化の行事に参加することです。この三つは、小さなことですが、積極的に取り組むことで、福島市をきれいにする事ができると思います。

私は、みんなの住み心地がいい、福島市をつくるために、小さなことでも、積極的に取り組んでいきたいです。

「身近なところから

きれいにしよう」

福島市立西信中学校

佐藤 勇 瑠

私は、夏休みに親子で地域を一斉清掃する活動に参加しました。この活動は、自分の住んでいる地域のごみ拾いを一時間かけて行うというものです。私が住んでいる地域はあづま総合運動公園がすぐ近くにあります、東京オリンピックの野球、ソフトボールの予選試合が行われたあづま球場もある、とても誇りに思う素晴らしい地域です。

この活動に参加して、いつも自分が登下校している道にも意外とごみがたくさんあって、とても驚きました。特に、歩道にはたばこの吸い殻が多く、田んぼや畑の法面にはペットボトルや空き缶などが多く捨てられています。たばこを吸うのは大人なので、きっと吸ったたばこをポイ捨てしたのだらうと思うと、とても不快な気持ちになりました。一斉清掃で率先して活動し

ている大人がいる一方、平気なたばこをポイ捨てる大人がいることに悲しい気持ちになりました。

福島市民憲章に書かれている「空も水もきれいなみどりのまち」福島市は、表面的には空もきれいで水も豊かな素晴らしいまちに見えます。しかし、実際に自分の足元をみると、吸い殻やたくさんのごみが捨てられている現実がありました。私は表面的ではなく、一人一人が自分の住んでいる地域、そして福島市を大切に思う気持ち、本当の「空も水もきれいなみどりのまち」になることにつながるのではないかと思います。

今、世界中で、SDGsの取り組みが目ざれています。その中に「海の豊かさを守ろう」という取り組みがあります。調べてみると、ポイ捨てされたごみを拾うことやごみを再資源化することにより、川などを通じて海に流れ出るごみが減って、海洋汚染を防ぐことがわかりました。世界的な問題を解決するための取り組みを、すでに自分が行っていたことに驚きました。市民憲章には、他にSDGsの取り組み

みと関係する取り組みが多く書かれています。

このことから、大好きな福島市をいつまでも「空も水もきれいなみどりのまち」にしていくには、地域のごみを拾うこと、学校行事「エコティアデイ」で地域の方々に再資源化できる資源を回収する取り組みに協力してもらうことなど、身近で取り組めることを継続して行っていくことが大切だと考えました。そして、それが結果的にはSDGsの継続可能な開発目標の「人間が地球に住み続けること」「より良い世界をつくること」など世界的な目標にもつながるのだということに気が付きました。私は、これからも身近な取り組みが世界につながっていることを考えながら、よりよい福島市をつくる一人になりたいです。

「今の福島を作り上げている

見守り隊」

福島市立西信中学校

村上 大晟

僕は幼稚園の頃、この佐倉地区へ引越してきた。そして、中学生になった今、改めて振り返ってみると、佐倉の人たちは、皆優しく親切で、思いやりがあるのだと感じていた。「ひとにはいつも明るく、やさしい態度で接しましょう」市民憲章を読んだとき、この言葉に、なにか胸を打たれた思いを感じた。身近な人に、いたじゃないかと。家族？…もちろんそうだけど何か違う。先生方？…いや、ほかにもいるじゃないか…。一番心に残っていて、自分達の命をいつも守ってくれている人。もやもやしていないながら、いつもの日常を過ごしているとき、ふと頭をよぎった。

「そうだ、思い出した！見守り隊の方々だ！」

思い出した瞬間、一気に心がすっきりし

た。

見守り隊の方々は、いつも、通学路での交通事故から、私達を守ってくれている。特に、佐々木さんという方には、幼稚園の時からこれまでずっと見守ってもらっている。

佐々木さんのことを思い出していると、ふと、疑問に思ったことがある。なぜ、雨の日も風の日も、ずっと立ち続けてくれるのだろうか。なぜ、いつもあんなに明るく優しく接してくれるのだろうか。佐々木さんはもう八十を過ぎているのだというのに…。

そのとき、母が佐々木さんについて話していたことを思い出した。

「佐々木さん、すごいわよねえ。もう体も言うこと聞かないでしょうに…。そういえば、佐々木さん、最近になつてから、そろそろやめると話していたのに、もう毎日毎日やってくれているのよねえ…。」

そういえば、確かに、小学六年生のときから、休むことが度々あった。やっぱり、体も大変なのだろう。しかし、休んだと言っても、十日程度だった。やっぱり、毎日毎

日変わらず通学路に立ち続けている。

これまでを振り返って、改めて、佐々木さんのすごさと優しさがビシバシ伝わってきた。

自分の体よりも、子供たちの安全を優先しているところ…。大変だと思っけていても、やめない責任感…。いつもいつも明るく接してくれる優しさ…。なんて素晴らしい人だろう。こんなに優しい人が身近にいるなんて…。

僕は佐々木さんへの感謝の気持ちと、こんなに素晴らしい人が住んでいる福島に生まれて良かったと、改めて感じた。

福島の良いところに、自然や伝統などがあるが、親切で愛情あふれる人々が、多く住んでいるところも、福島の魅力だ。

このように、親切と愛情であふれている人々がいるからこそ、今の素晴らしい福島が作られているのだろう。

僕も福島県民として、お手本となるような人間を志していきたいと思った。

「祖父の野菜」

福島市立西信中学校

佐々木 惺 哉

「わあ、おいしい。福島の野菜は本当にやわらかくておいしい。」

と言われたのは、東京に住む親戚に野菜を送った時でした。僕の家では、祖父が毎日、朝早くから夜遅くまで、きゅうりやなすの世話をしています。雨が降らない時は水をやり、草が伸びてきたら草むしり、次に育てる野菜の準備もします。そんな大変な畑仕事を、今年は僕も手伝いました。草むしりをしたり、野菜の出荷準備をしたりと慣れない仕事で大変でしたが、親戚や家族、多くの人達に喜んでもらえると思うと、僕もうれしくなりました。これもきつと福島の水や空気がきれいだからこそだと思いません。きれいな水や空気で、野菜もおいしく育つのだと僕は考えます。

しかし、福島の食べ物をおいしいと言ってくれる人たちだけではないのも現実で

す。東日本大震災で起きた原発事故により、

「福島の食べ物は汚染されている。」

「福島の食べ物を食べると病気になるってしまう。」

と話す人もいると、ニュースで見ただけではありません。僕は心が痛くなりました。事故から十年が経ち、いろいろな所での復興が進み、失われた自然、水、空気が元に戻ってきています。例えば、福島市を流れる荒川は、十一年連続で水質がきれいな川として認められました。また、先日行なわれた東京オリンピックで海外の選手にふるまわれた福島の桃は、

「甘くて、とてもおいしい。」

と喜んでくれた選手もいました。

福島のおいしい野菜やくだものをこれからも作り続けていくためには、僕たち若い世代一人一人が、このきれいな水や空、空気を大切にしていくことが、福島の自然を守っていくことが大事だと思います。そのためには、ゴミのポイ捨てをしないことや、ゴミの分別をしっかりと行なうこと、電気のつけっぱなしや水の出っぱなしをしないことなど、環境を守る行動をとらなければ

いけないと思います。これらのことは、福島だけでなく地球全体の環境にも関係していると思います。

いろんな人がおいしいと言ってくれる祖父の作った野菜が、環境がよごれることで不評になってしまったら困ります。いつまでもおいしい野菜を作れるように、福島の環境を守っていききたいと思います。

「きれいな環境きれいな水」

福島市立大島中学校

安藤 美琴

私はどうしたら、まちや職場や家庭を木や花のいっぱいある美しい環境や家のまわりや道路、公園、河川などをごみのないきれいな環境にするにはどうすれば良いか考えてみました。

まずは、海や川などの水をきれいにするためにどうすれば良いかです。海や川には、ごみをすててはいけないと思います。ごみをすてることで水がきたなくなってしまうし、海や川の中にいる生き物たちがいをおたえてしまうおそれがあるかもしれないからです。

次に、道路、公園、河川などにごみがあること、道路、公園、河川などにごみが多いためです。私が毎日通る通学路にも多くのごみがあります。それは、空き缶や空きビン、タバコの吸いがらなどです。どうしたら、これらのごみが減るのか考えてみました。自動販売機の場所に回収

容器を設置すること、車内にごみ箱を備えつけないこと、すぐ不用になる袋は最初から断るようになること。など、一人ひとりが、意識を持って取り組むことが大切です。「ちょっとだけだから…」という勝手な行動がきれいなまちを汚してしまいます。ポイ捨てからやめていくことが大切だと私は思います。

日本を訪れる外国人が一番驚くことは、街のきれいさということを知ったことがあります。私は、はじめはなぜ？外国は、どんなにごみが散らかっているのか疑問に思いました。確かに日本は、小学校から高校までの十二年間学校で清掃する習慣があります。このあたり前のことが、外国ではあたり前ではなかったのです。知らず片づけることが身に付いているということ、誰かがやるだろうではなく、自分たちでまをきれいにするという考えの人が増えてくれるといいです。

学校帰り、道ばたの花だんに花が咲いているのを見ると、落ち込んだ心もなんだかいやされます。うえた人は、毎日の花の成長にうれしくなると思うし、花を見た人も

明るい気持ちになります。

私の住む福島市を日本一きれいなまちで日本一花にかこまれた明るいまちになることを願っています。

「飯坂町の宝物」

福島市立大鳥中学校

大西 慧 一

飯坂は自然に満ちたととても心地よい住みやすい町です。

しかしそんな心地よい町を少しずつ傷つけているのです。

ぼくはよくすり上川や、小川の横を通ります。橋から川を見てみると、洗剤が流れていたり、ぼろぼろで使えなくなったやかん、たまごのから外で遊ぶことが好きなので、小さいころから外で遊ぶことが好きなので、おじいちゃんによく川へ遊びに行きました。水はにごっていてきれいとは言えません。でもぼくだけの力ではなにもすることはできません。なので町全ての人が、油やとぎ汁など生活でよごれた水をどうすれば、川に流さないか、工夫することが大切だと思います。

例えばとぎ汁を植物などにあげたり、使った油を紙でふきとったり、ほかにもイ

ンターネットなどを使いみんなの力ですり上川、小川をきれいにしたいです。

しかしきれいにするのは、川の水だけではありません。川岸もきれいにすることが大切です。ぼくがこれまでみてきた川岸にいる生物は数えきれません。鳥や昆虫、へびなどが生息します。川岸は、生物の家なのですがそこには、多くのごみが捨てられています。自転車や車のタイヤ、ブルーシートなどが捨てられています。ぼくはおじいちゃんやと拾うことができる、ペットボトルや、空きカンをなんとか拾っています。すが、きりがありません。

なので、川岸とかぎらず、ポイ捨てをしないという気持ちで自然への愛情だと思います。

みんなにも愛情をもつてほしいです。ぼくはごみを捨てるのがめんどうくさいという気持ちや、めんどうくさいから油も流しちゃえという気持ちと行動で自然や、自然に愛情を持っている人を傷付けていると思います。

まずは、自然を好きになり、自分ができる最低限を尽くすことが大切だと思います。

す。その心が、川をきれいにすると思います。

ぼくはこれからも川への愛情を持ち、いつか、飯坂のきれいに生まれ変わった川でたくさん泳ぎたいです。

「人とのふれあい」

福島市立大鳥中学校

斎藤 南未

私は小学四年生のときに、老人ホームに行き、おとしよりのの方々を元気にするための取り組みをしました。班のみんなで劇をひろうしたり、リコーダーで演奏したり、歌を歌ったりしました。

おとしよりのの方々からは、

「元気になったよ。」
や、

「ありがとうございます。」
と言ってもらいました。

自分から積極的におとしよりののために何かをするのは初めての経験だったので、きんちようや不安がありましたがおとしよりのの方々の元気な姿や楽しそうにしている姿をみると、自分自身も楽しみながら活動することが出来ました。

子どもからおとしよりを元気づけることができるけど、おとしよりのの方々から元気

をもらうことができるんだなと思いました。

その他にも、朝、学校に登校しているときや下校中も話しかけていただいたり、

「おはよう。」
や、

「おかえりなさい。」

と声をかけていただくことがあって、自然とあいさつをすることができるようになりました。私は人見知りではずかしがり屋な性格なので、初対面の人と話すことが苦手でした。ですが、おとしよりのの方やすれ違う人達とあいさつをしたり、お話しをしたりにしていくようになって、最近は初対面の人もあまりきんちようせずに話せるようになってきました。

おとしよりのの方にかぎらず、初対面の人や道で会った人にはあいさつをしたり、お話しするだけで、苦手だったことも少しずつ直すことができるということが知れて、人と接することは大事なんだなと思いました。

人とあいさつやお話しをするだけでなく、だれにでも親切にやさしく接すること

も大事だと思います。おとしよりのの方や、手足の不自由な方、目が見えなかったり耳が聞こえなかったりする障がい者の方々に、明るく、やさしい態度で接し、相手に親切なことを自分から進んで実行できるような人に私はなりたいです。

一人一人がこのことを意識すれば、福島市がより良いまちになると思います。

「空も水もきれいなみどりのまち」

福島市立大島中学校

佐々木 梨 乃

私の家の近くの雑草がおいしげっている所には、いつもあき缶やお菓子の袋などが落ちています。車や人の行き来が多い道路からも見える所なので、私はいつも気になっていました。ここを、福島市民憲章の『空も水もきれいなみどりのまち』にしたがって、いつでもごみがないきれいな場所にするにはどうしたらいいか考えてみました。

私が考えたことは二つあります。まず一つ目は、そこを通った一人一人がごみを見つけたら一つでもいいから拾うということです。さすがに、一人で毎日ごみを拾うのは疲れるし、あきてしまうので、みんなで協力したほうがいいと思いました。例えば、そこを一日二十人くらいが通るとしても、一人一個拾えば二十個のごみが無くなりません。一人で二十個拾うより、二十人で二十

個拾ったほうが楽だと思います。

でもそのためには、そのことを通る人たちに知らせなければなりません。そこで考えたのが、二つ目の、ポスターを作ってみんなに知らせることです。例えば、ごみを拾ってもらうことにつながる俳句や短歌、言葉などをほ集めてその中から良いと思ったものをポスターに書いて、ごみが落ちている場所の近くにはったりすればいいと思いました。そこをよく通る人や近所に住んでいる人にポスターを小さくしたチラシを配るのもいいと思いました。また、私は学校で放送委員会に入っているので、放送でごみについてくわしく分かっていない人たちに、ごみがおよぼす危険を知らせることもごみを拾ってもらうことにつながるかなと思いました。

私は、コロナが流行する前の夏休みに友達と一週間くらいのキャンプに行きました。そこで海で起こっているごみ問題について初めて知りました。ごみが体からまったアシカやアザラシ、間違っでごみを魚だと思って食べてしまった鳥たち。地球の大陸や島の周りの海は宇宙から見ると黒

くなっているということ。このことを知ったとき、私の体はふるえていました。なんて残こくなんだと。人間が流したごみのせいで、何の罪もない動物たちが苦しんでしまうことがとても悔しかったです。私はこのときからごみについてとてもびんかんになりました。このようなことがもう二度とないよう、私が考えた二つの案が福島市民の人たちだけにでも伝わればいいなと心から願っています。

「福島の自然を守り続けるために」

福島市立大島中学校

扇 田 達 也

みなさんは、福島市を自然いっぱい、環境のよいまちにするには、どのようなことをすればよいと思いますか。ぼくはこのようにすればよいと考えました。

まずはじめに、福島市の自然や、環境について知ることが大切だと考えました。理由は、福島市の自然や環境の特徴や問題点を知れば、福島自然に対してより興味をもつことができ、自然を守る取り組みなどに積極的に参加するようになるのではないかと思います。

次に、自分から自然を守る取り組みを少しずつしていくことがよいと考えました。落ちているごみを拾う、ごみをしっかりと分別する、水をむだづかいしないようにするなど、身の回りからできることをしていくことで、それがあたりまえとなり、自然と身についていくのではないかと考えまし

た。

それから、自然を守る取り組みを、人にすすめていくことがよいと考えました。いくらか少ない人数で取り組みをしたとしても、福島自然を守っていくことはできないと思います。だから、大人数で取り組みをしていくことが大切だと考えました。そのためには、人にすすめていくことが必要です。活動をいっしょにしようと思つてみたり、ポスターで呼びかけるなど、方法はいくらかあります。こうして多くの人が、自然を守る取り組みをしていけば、福島だけでなく、世界中の自然を守ることができると思いました。

最後に、福島市の自然を守り続けていくにあたって、自然との関わり方を、一人一人考えることが最も大切だと思えました。自然は僕たち人間に必要不可欠なものです。しかし最近では、環境にあまりよくないことをしている人を多く見かけます。だから一人一人考えることで、最近の環境問題に対して向き合うことができ、今自分が何をすべきかが分かるのではないかと考えました。

福島市の自然を守り続けるためには、市民一人一人が問題と向き合い、考え、実行することが大事だと思います。たった一人がどのように行動するかで変わるかもしれませんが、福島市の自然を大切に、美しく、きれいな環境の、「空も水もきれいなみどりのまち」を市民一人一人でつくっていく、いつまでも福島自然を守り続けていくことを目指しましょう。

「きれいな福島市をつくるために」

福島市立大島中学校

紺野 葵

私は学校から家に帰ると、ニュースを見るとときがあります。その中でゴミのポイ捨てなどに関するものを多く目にします。そのことで、どうやったらゴミのポイ捨てが減るのかを考えて書いてみました。

私が学校に登校しているときに下に何か落ちていたものがあったので見てみたら、それは空き缶でした。私は拾うことなく、スルーして行ってしまいました。下校しているとき、もう一度その場所を通ってみたら、もう空き缶がありませんでした。誰かが拾ってくれたのかと思っていました。その日もニュースが流れていたのを見てみると、ゴミのポイ捨てを減らそう、という字幕と一緒に一人の男性がゴミを拾っている映像がうつっていました。最後には、大きいゴミ袋にゴミがパンパンに詰まっています。しかもその人は、福島市を回って毎

日ゴミを拾っていたのです。

それを見ていて私は、

「なんで毎日毎日続けてゴミを拾ってくれているんだろう。」

と思いました。日によって、その人のゴミ袋に入っているゴミの量が二袋分、多いときには三袋分も入っているのです。そのとき、

「いつもありがとうございますね。」

と一人の女性が言葉とどうじにさし入れを渡していました。そういえば、前にもそのような人がいたなと思います、毎日その人がゴミを拾い続けられているのは、町の人からの感謝の言葉などから支えられていたのだらうな、と感じました。

私は前に、育成会で町のゴミを拾おう、というイベントに参加したことがあり、三十分程度でたくさんゴミを拾うことができました。しかし、そのイベントは一度しか開きいしてはなく、町にもゴミがたくさん落ちていような状況になってきてしまっています。なので町のごみを減らすためにも、前に見た缶をスルーするのではなく拾ったり、じゃまにならないところに置

いといて下校の時にきちんと捨てるなど、そういうことを意識していきたいです。それに、ごみ置き場にはたくさんのカラスが袋を破いてちらかしたり、そういうふうな景も見られます。今かかっているあみでは、あみめが大きいから荒らされているのではないかと思ったので、もう少し細かいあみめの物をゴミの上にかけるなど工夫していきたいです。

私一人では、福島市をキレイにすることは出来ませんが、町の人たちと力を合わせて活動すればきれいになると思いました。全くゴミが落ちてない、というのは難しいと思いますが、それを目指して頑張るのも大切だと思いました。

「自然を大切にする」

福島市立大鳥中学校

佐藤 璃空

私は自分の住んでいる地域の自然を大切にするにはどのようなしたら良いのかを次のように考えました。

まず一つは、ごみをポイ捨てしないことです。私の住んでいる地域を見ると、ごみがポイ捨てされてしまっているところがいくつかあります。そこに、さらにごみがポイ捨てされてしまつては景観が良くないところになってしまい、自然は大切にされていけないことが分かります。自然を大切にすることがなくなつてしまえばその人も地域も自然も良くなってしまいます。そのようなことにはならないようにするためには、一人一人が自然を大切にしようとする心を持ち、それを続けていく必要があります。そのためにもポイ捨てをしないようにして、自然を大切にしていきたいでしょう。

もう一つは、美しい環境を作り、水も大切にしていけることです。ポイ捨てをしなくなつていくことは良いことです。しかし、それによって出すごみの量が増えてしまふことになるのではないかと私は考えました。そこで、ごみを増やさないためにも、リサイクルをしたり、欲しい物を無駄に買つたりせずに、本当に必要なものだけを買ひ、少しでもごみの量を減らすことが大切だと思います。そして、ごみを減らしたことによつて、美しい環境も生まれてくると思いますので、ごみを減らす取り組みをしていきましょう。もう一つの、水も大切にすることというのは、川や海などを大切にすることになります。川や海が汚れてしまうと、魚達がそこに住むことができなくなつてしまいます。そのようなことにはしないためには、一人一人が川や海にごみをポイ捨てしないように心がけたり、油や洗剤などを水と一緒に流さないようにしていく必要があります。人だけがより良

くくらすという考えを持つのではなく、他の生命も大切にしていけると考えの方が良いと私は思います。例え、それが難しい

ことだとしても、自分達ができることから行つていき、だんだんと大きなこともしていけると良いと思います。皆さんも、今、自分達が水を大切にするためにできることをしっかりと行つていき、だんだんと他のこともできるようにしていきましょう。

このように、自然を大切にするために私達ができることはいくらかでもあります。一人一人が意識して、自然をより良くしていくことを大切にしていきたいでしょう。

「事故から身を守るには…」

福島市立大鳥中学校

六 戸 美 咲

みなさんは、交通ルールがなぜあるか、よく考えた事ありますか。私は、よく歩行者も車も両方を付けるべきだと考えます。

私は最近車に乗って出かける時に外をみるようになりました。外を見てみると、赤信号なのに横断歩道をわたっている人もいれば、歩きスマホやスマホを見ながら自転車に乗っている人も見かける時がありました。このような人達を見かけるといつも、「交通ルールがある意味がなくなっちゃうじゃん。」

と、お父さんと話していました。また、だんだん暗くなってきたころにお父さんと車で出かけている時、全身真っ黒の服を着ている人がいました。私とお父さんはその人を通りすぎる少し前まで互いにまったく気付きませんでした。その時初めて夜中の時

の服装について考えるようになりました。ですが、最近では夜中に反射材をつけている人をよく見かけるようになりました。中学校では靴やサブバッグにも反射材がついていました。私はそれに加えて小学校でもらった反射材もつけています。朝から夕方はまだ明るい間では、服装は何でも良いと思いますが、夜は黒などの暗めの服より白などの明るめの服にすると運転手側も歩行者の存在に気付くやすと思います。さらに明るめの服に反射材も身に付けると、運転手さんは絶対に歩行者の存在に気付くと思います。

私は、車のことについてはあまり知りません。ですが、お父さんと車に乗っていると何個か気になる点がありました。一つ目は、スピードです。お父さんと車に乗っているとお父さんもほかの車もだいたい同じくらいの速さなのに、ほかの車もぬかしてすごい速さで走っていたりしてとても危険だと思いました。二つ目は、ウインカーです。曲がる時にどちらに曲がるかウインカーをつけるらしいのですが、そのウインカーをつけなくて曲がっている車がありました。曲

がる時はスピードが落ちるのでウインカーをつければ後ろの車もスピードを落とすことができると思いますが、ウインカーをつけなくて自分は曲がろうとしているのでスピードを落とせませんが後ろの人はそれを知らないので急にスピードがおそくなったら後ろの車とぶつかるかもしれないと思いました。スピードについてはあまり知りませんが、曲がる時はウインカーをつけてほしいと思いました。

最近、事故も増えているので、事故から自分の身を守るには歩行者も車も交通ルールを守ってほしいです。私は、「自分の命は自分で守り、相手の命はうばわない」ということを心がけたいです。

「親切で愛情あふれるまち」

福島市立大鳥中学校

高橋 宙来

私は、福島の人達が誰にでも優しく接する事ができるまちになってほしいと思っています。愛情があふれたまちにするためには、三つの事が必要です。

まず一つ目は、子供やお年よりに親切にする事です。電車などでお年よりに席をゆずる事や、あいさつをする事もとても大切な事です。子供やお年よりの方だけに親切にするのではなく、日々、小さな少しの事だけでも、いろんな人達に優しくできればいいなと思います。

二つ目は、誰にでもできる親切を、自分から選んで、実行する事です。親切にできる人というのはかざられていません。誰にでもできます。親切で愛情のあるまちにするためには、誰かがやるのではなく、自分から実行しなければなりません。そのために、日ごろから、何かをしてもらった時や、

何かをもらった時、自分がうれしい事をされた時に、ありがたうという事も親切にしているなど私は思います。自分で言うのもなんですが、私は、人に優しくするという事を、実行できていると思います。もちろん私だけではなく、周りの友達なども相手の事を思って優しく接している人もたくさんいます。なので、これから、たくさんの方が人を思いやり、親切に優しくできる人が増えていって、良いまちになってほしいです。

三つ目は、人にはいつも明るく、やさしい態度で接する事です。愛情あふれるまちにするには、人に優しくする、親切にするという事だけではありません。いつも明るく接するという事も大切です。なぜ親切で愛情あふれるまちにするために、いつも明るく接する事が必要なのでしょう。私は、まちに、元気さも必要だからなのかなと思います。小さな子供から、お年よりの方まで、元気で明るい人が多ければ、まち全体も明るくなるし、毎日が楽しいと思います。なので、私も、いつも明るくする事は難しいかもしれませんが、できるだけ、毎

日、明るく過ごそうと思いました。

私は今、親切で愛情あふれる町にするにはという事を考えてみて、この町にたりない事も多いなと思いました。ぜひ、自分から実行し、いろんな人が意識するようになって、みんなが暮らしやすく、楽しく、幸せなまちになってほしいです。

「安全なまちをつくるために」

福島市立大島中学校

安田 蓮

私の身の回りには安全なまちをつくるために努力をしている人たちが、たくさんいます。

まず私が学校に登校するときには黄色の旗を持って、私たちが安全に横断歩道を渡るように車を止めてくれる人がいました。その人は私たちにあいさつをいつもしてくれます。私はその人をいつも見ると安心して学校に行きました。

たまに不審者やクマの目撃情報がありました。ですが、その時にも私たちが安全に暮らせるように努力している人たちがたくさんいました。まずは学校の先生方です。私たちのような子どものために、登下校のときは通学路の見回りをしてくださり、安心して学校に行ったり、家に帰ったり出来ました。次は市役所の方です。学校の先生方と同じように見回りしたり、放送を流したりして

くださりました。最後は警察の方です。私たちが学校で過ごしている時もパトロールを行って不審者やクマがいらないか安全に気をつけて私たちのためにできることをしてくださりました。

このように交通ルールを守らせようと、必死にがんばっているボランティアの人達もいる中、交通ルールを守らない人がいるのも事実です。

これは、私の家の近くで起きたことですが、私が学校に行く時、信号のところを見たら、多くの車が通る中、一人の男の人が横断していいところを渡っているのではなく、横断線がないところを渡っていました。これを見た私は、やはり交通ルールを守らない人が多いなと思いました。

また、私の家族といっしょに出かけた時、車で信号が青になるのを待っていたら、信号を無視して行く車が三台くらいいました。もしもあと少し遅かったら、事故になっていたかもしれません。

この二つのことを体験した私は、交通ルールを守らない人を無くして、福島市の交通事故を無くしたいと思いました。その

ためには、改めて家庭の場や公共の場で交通ルールについて学んで生かしたり、ボランティア活動に参加したりすると、いつかは交通ルールを福島市民全員が守れるかなと思いました。

私も改めて、交通ルールを見直して、地域のボランティア活動に参加したいと思います。これからは交通ルールをしっかり覚えて生かしましょう。

「きれいな町・

すごしやすい町にするために」

福島市立西根中学校

木村 瑠奈

私達のまわりには、自然があります。その自然のまわりにはゴミがおちています。町をきれいにするため、すごしやすい町にするために、どうすればいいのかを考えました。

まず、私が体験した事から話します。私は学校が終わって家に帰る時、ゴミがおちていました。ペットボトルや缶、おかしのおくるなどがおちていました。私はポイ捨てをする人がいるんだなとがっかりしました。

次にポイ捨てをしないようにするためには、どんな対策が必要かを考えました。道にゴミ箱を設置したり、ボランティア活動でゴミ拾いをしたり、ゴミを見つけたら無視をしないで拾って持ち帰るなど、私達にできる事はたくさんありました。他にもポ

スターを多くの人の目にとまる場所にはれ
ばいいと思いました。

あともう一つ私が体験した事を話しま
す。公園や道ばたに雑草が生えていまし
ます。雑草があると歩きづらく、そこで遊びたく
はない、虫が寄ってきて遊びに集中できな
いという気持ちになります。

次にこの気持ちにならないようにどんな
対策が必要かを考えました。ボランティア
活動で草むしりをしたり、公園の地面をコ
ンクリートにしたり、除草剤をまいたりす
るなどいろんな対策がありました。

次はすごしやすい町にするためにはどう
するのかを考えました。

まず、私が体験した事を話します。学校
へ行く時近所の方に「おはようございま
す。」とあいさつをしても、返事が返って
こない時がありました。返事を返してくれ
ないと、嫌な気分になったり、その日が憂
鬱な日になったり、自分の生活に支障がで
るかもしれません。

このような事がおきないように、どのよ
うな対策が必要かを考えました。あいさつ
運動に参加したり、大きな声ではっきりと

したあいさつをしたり、あいさつカードを
作って、元気よくあいさつができたら色を
そめるなど一日を楽しく過ごせる対策がた
くさんありました。

最後にこれらの対策をまとめます。きれ
いな町にするためには、一人一人が協力し
て、ボランティア活動に参加したり、ポス
ターなどを使って多くの人の目にとまる所
にポスターをはったり、自然を大切にす
る思いが大切だと思います。

すごしやすい町にするためには、あいさ
つ運動に参加して一日を楽しく過ごせるよ
うにする事や、コミュニケーションをとり、
近所の人と距離を近づけることが大切だと
考えました。この対策で、ポイ捨てをしな
い人、元気よくあいさつをする人が増えて
いるとうれしいです。

きれいな町、すごしやすい町になるよう
に、私達もがんばりたいと思います。

「ゴミのポイ捨てについて」

福島市立西根中学校

佐藤 希光

僕は、ゴミのポイ捨てについて調べることになりました。調べようとしたその理由は、最近学校の登校中にいくつか捨てられていたゴミを見つけました。そのゴミはどうしてポイ捨てされているのかを知りたかったからです。

僕はよくゴミが多いなと思う場所を考えてみました。よくゴミが多いなと思う場所は、公園、海、川、人が多く集まったあとの町中などでした。そこで僕が特に目を付けたのが、人が多く集まったあとの町中と海でした。

まず、人が多く集まったあとの町中というのは、何かのイベントや、ワールドカップのことです。よくテレビやYouTubeでも町中でゴミ拾いをしている人をよく見かけます。

その中でも特に多いゴミは、ペットボト

ルや、ビニール袋です。その量は、なんと何十から何百キロにもなります。僕は、どさくさにまぎれてポイ捨てをしているのかなと思います。

そして次は海についてです。海でも、ゴミ袋や、ペットボトルなどが見られます。

そして最近海などに捨てられていたゴミで話題となっています。それは、ウミガメの鼻に、ストローがささっていた事です。えさとまちがったのでしょう。これを聞いて僕はとても悲しくなりました。何も罪のないウミガメが人によるポイ捨てで痛みをあじわってしまったのです。プラスチックは、自然に分解されず、環境を汚すだけではなく、動物にも被害を与えてしまうのです。

これをもとに、地球にも環境にもエコにする考えを二つ考えてみました。

一つ目は、プラスチック製品を減らすことです。今はコンビニなどでは、レジ袋を削減するためにレジ袋を有料にしています。ですが、レジ袋を有料にしてもまだレジ袋を買い求めている人がいます。なので僕は、レジ袋ではなく、エコバッグなどもつ

と環境にやさしい袋を使ったり、売ったりするべきだと思っています。

二つ目は、公園や、テーマパーク、コンビニなどに、せっちされているゴミ入れを、質問形式にすることです。どういうことかといいますと、ゴミ入れの前に質問をせつちします。例えば、ソーダか、コーラどっちが好き、という質問にします。そしたら、ソーダとかかかっているゴミ入れか、コーラとかかかっているゴミ入れどちらかにペットボトルなどのゴミを入れます。そうすれば、ゴミの量は少なくなるし、小さい子から、お年よりまで楽しくゴミを捨てられると思います。

地球+動物を守るためにみなさんで取り組んでいきましょう。

「福島市民憲章に対する現実」

福島市立西根中学校

佐藤 真陽留

皆さんは、きれいな町といったら何を思いつきますか。私は道にゴミがない町が浮かびます。市民憲章にも『空も水もきれいなみどりのまち』とありますが、実際どうなっているのか飯坂の現実を話していきます。

飯坂には西根堰という人工の川があります。ある日の帰宅中、私が西根堰の近くを歩いていると、老人が家から出て来て、持っていたティッシュを西根堰に投げたのです。何故ゴミ箱に捨てないのか私は不思議でしかたがありませんでした。

更に、私の中学校の近くには生徒がよく通る大通りがあります。そこには、大分長さのある雑草が沢山生えていました。ですが最近、その雑草が処理されたらしいのです。以前から友達と話しながら帰る際、雑草をよけながら歩くので、どうしても一人

は話についていけなくなり困っていたのです。ですので、私はこのとき感謝と喜びの気持ちで胸がいっぱいでした。ところが、そんな期待を裏切るかのように、大通りには処理されたはずの草がそのまま置いてあったのです。処理するなら最後まで手を抜かずによればいいのにと心の中で少しがっかりしました。

さて、飯坂にある小学校の近くでの出来事です。小学校から少し歩くとコンビニがあり子供たちは、よくそこで待ち合わせをし、飲み物などを買って遊びに行きます。ある日のことです。私は小学校前で待ち合わせをしていました。立っているのも疲れるので小学校の門近くにある坂に座りました。ふと下を見ると、ガチャポンのカプセルやお菓子の袋が坂と建物の間に捨てられていました。自分のことは自分でやるみたいなこと言われなかったのかなと内心、不思議に思いました。

このような体験や出来事から、飯坂をきれいな町にするために私は、三つの対策を考えました。

一つ目、ポイ捨てに関するポスター作り

です。町の人たちの目にふっと入るようなポスターを作り呼びかけをすれば、少しはポイ捨てを改善できると思うからです。二つ目、遊ぶときの袋の準備の呼びかけを行うです。買ったジュースやお菓子を袋に入れて持ち運べばそこから取って食べたりますのでポイ捨てを少なくできると思います。

三つ目、日頃からのボランティア参加の呼びかけを行うです。日頃から積極的にゴミ拾いなどをすれば、拾う側の気持ちが変わり、ポイ捨てをする人が減ると考えました。

これまでの話を聞いて、きれいな町にするためには、沢山の課題があるということに改めて実感できたと思います。皆さんもきれいな町にするために、自分のできることから始めていきましょう。

「親切で愛情あふれるまち」

福島市立西根中学校

菱 沼 未 空

私は福島市民憲章に関する内容で親切で愛情あふれるまちについて考えました。

私が小学生のころ養護盲老人ホーム緑光園に行きお年よりの方々と歌をうたったり、少しお話をしてふれあいました。歌をうたった時に、みんな喜んでくれてあたたかい気持ちになりました。小学生の時、敬老の日に合わせて敬老会で歌を披露した時も泣いて感動している人もいて私もうれしくて泣きそうな気持ちになりました。私は、みなさんにもこの気持ちを味わってほしいと思いました。親切で愛情あふれるまちをつくるためにまず相手に親切であることを意識するのが一番の対策だと考えました。実際、お弁当屋さんに行った時にドアを開けられず困っていたおばあさんを誰も助けていなかったのを見ました。こういう時は無視せず、少し声をかけてみ

たり、手伝ってあげたりすれば、いいのではないかなと考えました。ほかにも誰かに親切にする方法はたくさんあると思います。みなさんが思う親切にはどのようなものがありますか？私は、相手の気持ちを考え思いやりをもって人と接することも親切にあたると思います。例えば、普通に会話をしている時も、私がこう発言したら相手はどう感じるのか、今こんな行動をしたら相手はどう思うのかを考えて人と接することもいいと思います。そうすれば、相手が嫌な気持ちになることも傷つくことも減ると思います。そうなることでおたがい思いやりをもって親切に人と接することができるのではないのでしょうか。

しかし、親切で愛情あふれるまちをつくるには、みんなが意識して行動しないと、愛情あふれるまちは、つくることはできません。親切で愛情あふれるまちをつくるには、みんながこのことを意識し、行動することが大切です。みんなが意識して、協力することで、絶対に実現できると思います。みなさんも、つねに親切であることを心がけてみてください。私も、親切でいること

を忘れずに生活していきたいと思っています。

「安心安全な町」

福島市立西根中学校

星 碧 翔

ぼくが思う安心安全な町はみんなで助け合い楽しく過ごすことです。

ぼくが体験したことは二つあります。一つ目は、助け合うと仲良くなれることです。わからないときや手つだつてほしいときなどにまわりで手つだつてくれる人がいたら助けてもらい、次にその人が困っていたら手つだつたりすることで仲良くなり楽しく生活ができるようになります。

二つ目は安心すると落ちつけることです。ぼくは大ぜいの人が注目するのが苦手でいつも始まる直ぜんまで緊張してなかなか落ちつけないけれど自分の番が終わるとほっとして緊張がだんだんしなくなっていくので大ぜいの人達と仲良くなり注目されても緊張しないようになるのでみんなと仲良くなることは大切だと思います。

ぼくが思う安全な町にする対策が三つあ

ります。

一つ目は、事件・事故防止を呼びかけることです。最近では殺人やせつとうなどの事件が多くなっていつているので、町で呼びかけたり、ポスターなどの目立つようなことをして町の人などに伝えていけたら事故が少なくなると思います。

二つ目はみんなで協力をすることです。安心安全な町をつくっていくには一人だとなかなか変わらないので町の人達と協力して、どのようにすればなくなるのかや身近におこりそうなことなどを考えてそのときどのように対しょしていくかなどを考えるとそれが役に立つ時に実行をすればみんなが団結して安全な町がだんだんできあがっていくと思います。

三つ目は何かいけないことをしようとしている人がいたら注意して止めることです。いけないことをしようとする人はだいたい見ためや性格が怖い人が多いですが、注意したら何かされると思っ注意しなければ町が安全じゃなくなっていくので勇気を出して注意すればその人のためにもなるしみんなのためにもなるのでいけないこと

をしようとしている人がいたら優しく注意してあげることが大切です。もしも注意する勇気がなかったり一人じゃ手におえない場合は、まわりの人を呼んだり警察の人を呼び安心安全な町をつくりましょう。

「町の環境について」

福島市立西根中学校

横山陽紀

ぼくは、この町の環境は、ゴミが捨てられていたり、捨てている人がいたりするの
かについて調べてみました。

小学校五年生の時に、ぼくはオリエン
テーリングをしました。オリエンテーリン
グではゴミ拾い活動をしました。ゴミ拾い
活動でゴミを探していると、ペットボトル
などで、まとまったプラスチックゴミなど
を見つけました。コンビニなどがある、人
が集まる所などやその近くは特にゴミが多
かったです。けれども、プラスチックゴミ
よりも多かったのは、たばこの吸いながら
たばこの入っていた箱などでした。それに、
紙くずなどを道路に捨てている人もいまし
た。なぜこのようなことをするのかとぼく
が思ったことは、人が集まる所の方がゴミ
が多いということと、道路のはじの歩道な
どには、ゴミがたまっていたりしました。

このような結果で、ゴミを捨てる人やゴ
ミの出る量は多いと思いました。

そこでぼくが考えた対策は三つありま
す。

一つ目は、ゴミを捨てている人を見かけ
たら注意をすることです。理由は、ゴミを
道などに捨てている人に注意をすると、看
板などで「捨てないでください。」と呼び
かけるよりも、人から言われた言葉の方が
説得力もあると思うからです。

二つ目は、看板などで呼びかけること
です。

理由は、確かに、人から注意してもら
うよりも説得力はないと思いますが、看板は、
道や人通りが多い所に立てて置けば、一年
中ずつと呼びかけることもできるから
です。

最後に三つ目は、ゴミ箱を人通りが多い
所や人が集まりやすい所に置くことです。
理由は、ゴミを持つていて、じまな時に、
ゴミ箱が見つからなくて、その辺に捨てて
しまうことも多いと思ったからです。それ
に、ゴミ箱が一つだけだと、燃えるゴミが
捨てられるのか、燃えないゴミだけが捨て

られるのか分からなくて、分別をしないで
捨てることもあると思うので何個も置いて
分別してもらおうことも大切だと思いま
した。

このような対策をすればこれからも町の
環境を守ることができると思います。

「福島市民憲章」

福島市立信夫中学校

佐藤 菜月

私は今回、初めて福島市民憲章を知り、それぞれの憲章について、自分達にできる事などがあるのかな、と考えました。

まず「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」という憲章を見て、福島市はたくさんのみどりがあるな、と改めて感じました。私の中学校の周りも山や畑があり、自然がたくさんあります。川の水などもきれいですが、川の周りなどにゴミが落ちているのを見たことがあるのを思い出し、少しでもゴミ拾いをする事で、もっと水がきれいになるのかな、と思いました。「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう。」という憲章では、文化という言葉について考えました。いつまでも伝統ある福島市にしていくために、福島市の伝統や、文化財を大切にしていきたいです。「親切で愛情あふれるまちをつく

りましょう。」という憲章には、親切という言葉から、ボランティアが思い浮かびました。私は、ボランティアに参加したことがあまりないので、最初の憲章と同じく、ゴミ拾いや、自然のためのボランティアなどに、積極的に参加していきたいです。そして、ただ参加するだけでなく、しっかりと目的を持って活動したいです。「きまわりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。」という憲章では、まず、きまわりという言葉に目がきました。私は、きまわりを気にして生活することは、あまりありませんでしたが、これからは日頃から気をつけ、周りの人が守れていなかったら注意し、みんなが楽しく生活できるまちにしたいです。そして、力をあわせて、という言葉からは、譲り合いなどが思い浮かびました。私が横断歩道で待っている時などに、車を運転している人が、止まってくれたり、手で「どうぞ」としてくれる人がたくさんいるな、と思い、私もそんな大人になりたいと思いました。最後に「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」という憲章では、私が部活

をしている時などに、子どもやおとしよりなど、たくさんの方が中学校の周りなどを、楽しそうに歩いているのを見かけるので、福島市は誰でも安全に生活することのできるまちだな、と思いました。安全で健康なまちづくりのためには、今は密をさけ、しっかりマスクをすることも大事だな、と思いました。

この作文を書いて、たくさん自分達にできることがあると、改めて思いました。少しずつでも活動をし、さらに暮らしたい、みんなが笑顔な福島市にしていきたいです。

「福島市民憲章を知って」

福島市立信夫中学校

大和田 幹

「福島市民憲章」僕は福島市生まれ、福島市育ちですが、全くこの憲章のことについて知りませんでした。

福島市民憲章の一つ、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」これを見て思い出したことがあります。

小学校のころに地球温暖化のことについて調べていたことです。地球温暖化の主な原因の「二酸化炭素」を減らすのに、植物を増やすことで「少しは二酸化炭素を減らすことができる」というものです。僕は、何もやらないより、少しでも効果のあることをするのは大切だと思った記憶があります。

さらに、環境のことについても調べていました。例えば、森林があると「水をきれいにすることにつながる」というものです。雨などが森林などに降り、森林の土を通っ

て地下に流れることで、水がきれいになって出てくるのです。水がきれいになるということは、川の水がきれいになり、川の水がきれいになるということは海の水もきれいになり、魚などのためにもなるのです。みどりを増やすことだけで、色々なところでメリットが見られることに驚いた記憶があります。

こんな風に、みどりを増やすことで環境面のところでメリットがありますが、僕は環境面だけでなく、みどりが増えると福島市の「未来のまち」にもメリットがあると思いました。積極的に「みどりを増やす」活動をするので、「みどりを増やす活動は楽しい」や「みどりを増やす活動をもつとやりたい」と思う人が増えれば、「自然がたくさんある、素敵なまち」がずっと続いていくと思つたからです。

ところで、みなさんは未来をイメージしたとき、どんな風景を思い浮かべますか。大体の人はビルなどが建ち並んで森林、それどころか植物すらないものをイメージしてしまふと思います。僕もそうです。ですが、僕が想像する「理想のまち」は五十年、

百年後でも森や林、川があつて植物や動物が常にそばにいるような、そんな福島市がいいなと、この「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」という項目を見て思いました。

他にも、「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう」や「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう」など、みんな考える「理想のまち」になるために重要な項目があります。昭和四十八年に制定されていたのにも関わらず、知っている人が少ないこの「福島市民憲章」をこの機会に知れてよかったと思います。これからもっと知っている人が増えていき、福島市が明るく住みよいみんなの「理想のまち」になればいいなと思つた。

「親切で愛がある福島を

つくるために」

福島市立信夫中学校

安齋 弥紗

私が、福島市民憲章で一番実行できたらいいと思ったのは、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」です。なぜなら、だれにでも親切にしていれば自然と、自分も周りも笑顔になれるからです。市民みんなが明るくなったら、まちも明るく変わっていくと思います。

親切で愛情あふれるまちをつくるためには、だれにでもやさしく笑顔で接することが大切だと思います。また、あいさつをこころがけることも、よいまちづくりにつながっていると思います。自分にはどんなことができるか考えてみました。

一つ目は子どもやおとしよりにやさしくすることです。私は小さな子どもが昔から好きでした。なので、そういう性格をいかして、困っている子どもや泣いている子ども

を見かけたら、やさしく声をかけたいです。おとしよりは少し苦手だけど、親切にできるようにしたいです。相手をいたわってあげること、気持ちがよくなり、愛情はうまれるのだと思います。

二つ目は、だれにでも明るく笑顔で接することです。私は、親しい人や知っている人などには笑顔で接します。だけど、初対面の人やよく知らない人、お店の店員さんなどには、ちょっと冷たい態度をとってしまいうこともありました。これからは、だれにでも明るく接することができるようになりたいです。笑顔で接すると、笑顔で返してくれます。

三つ目は、あいさつをきちんとすることです。あいさつは、とても大事だと思います。あいさつをするのは一番基本なことだけれど、心のこもったあいさつをされると気分がよくなります。自分をふり返ってみると、家族や知り合いにしかできていません。登下校の時などにすれ違う、地域の人にも、あいさつをしつかりできるようにしたいです。たった一言のあいさつでも、ま

ちを明るくできると思いました。

市民一人一人が、自分にできることをしていけば理想のまちができると思います。

私も、気分がよくなったことがあります。朝方に家族と公園に行ったときに、すれ違ったおじいさんとおばあさんがいました。私は何も言わずに通り過ぎようとしたけれど、その二人にやさしくあいさつをされました。私はあいさつを返しました。そのときは、すごく親切であたかい人たちだなと思いました。そして、自分からあいさつをしようと思いました。

このように、身近な所に親切な人やあたかい人も多くいるのだと知りました。なので、私も、いつでも明るいやさしい人になりたいと思いました。福島には親切な人がたくさんいるので、もっとみんなやさしくなって、親切で愛情あふれるまちになっ

てほしいです。

「笑顔あふれる福島のまち」

福島市立信夫中学校

附 嬉 花

「親切で愛情あふれるまち」という言葉を聞いたとき、私は、一つのことを思い浮かべました。

それは、私が自転車で部活に行ったときのことです。学校に行く途中で、道路が工事されていました。まだ自転車になれていなかった私は、少し緊張しました。ですが、工事をしていた方が、

「こんにちは。気を付けてね。」

と声をかけてくださいました。そのおかげで少しほっとし、

「ありがとうございます。」

と笑顔で返すことができました。

今、思い返してみると、私たちの周りには、いつも、

「おはようございます。いつてらっしゃい。」

などと、明るくあいさつをしてくださる

方々がたくさんいます。

この優しさは、相手が普通のことだと思つてやっていることなのかもしれないですが、私からすると、ほんの一瞬の出来事でも心の中が、嬉しい気持ちでいっぱいになります。だから私も、あいさつを返すことができましたと思います。

この地域の人々は、昔からあいさつのキャッチボールをしてきたからこそ、自然なキャッチボールができ、双方を明るいきもちにする力があると思います。

なので私も、誰かに会ったときは、笑顔であいさつをし、この福島を、もつとよくしていけたらいいなと思います。そして、私は、福島で生まれて、地域の人々に支えられて育ってきたことに誇りを持ち、生活していきたいと思います。

私は今まで、「福島市民憲章」というものを知らなかったけど、「福島市民憲章」を知つて、福島の良さを、改めて、見つけることができました。まだまだ、福島の良い所は、たくさんあると思うので、これからもっとたくさん、見つけていきたいです。最後に、今、世界では、新型コロナウイルス

ルス感染症が、流行しています。マスクを付ける生活が続いている中で、マスク無しで、生活していたときに、伝わっていた表情が、なかなか伝わらないことが多くあると思います。

だから私は、マスクの中でも、笑顔を忘れず生活し、早くコロナウイルスが終息するように、感染対策をしっかりと行っていきたいと思います。

私が育つた、大好きな福島市が、いつまでも、「親切で愛情あふれるまち」であり続けるために、一人一人が、明るい笑顔でいることが、大切なのではないかなと思いました。

「福島市民憲章について」

福島市立信夫中学校

渡 邊 登 巴

福島市民憲章は、平和で住みよく希望にみちた福島市をつくるため、昭和四十八年に制定されました。僕はもちろん、父や母も生まれる前からあったのに、僕はこの市民憲章を知らなかったし聞いたこともありませんでした。初めて読んでみると、福島市民の幸せを願った、とてもすばらしい目標だと思いました。

一つ目の「空も水もきれいなみどりのまち」は、自然を大切にして美しい環境を守っていくための目標です。僕の家のみわりや通学路にも、たくさんの木や花が植えられています。これはまちをきれいにしたいとがんばっている人がいるからなんだと思います。

二つ目は「教育と文化を尊び希望に輝くまち」です。学校の先生や地域の人たちが守ってくれているので、僕も毎日安心して

学校に通うことができます。

三つ目の「親切で愛情あふれるまち」には、自分以外の人たちと接するときには、自分が書かれています。元気で明るくあいさつをしたり、小さい子どもやおとしやりが困っているときに親切にしたりすると、相手も自分も良い気持ちになります。僕も地域の人から親切にもらったことがあるので、これからもこの目標を守っていききたいと思います。

四つ目は「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまち」です。僕はまだ中学生なので働いていませんが、楽しく働くためにはみんながルールを守って協力することが大切だと思います。僕も今のうちから学校や家でのルールを守って、働くことにはこりを持つて大人になりたいと思います。

最後の五つ目、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」には、交通ルールを守ることや、スポーツやレクリエーション活動を通じて健康な心と体をつくることの大切さが出ています。中学校には自転車です通っているので、車に気をつけたり歩いている人にもぶつからないようにしないと

いけません。また、僕よりも小さい子どもが交通ルールを知らないときは教えてあげたりして、事故にあわないように助け合えたらいいなと思います。それから、僕は剣道をやっているおかげで健康なので、これからもがんばったり他のスポーツもやったりして、もつと健康な体でいたいと思っています。

福島市の全員がこの市民憲章を守ることができれば、今よりもつと幸せになって、やさしい気持ちで生活できると思うので、僕もしっかり守って、もし知らない人がいたら教えてあげようと思います。

「ゴミを減らすために」

私にできること」

福島市立信夫中学校

岩崎 真奈未

私は、福島市の環境に関わる「ゴミ」に注目し調べてみました。

福島市では、平成三十年十一月に「原発事故の影響がまだ残っていることから目標を定めて施策を積極的に展開することが必要。目標を達成できなかった場合、ゴミ処理有料化もやむを得ない。」との報告を受けゴミ減量に取り組んでいます。

福島市のゴミの排出量を調べてみると、一人一日あたりの排出量は令和元年度は、千二百二十グラムで全国平均の九百十八グラムと比較してみるとやはり、少し多いです。

ゴミの処理には多額の費用がかかります。令和元年度の一人あたりの処理費用は、約一万四千円。何ゴミを減らすことができれば一人あたりの処理費用を減らすことが

できるのだらうと考えたので一番多く出るゴミが何か調べてみると可燃ゴミの中でも生ゴミが一番多く排出されていることがわかりました。その生ゴミについて調べてみると、生ゴミの約八十パーセントが水分だということがわかりました。このことから水を乾かすとカラカラになるということがわかります。そうすることで匂わずゴミ捨ても楽になります。また、乾燥した生ゴミは、土と混ぜたりして、たい肥としても使用することができますので、環境にも悪影響を与えません。このことは私たちにもできることなので、進んで実行したいなと思いました。

食品ロスも環境に悪影響をもたらします。日本の食品ロスは、年間六百二十万トンも発生しており、これはトラック約千七百台分の重さです。そのうちの約半分は家庭から排出されています。このことから私は、学校での給食、家のご飯を残さず食えることを心がけます。牛や豚の命、野菜やお米を使ってくれた人たちに感謝しながら最後まで残さず食べたいです。

ゴミを減らすだけでなく、分別もしっか

り行いたいと思います。ですがなぜ分別するのか気になったので調べてみると、それはゴミの中にはまだまだ使える資源が多く眠っているため、ゴミと資源を分別することで資源は再利用され、その結果ゴミは減り、それにより分別されたゴミは焼却効率もよくなる。との理でゴミは分別するそうです。

このことも私たちにできることなのでしっかり分別するよう心がけたいです。

私がゴミを減らすためにできることは、生ゴミを減らすために、食べ物を残さないことと、残してしまった生ゴミを乾燥させること、そして、しっかり分別すること。この三つだと私は思います。ゴミは私たちにとって身近な環境問題だと思います。環境を守るということは私たちにもできるということを改めて実感することができました。

「愛情に支えられているわたし」

福島市立信夫中学校

下村花凜

私は、「福島市民憲章」という言葉を初めて聞きました。そして、「福島市民憲章」の親切で愛情あふれるまちって書いてあるのを見たとき、私は当たり前のように過ごしてきた毎日の中で、今までどれだけの方に支えられて生活してきたのだろうと思いました。

昨年の夏休みのことです。外の気温は三十八度を越えるうだるようなとても暑い日に、とつ然停電になりました。私は、身体が不自由で車椅子生活をする祖父と私の二人で自宅のリビングでエアコンをつけテレビを見ていると、とつ然テレビが消えせん風機が止まりエアコンが消え、停電したことに気がつきました。私は少し待てばすぐに電気が使えるようになると思い、特に何もせずただ電気が復旧するのを祖父と待っていました。しかし、三十分が経って

もまだ電気を使えず、部屋の中も暑くなってきました。すると、玄関から私の名前を呼ぶ声が聞こえ、玄関に行ってみるとなりのおばさんが立っていました。おばさんは、

「暑いけど大丈夫？ エアコンもせん風機も使えないからタオルをぬらして首に巻いてこれであおいでな。何かあったらうちおいで。」

とうちわを二つ持つてきてくれました。私は、身体の不自由な祖父に何もしてあげることが出来ず、だんだん不安になってきていたので、おばさんに来ていただき声をかけていたのだとおかげで、とても心強く思いました。その後、となりのおばさんは私の近所を一軒一軒まわり、声をかけているのが聞こえました。おばさんだつて暑いのに、近所の方々を心配して声をかけてくださるおばさんは、すごいと思いました。

また、毎日の登下校の時、どんなに暑くてもどんなに寒くてもどんなに天気が悪くても、私達をあたたく見守ってくださる地域のボランティアの方々のおかげで、私達はいつも安心して安全に登下校が出来て

います。このように、私達が安心して過ごせていられるのは、地域の方々のたくさん愛情に支えられていると、あらためて感謝の気持ちでいっぱいになりました。

今までの私は、人見知りのため困っている人を見かけても見て見ぬふりをしたり、おせっかいと思われたいのではないかと声をかけることができませんでした。しかし、これからは、困っている人を見かけたら、今の私が出来るとは何なのかを考え勇気を出して行動してみようと思います。私が生まれ育った福島市に恩返しが出来るように、今以上にたくさん愛情であふれる街を目指して頑張ります。

「よりよい福島市にするために」

福島市立野田中学校

山田 えみる

親切で愛情あふれるまちをつくりましよう。

これは、福島市民憲章の第三条です。人に明るくやさしい態度で接してもらうととても嬉しい気持ちになると思います。私のまわりには、いつも明るく接してくれる人がいます。小さい時におばあちゃん家に遊びに行きました。でもおばあちゃん家には、だれも居ませんでした。私は不安な気持ちでおばあちゃんを待っていました。すると近所の方が車から「大丈夫？」「おばあちゃん出かけた？」と声をかけてくださり、帰ってくるまで一緒に待っていてくれました。不安で泣きそうになっていた私を笑わせてくれてとてもほっとしました。この経験から福島市民憲章の第三条は、温かい親切な町づくりをするためにとても大切だと思えます。地域の方々、自分の身の回りに居る人

に「やさしい態度」で接すると自分も温かい気持ちになります。みなさんで温かい親切な町づくりを目指しましょう。

子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましよう。

これは、福島市民憲章の第五条です。交通ルールを守って道路を利用することで安全で安心した気持ちで利用できると思います。小学生の時に、天気関係なく、毎朝横断歩道に立ってくださる方がいました。その人がいるだけで車で道路を走る方も、歩道を歩く人も安心して利用できていたと思います。また、

「お互いゆずり合うのも大事だよ」

と言ってくださったのを覚えています。先生方の駐車場を渡るのは、あぶなかつたけれどゆずり合うことで安心して横断できました。その方が言ってくださった事はみんなでも利用する上でとても大切なのだと思います。みなさんも、道路を利用する上でのきまりを守り、福島市を事故のない安全な町にしましょう。

これから、福島市をよりよい町に発展さ

せるために、福島市民憲章の五条について考え、美しい福島市にしていきたい。安心して生活できる市になるようにみなさんも憲章について考えましょう。

「安全で健康なまちへ」

福島市立野田中学校

佐藤 玲 輔

僕は、福島市民憲章を読んで、このよう
なものがあることを初めて知りました。こ
の市民憲章の五条ある中で、五条目の「子
どもからおとしよりまで安全で健康なまち
をつくりましょう。」が一番心に響き、自
分もそれを実行していきたいと思いまし
た。

そして、これを実行するには三つのこと
をするのが大切だということも知りまし
た。

一つ目は、「交通ルールを守り、安全歩行、
安全運転をする。」ことです。これは、ど
の世代にも言えることだと思います。年々、
交通事故が増えています。そして、これは
一つの世代だけではなく、幅広い世代で多
いです。それに、近年、「あおり運転」が
急増しています。これらを減らすため、子
どもからおとしよりまで、交通ルールを

しっかり守って生活して行ってほしいと思
いました。

二つ目は、「子どもやおとしよりを事故
から守るため、正しい交通ルールを身につ
ける。」ことです。ただ交通ルールを守っ
ても間違った交通ルールではダメだとい
うことに気が付きました。なので、しっか
りと正しい交通ルールを知ったうえで生活し
ていきたいなと思いました。そして、自分
を守るだけでなく、他にも「子どもや
おとしよりを事故から守るため」にも正し
い交通ルールを身につけた方が良いのだと
知りました。

三つ目は、健康を保つために「日常生活
にスポーツやレクリエーション活動を進ん
で取り入れ、健康な心と体をつくる。」こ
とです。安全だけでなく健康も大切なんだ
ということを知りました。そして、「日常
生活にスポーツを進んで取り入れる」のは、
とても良いことだと思います。今の子ども
たちは昔の子どもたちよりも日常生活でス
ポーツをあまりしていません。そのため、
体力があまり無く、健康ではないので、「日
常生活に進んで取り入れる」のは、良いと

思うので、自分ももつと取り入れていき
たいなと思いました。

僕はこの「子どもからおとしよりまで安
全で健康なまちをつくりましょう。」を実
行していくために、「交通ルールを守り、
安全歩行、安全運転をしましょう。」と「子
どもやおとしよりを事故から守るため、正
しい交通ルールを身につけましょう。」そ
して、「日常生活にスポーツやレクリエー
ション活動を進んで取り入れ、健康な心と
体をつくりましょう。」のこの三つを大切
にしていきたいと思いました。

「福島市の自然」

福島市立野田中学校

藤井 優菜

私は、福島市民憲章をはじめ知りました。その中で私に気がなったのは「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう」というものです。

この憲章には、福島市の自然を美しい、きれいな環境にして、たいせつにするというところがかいてありました。これは、私の家の近くの公園に花がうえられていたものことだと思います。花がうえられる前から比べると、公園がとてもきれいに見えました。その花は前からずっとさいていて、だけれど水やりをしてきているのかなと思います。なので、私も家にうえている花がかれてしまわないように、毎日水をあげたいと思いました。そして、私は自然がまわりにたくさんあると、いやされて、いい気分になれるので、この憲章はとても大事だと思いました。

そう思ったのには、理由がもう一つあります。それは、私が花見山に行ったときにもきれいでいやされたからです。私はその時、家族とおばあちゃんと五人でいきました。おばあちゃんは他の県に住んでいたので、その時は来るのが初めてでした。なので、おばあちゃんは花見山に来るのも初めてでとてもびっくりしていました。私も来るのが初めてでした。山を登っていくにつれて、木や花がどんどん増えてきました。その時に花がきれいで、花見山に登るのがそんなにつかれました。下にもどってくる時もいろいろな種類の花や木がたくさんありました。近くには菜の花畑があつて一面黄色くそまっていました。私はその時、福島には自然がたくさんあつて、どれもきれいだと思いました。そしてこのような広い場所の花や木をていれするのはとても大変だと思いました。なので、私はていれしている人がすごいと思いました。

私は、この福島のきれいな自然は、いろいろな人々が協力してつくられているんだなと思いました。花や木のていれをしていく人たちは、福島市をきれいな自然がたく

さんある市にするためにしているのかなとも思いました。私は、今から花に毎日水をていれしていきたいです。そして、大人になったら、もつとききれいな自然でいっぱい福島市にできるように、自分にできることをたくさんしてこのきれいな福島市を大切にしたいと思います。

「感謝の言葉」

福島市立野田中学校

玉城 未羽

「ありがとうございます。」

私の大好きな言葉です。

福島市民憲章「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」では、誰にでも親切にして平等に接しましょうということですが、

小学校低学年の時友達を笑わせて笑顔にするのが大好きでした。しだいに友達の笑顔を見ると心がホッと自分自身もうれしくなりました。よく友達が

「みうちちゃん、面白い！」

と言ってくれて、ほめてくれてうれしいの、
「ありがとうございます！」
を言いました。

中学年になってくると「感謝」の大切さを学びました。親切にもらうことが多くなり友達に感謝することも増えていきました。

「私も相手に親切に接しよう。」

六年生になると私は先生から大事なことを教わりました。

「みなさんは今日何回ありがとうございますと言葉に出しましたか。先生はたくさん言いました。ありがとうございますをたくさん言いましょ。ありがとうございますをたくさん言いましょ。ありがとうございますをたくさん言いましょ。ありがとうございますをたくさん言いましょ。」

と先生がおっしゃってくれました。

私は、それから誰に対しても「ありがとうございます」を言うようになりました。そうすると先生がおっしゃってくれたように「ありがとうございます」が自分に返ってきました。なぜか低学年の時に言っていた「ありがとうございます」とは何か違いがありました。低学年の時は友達がほめてくれてうれしいの「ありがとうございます」、だけど今の「ありがとうございます」は、相手に対しての「感謝」という想いからでてきた言葉だと想います。またこの「ありがとうございます」から友達に対する接し方も変わりました。前までは、仲の良い友達だけとしか話して、なく不平等な接し方をしていました。今は、「こんな接し方じゃ不平等すぎる。もっと平等に接しないと」と思うようになってから、友達の存在の大切さにも気づきました。

私は、この「ありがとうございます」という言葉からいろんなことを学びました。それは、「ありがとうございます」を言う自分の心が前向きになれるということ。人に対して「感謝」「親切」「愛情」をもつことによって、人は心も成長することができます。

「私の周りにいる素敵なたち」

福島市立野田中学校

内藤 莉乃

私は、福島市民憲章があるということを知っていました。しかし、詳しくは知らず国語の授業で作文を書くときに初めて内容を詳しく知りました。その中で特に思い出に残っているのは第一条の「空も水もきれいなみどりのまち」と第三条の「親切で愛情あふれるまち」です。

私が毎朝登校するときに向かいの家の奥さんが庭の草むしりをしています。通りかかる時も「おはようございます。」と言ってくれます。下校途中にも、たまたま会って「おかえりなさい。」と言われます。私はそんな風を掛けてもらうと少し嬉しくなります。それに、お手入れを欠かさない庭の花はとても綺麗で春にはチューリップ、夏にはヒマワリが咲いていて華やかです。

私の祖母もガーデニングが大好きで庭に

たくさんのお花や木を大切に育てています。また道路に伸びた草を除草してくれて、公共の場がいつも綺麗な環境なので感謝しています。

小学校一年生の時にいらっしゃった庭師の方にも感謝しています。私たちが授業をしている間にハサミで松の木やいちじょうの木を切ってくれて毎日、綺麗にしてくださいました。また、下校中にもトラックに大きなレーキをひいて校庭を走り、転びやすかったでこぼこな土を平らにしてくださいました。私が六年生になったら学校の最上学年生として責任をもって朝の時間に秋に落ち葉拾い、冬に雪かきをしました。最初はとても楽しみだったのですが、実際にやってみると、秋の落ち葉拾いでは拾っても拾っても次の日にはまた落ち葉が増えていき、銀杏の匂いも強く大変でした。冬にやった雪かきでは、どんどん寒くなるに連れ、多くなる雪の量に加え、風も強くなり日も当たらずとも体が冷え切っていました。朝の時間だけでもこんなに大変なのに、一人でしかも、毎日何時間も体を動かす、私たち児童が過ごしやすいような空

間をつくってくれていた庭師の方はとてもすごいと思いました。

私は今回初めて福島市民憲章について詳しく知りましたが、福島市には木と花を大切にし、心優しい人が多いのだと感じました。私はこれから大人になっても福島市民憲章の基福島市をもっとより良い市にするためにこの五項目を目指して行動したいと思います。

「福島市が健康で安全なまち」

福島市立野田中学校

亀岡美波

私は、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」の市憲章が特に良いと思います。理由は、三つあります。

一つ目は、人の安全が大切だからです。みなさんは、年々交通事故が増加していることは知っていますか。その最も多い理由は、しっかり交通ルールを守っていないからです。交通ルールを守ると、人と大切な人の命まで守ることができます。そのため、しっかり安全歩行、安全運転を心がけていきたいと感じました。

二つ目は、周りにいつも私たちの安全を気にかけてくれる人たちがいるからです。自分が幼いころから、小学校の道路で交通安全を気にかけてくれる「まちこさん」がいます。まちこさんは、ボランティアで毎日子供からお年よりまでの道路横断を見守ってくれています。私は、「ボランティア」

でたくさんの人々の安全を毎日見送ってくれることは、とてもすごいと思います。実際にまちこさんは、

「家族や友達などの大切な人の命を守るために、安全に登下校してください。」と、おっしゃっていました。まちこさんの言う通り何かあってはおそいので、しっかりとマナーを守りましょう。

三つ目は、健康な体をてにいれるためです。健康な体は、日常生活に大きくいきまうします。例えば、友達といっしょに少し運動したり、重い荷物を運んだりします。すると、健康でないとすぐに体のあちこちがいたくなってしまう。そのようなことを防ぐため、日々日常で、スポーツやレクリエーション活動に進んで取り組むことで改善することができます。ちよつとしたスポーツを長く続けていくと、健康な体を手に入れることができます。子どもから大人まで進んで活動に取り組む、「みんな健康な福島市」になってほしいと感じました。健康になると、自分自身だけではなく、周りの人も健康、元気になっていくことができる大切なことです。みなさんもぜひ、日々

日常でスポーツやレクリエーション活動を試みて下さい。

私は、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」をてにいれるには、福島市民全員が積極的に交通ルールを守り、体を動かすことが大切だと考えました。そのため、自分から進んで目標に取り組んでいきたいです。

「ゴミとこれからの福島市」

福島市立吾妻中学校

紺野 夢生

私は通学路で毎日のようにポイ捨てされたゴミを見る。毎日のように増えていくゴミは、とても邪魔だ。時々、ゴミを道の隅の方に蹴ってどかすこともある。平気でゴミを捨てている人はどんな気持ちなのだろう。自分の歩いている道にゴミがあっても平気なのだろうか。そう考えてしまう。

このようなことを母から聞いたことがある。母が毎週月曜日に会社に行く途中にどこかの会社員さん達がゴミ袋とトングを持ってゴミ拾いをしているそうだ。どんなに小さなゴミでも見逃さず拾っている姿に母は感動したそうだ。特に、ダルそうに拾うのではなく自分達の町をきれいにしようと言った。真剣に拾っている姿には感動したと言っていた。拾い終わったところには全員のゴミ袋がパンパンになっているそうだ。一週間だけで、そんなに大量のゴミが落ちてい

るのかととても驚いた。いつかそのゴミを拾っている姿を見て、もうポイ捨てはやめようと思ってくれる人がたくさんできてほしいと思った。

福島市はゴミの排出量が全国平均の一・二倍で全国一位だということも聞いたことがある。ゴミが多く出してしまうと地球温暖化が進んでしまいいろいろなことに悪影響を及ぼしてしまう。そのような面でもゴミについて考え直さないと思っている。しかし急にゴミを減らすのは無理があると思う。だから少しずつ減らしていくことを目標にすればいいと思う。たとえば、毎日の食べ残しを少なくしたり、きちんと分別して、少しでも燃やすゴミの量を減らしたりするなど工夫して生活を送っていけば、福島市のゴミの排出量は全国平均の量に納まってくれるのではないかと思った。

福島市の人々が、自分達の未来や人々のことをきちんと考えて生活するだけで、今の福島市より、もっと良い町になっていくのではないだろうか。自分のことだけでなく、少しでも地域の人々のことを考えるだけでもいいのだ。みんながそのような気持ち

を持って絶対にはげたい力になると思う。そのためには、まず自分が行動に移してみようと思う。福島市の未来がもっと良くなることを信じ、今までの生活を見直し、直せるところがあれば少しずつ直していく、そして周りの人にそれを広めようと思う。心も町もともきれいな福島市になってほしいと思った。

「マスクの中の笑顔」

福島市立吾妻中学校

角 張 向日葵

最近、友達と下校している時に、犬の散歩をしている人が、

「おかえり。荷物重いよね。大変だけど頑張ってるね。」

と優しい声をかけてから、犬と走って行ってしまいました。

私は、返事をする間が無く返事できなかったけど、心の中で、

「私達のことを気をつけてくれたんだな。」

と思い、ポカポカした気持ちになりました。

私の住んでいる地域は、朝、

「おはよう。朝早いけど頑張ってるね。」

などの言葉をかけてくれたり、学校終わりの部活動で疲れているのを見かけた人が、

「おかえり。部活動お疲れ。」

などの優しい言葉をかけてくれる人は沢山います。でも私が一番、そんけいしている

人は、見守り隊の人です。見守り隊の人は、雨の日や、晴れの日や、雪の日でも、

「おはよう。気をつけて学校に行ってるね。」と笑顔で言ってくれることです。そして、

もう一つの良い所は、一回も休まずに活動していることです。

私は、福島から、元気で優しいあいさつや、親切さが無くならないでほしいと思いました。最近の都会の生活では、

「おはよう。」という言葉が減ってきていると思います。

私の生まれた福島は、いつ、どこでも優しいあいさつを忘れない素晴らしい場所です。

この作文のことは初めて知ったけど、作文のおかげで福島の良いことを見直すことができました。

今は、新型コロナウイルスの影響で、マスクをした生活をしていかなければならないけど、福島県の方は、マスクをしながらでも、

「おはよう。」と言ってくれて、マスクの中でも笑顔でい

てくれます。

このあいさつと、笑顔があればコロナウイルスなんかふつとぶなと自分の心の中でそう思いました。

これからは、福島から笑顔で言うあいさつを無くさないように、私が引き継いでいかなければなりません。一人の力じゃ無理だけど地域の皆さんと協力していけば、無くならないと思います。

そして、あいさつは心と心をつなぐ大切な言葉なので、マスクをしていても、気持ちは、ちゃんと相手につたわっていると思います。

私は、福島の優しいあいさつが、大好きです。

「笑顔と希望」

福島市立吾妻中学校

後藤 絆 希

私の大好きな「福島市」は、笑顔と希望に満ちあふれています。

ガラスのように透き通る空気に星のように輝くおいしい食べ物、抹茶のケーキのようきれいな森林。毎日を楽しく過ごしています。学校の教室の窓からのぞく景色は見ると笑顔になり、優しい気持ちになります。

学校からの帰り道では悲しい現実が待っています。「ポイ捨て」です。誰がいつ捨てたのかわからないポイ捨ては、見るたびに誰かの心に傷がつかます。ですが福島県民は、その傷をなくすための取り組みをしています。当たり前のように思いかもしれませんが当たり前を自分の事として考え行動できる福島県民はすばらしいとあらためて思いました。最近の帰り道ではゴミは見え、自然達の笑顔がたくさん見えました。

私は小さい頃からずっと心に今も残っていることが一つあります。忘れもしないあの日。たくさん命をうばいとっていったあの日。忘れたいけど忘れてはいけない「東日本大震災」。当時私は二歳でした。地震がおさまってから母のおんぶひもにおぶさりながら食料品を買うため少し遠いスーパーに行きました。長い長い長い列にならんでいました。自分の命を守るので必死だった福島県民。でもこんな時こそ列へのゆずり合いや他人への気配りが幼児の私でもわかりました。誰にも言ったことはなかつたけれどこの時初めて福島県、福島市に生まれてよかつたと思っていました。

きれいな川、きれいな空気、きれいな山、心のきれいな人々、きれいおいしい食べ物。どれもよごしたり、無だにしてはいけません。二〇三〇年までの開発目標SDGs。

私は、福島県、地球にやさしいことを一つでもしてみようと毎日心がけています。その中でも、なるべく節水になるよう気を付けたり、おいしい野菜を残さない、くさいらせないようにと乾燥させ、ドライ野菜、ドライフルーツにして保存できるようにし

たりしました。

この取り組みを始めてから水の無だ使用や野菜やフルーツを捨てることなくなくなりました。

私達みんな、家族だけでなく自然達にも育てられているのです。そんな自然環境を私達がいじし、より良い福島を築いていきたいと思えます。

「福島」ありがとう。

「モーニングルーティーンと改善」

福島市立吾妻中学校

佐々木 優 奈

私は、朝が超苦手だ。でも、朝ご飯は大大好きだ。なぜかというと、福島市で育った果物が食べられるから。私は朝からテンションMAXだ。

朝ご飯を食べおえ、学校へ行く準備をする。そしてまた私をテンションMAXにさせるものがある。それは、自転車通学中に香る、自然の香りだ。つまり空気がおいし

いと言うことだ。私はこの香りが大好きだ。そしてまたまた私をテンションMAXにさせるものがある。それは、川の音だ。通学中に、「ザザザザー」といい音がする。朝からとても最高。そして一番最高なのは、吾妻山がとてきれいに見えることだ。もうそれは絶景だ。きれいな吾妻山を見ながら通学。さらに、地域の人々が優しい。なぜなら、地域の人々が、毎朝あいさつ、声をかけてくれることがうれしいからだ。

ただ、通学路がデコボコで、自転車通学の方々も困るし、車椅子の方や老人も困ると思うので、整備して欲しいと思う。後、通学中にごみをよく見る。福島は全国でごみの量が多い県二位なので、ごみを減らして欲しいし、ポイ捨てもしないで欲しいと思っ

ていけば、福島市は、いままで以上に、すてきな市になると思う。
私は、今の福島市も大好きだけど、また新しくなった福島市も大好きになると思う。アンケートをとることで、新しいことに出会ったり、福島市の良いところではないところを改善したり、することで福島市らしいすばらしい市になると思う。

一石二鳥だ。

私は、福島市がもっと良い市になって欲しいと思う。もっと良い市になるためには、いろいろな工夫が必要だと思う。私がいろいろ例を挙げたように、コンクリートの整備や、ごみ減らす、拾う、花を植えるなどが福島市をもっと良い市にする秘訣の一つの例だと思う。

そこで、アンケートをとるのはどうだろうか。人それぞれ違う考えをもっているから、いろいろな考えがでて、それを実行し

「活気のある町」

福島市立吾妻中学校

峯 千尋

私は、夏に楽しみにしている行事があります。それは、夏のお祭りです。毎年行われていて、小学生の頃も、よく家族で参加していました。しかし、今の現状では、その活気が失われてしまうかもしれません。私が、この福島市のお祭りに参加しているのメリットは、三つあります。

一つ目は、とても楽しくて元気が出ることです。周りの雰囲気が良いので、自分も踊りたくなっちゃうような気持ちになります。私は、青森にも行ったことがあるのですが、青森の、「ねぶた祭」の迫力にも負けないくらいとても素晴らしい行事です。二つ目は、屋台が楽しいことです。私もその屋台の中でも「ピカチュウカステラ」というカステラが好きです。いろいろな屋台があって、お祭りをいっそう盛り上げてくれます。

三つ目は、誰でも参加できることです。親子で楽しんだり、友達と楽しんだり、誰とでも楽しむことができます。一人で行くより、みんなで行ったほうが、この福島市のお祭りをよりいっそう楽しめます。

このメリット三つが、この福島市を希望に輝くまちにつくり上げていると思います。

私は、お祭りに参加していて、楽しみにしていることがあります。それは、地域の方々が作ってくださっているおでんです。そのお祭りに行くと、いつもその場所で、あつあつのおでんを作ってくださっているのです。私はその味がとっても大好きです。その時から、約二年ぐらい経ちますが、その味をまだ鮮明に覚えています。その味は、あつあつかい味で、お母さんのぬくもりを感じる優しい味です。そして、そのあつあつのおでんを近くのテーブルに行って座って食べるのです。このおでんは、体をあたためてくれるだけでなく、心もあたたためてくれるのです。

今はこのような現状になり、夏祭りも中止という苦しい世の中になっています。で

も、これは、一人だけの責任ではありません。これを、みんなで乗りこえていかなくはなりません。今は、世界中の人々が苦しんでいます。だからこそ、福島市の人々が、手を取り合って、進んでいくと思います。また、あの活気のある福島市を見ることができるよう、みんなで笑って合って過ごしていく一日一日になるように日々努力していく、福島市にしていきたいと思えます。そして将来私も福島を支える大人の一人として、がんばっていきたいです。

「あいさつと礼儀」

福島市立吾妻中学校

金澤 怜愛

私が六年生のときのバスケの大会で、とても良いチームと会いました。そのチームは試合中にファールをしてしまったとき、

「大丈夫ですか。」

と手を差し伸ばしてくれました。このことがあたりまえなのかもしれないけれど、言わないチームもあり、私からしたらとても心があったかくなりました。私も試合で大丈夫ですかと言ったとき、相手もこうゆう気持ちになっているのかなと思うと、少しうれしくなりました。

そして、そのチームは

「ありがとうございます」

をつかれています。はつきり大きな声で言っているのがすごく良い人達だなと思いました。

私たちはそのチームに勝ったのですが、勝ったあとにそのチームは私たちのところ

に来て保護者と私たちに

「ありがとうございます。」

と言っていて、このチームに私たちは勝つたけれど礼儀などでは、相手のチームの勝ちだなと思いました。

その後、ろうかですれちがったときに

「対戦ありがとうございます。このあとの試合でもがんばってください。」

と言っていて私もこんなチームになりたいなと思いました。

このようなことは福島だけの話ではないだろうけど、福島市にもこんな良い人がいるということを伝えたかったです。

どんなスポーツも対戦相手と保護者がいないとできません。だからしっかりお礼をするチームはとてもいいチームだと思います。

このとき私は、もっと福島や自分をよくするためにあいさつや礼儀を心がけたいなと思いました。

その日からあいさつや礼儀を心がけていたけど忘れてしまったり、なかなかできないことがありました。そしてもうやめようかなっと思ったとき、近所のおばさんが

「最近少し変わったんじゃない？あいさつするときちゃんと声でてえらいね。」

と言ってくれました。なんどもやってみてうまくいなくても、そのあいさつをした人のなかに気分がよくなっている人がいると思うと、次からもがんばろうと、やる気がわいてきました。

だからこれからも福島や自分をよくするために、しっかりがんばろうと思います。

「数々のプロフェッショナルたち」

福島市立吾妻中学校

小坂 太陽

この前、小中学生の憩いの場である駅前公園で清掃している大人の方を見かけました。駅前公園は、春には桜が満開になったり、小中学生が楽しく遊べる場所なので、とても素敵な場所です。しかし、たくさん人が使用する場所なので、汚れたり、荒れたりしてしまいます。

僕は、小学生になった頃から、駅前公園に行つて、よく遊んでいました。でも、使い方間違えている先輩が、ポイ捨てや、砂を荒らす行為があつたので、公園は汚れていました。次の日に、公園に行くと、大人の方が汚れている缶や、荒れている砂を清掃している光景を目撃しました。僕はその光景を見て、

「福島市にでも、こんなに心優しい大人の方がいるのだな」

と思い、すごく感心しました。現在も、駅

前公園を通つたり、遊んだりすると、清掃をしている大人の方を見ます。

今は、福島県のごみを減らす活動をしているテレビをよく見ます。福島県はごみが落ちていたり、残飯が多かつたりして、多量のごみを排出しているという記事を見ました。だから、ごみを減らす活動はとても素晴らしいことだと、テレビを見て思いました。地球の問題で、地球温暖化にならないために活動している姿を見ると、とても感心します。みんなのために尽くせる人はとてもかっこよくて、素敵だなと思いました。

駅前公園の清掃をして、小中学生が遊びやすい環境にすることをしている大人の方は、プロフェッショナルだと思います。お金のためでもなく、自分のためでもなく、みんなのために清掃して、尽くしている大人の方は、とてもかっこいい方だと思いました。僕は清掃してくれている大人の方と話したことは無いですが、いつか感謝の気持ちを込めて、話しかけたいと思っています。

僕の将来の夢はプロ野球選手です。プロ野球選手は、プレーも一流ですが、人とし

ても一流です。ファンサービスの時に、急いでいるときも、ファンのためにサインを書いたりしてくれるプロ野球選手は、ある意味、プロフェッショナルだと思います。駅前公園で、清掃してくれる大人の方も、ファンサービスを忘れないプロ野球選手も、とても素敵で、かっこいいと思いました。

僕は、福島市で産まれて、育てられた限り、人のために尽くせるプロフェッショナルになりたいと思います。

「きまりを守る大切さ」

福島市立吾妻中学校

六 戸 思 文

「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう」という福島市民憲章の一文を見て、きまりを守ることの大切さを自分なりに考えてみました。

私達が生活するうえで、たくさんのかきまりがあります。例えば、学校では何時までに登校する、靴下は白、もしくはワンポイントや学生らしい服装など、何々らしいというあいまいな表現の多い校則。

一見、「きまりを守る」と聞くと、つまらないと感じる人もいるかもしれません。私自身、校則に関しては面倒くさいところもあるなと思ったこともあります。でも、きまりにはそれぞれ意味があり、校則では、非行を防ぐためにあるというより、正しい態度、正しい心の有り方を育むためという教育的な意味があるそうです。

私は、きまりをなくし、もしも全てが自

由な世界になったらと想像してみました。

ルールのないスポーツだったら、何が勝ちで負けなのか分からず、つまらないです。法律というきまりもなかったら、事故が起こったり、犯罪者だらけの世の中になっ
てしまいます。

コロナ禍において、いま福島市にとられているまん延防止等重点措置も、みんなの命を守るためのきまりです。

「きまりはなぜ守るべきか」と、一般的な世間の答えは何なのか気になったので、インターネットで検索してみました。そこには、

「ルールや社会規範を守ることによって、人としての協調性や忍耐力が培われるから」

とありました。きまりの中には、理不尽なものも多くあります。理不尽だと思ってしまうきまりでも、きつとなにか意味があるのだと思います。故きを温ねて新しきを知る、温故知新の言葉通り、古き良ききまりを大事にし、今の時代に合ったきまりに変化してきたのだと思います。

きまりを守るということは、楽しく過ご

すためや安全に過ごすためだけでなく、健全な人間関係を築くために必要なことだと思います。他人と常に想い合い、子供やお年寄りまで安心して暮らしている福島市が大好きです。先人から受け継いだ、自然あふれるこのまちを、福島市民としてこれからも精一ぱい守っていきたいと思います。この素敵な市民憲章を掲げた福島市に住んでいることを誇りに思います。今は、学業を責務として一生懸命、全うします。

「美しい自然にあふれるまちへ」

福島市立吾妻中学校

高野 佳菜

「空も水もきれいなみどりのまち」「教育と文化を尊び希望に輝くまち」と聞いて私は部活のことを思い出した。私たちの部活では、原発事故から十年たっても止まない風評被害であり食べられなくなってしまう福島野菜の安全性を証明し広げたいということを目指して研究している。

私たちがこの目標に向けて活動する上で、トマトハウスを貸してくれている農家さんなどの協力をうけている。活動は主に、液肥の調整やトマトの成分測定などをしていく。そして私が「福島市民憲章」を聞いて、「希望に輝くまち」という文を「原発事故から協力して復興し、市民全員の希望であふれる」と捉え、これまで以上に部活にはげようと思えるようになった。

そう思い活動しているうち、この前祖母が知り合いから梨をもらった。祖母が

「福島の梨はおいしいねえ。おばあちゃん他の所の果物食べるたびに福島の方がおいしいって思うよ。」

と言った。そこで私は、水がきれいだからなのかなと思いい、福島市に住んでいることをほこりに思えるようになった。

次に私は、福島市の問題点について考えるようになった。一つはゴミの多さについてだ。最近、いろいろな所で福島のゴミのことを聞く。小学生のときにゴミを処理する所や映像を見たことを思い出し、そういえばゴミを燃やしていたなと考え、

「ゴミの量を減らせば燃やす量も減る。だったら地球温暖化の防止にもなるんじゃないかな。」

と母に話した。そして母は、

「そうだね。できることから行動することが大切だからね。」

と言ってくれた。このように、少しずつ福島市で活動すれば世界的な問題も解決できるようになっていくと私は思う。

私は今まで福島市の良いところと悪いところについてあまり考えてこなかったが、「福島市民憲章」に書いてあることを守れ

ているかよく考える時間をもらえたい機会だと思った。私は、一つ一つをしつかり意識し生活することが大切だと思った。そして市民全員が協力し生活していくことにより、福島市に笑顔があふれ、安全で健康に過ごせるまちになると思う。

「福島の人々の優しさ」

福島市立吾妻中学校

高橋 弘暉

部活動をしている時、最後に先生が

「みんなは多くの人に支えられて大事に
してもらっているから野球ができています。」
という言葉を言っていた。ぼくは、家に帰っ
てからそのことを深く考えた。

ある日のことを思い出していると練習試
合をした時に審判のかたがアドバイスをく
れた。それも自分がキャッチャーをやるモ
チベーションになったり、自分のリードに
つながったりと野球をやる上でとても大事
であることだった。

そして、自分を支えてくれている、お父
さんやお母さん、食べ物やせんたくをして
くれたり、自分が野球をやる上で大切な道
具を買ってくれたりしてくれた。本当にあ
りがとう。

他にも自分達が高め合っている仲間や、
いつも声をかけてくれる地域の人などいろ

いろな人が支えてくれていることを知っ
た。

そして、これは今始まっていることでは
なく、野球だけでなくいろいろなことに共
通していると思った。

学校生活の中でよく意見交換をする時が
よくある。自分達でさまざまな意見を出し
合ってよい所悪い所をまとめて発表する
という時にぼくは、おたがいを支え合っ
ていると思った。

そんな所から日常生活につながっている
と思う。

ぼくは、朝、学校にくるときに、地域の
みなさんに支えてもらっている。

日々元気に

「おはよう。」

と言ってくれる優しさは昔から今までずつ
と続いていてこれは福島の魅力であり、一
番の長所だと思う。ぼくは、毎朝これをき
くと今日も一日が始まるのだという感じが
しとても気持ちよくすごすことができている。

今までは、これが日常のあたり前だと
思っていたけれどこの機会をあたえても

らって日々の生活のありがたみを再確認す
ることができた。そしてこれからも続けて
いくことが大切だと思う。

今は、大変な時期で、自分達の活動に制
限がありできることが少ないとは思ってい
る。自分達にできることを考えて日々の生
活をしていき、これからも自分達のふるさ
とを忘れずに大切にそして今の思い出をた
くさんつくっていきたいと思う。

「一人一人が『住み良い』町」

福島市立飯野中学校

伊藤 優衣

私は、国語の授業で初めて「市民憲章」を知りました。そしてこの「市民憲章」を多くの人に知って貰いたいと思いました。だからこの作文で、多くの人に市民憲章を知って貰いたいです。

私が市民憲章を見て、印象に残ったものは三つあります。

一つ目は、「空も水もきれいなみどりのまち」です。

福島は、緑がたくさんある自然に囲まれた所だと思います。でも、森の中や道にゴミが落ちていることもあります。だから、私は道にゴミが落ちていたら拾うことが重要だと思っています。私も、町の中でゴミを見ることが多いので、進んで拾い町をキレイにしていきたいです。

二つ目は、「教育と文化を尊び希望に輝くまち」です。私が住んでいる飯野町では、

お祭りや行事などがたくさんあります。

しかし、最近はウィルスの流行によって、お祭りなどができない状況になっていきます。そうすると、小さい子供が、お祭りを経験できなくなり、文化を忘れてしまうのではないかと考えました。そこで、小さい子供にもわかりやすく、お祭りを説明できないかと思いました。例えば、パンフレットなどを作り、伝統を知ってもらったり、ポスターなどで宣伝をしたりすることが挙げられます。これだったら、実際に経験しなくても伝統を忘れることなく、「いつか経験したい」と思ってくれると思います。

また、あいさつも町の人のつながりを大切にするための取り組みだと思えます。会った人に一言、「こんにちは」とあいさつするだけで、明るい気持ちになれると思います。

三つ目は、「子どもからおとしよりまで安全で健康なまち」です。

飯野町では、お年寄りの方が多く住んでいます。お年寄りは、足やこしに負担がかかりやすく、生活面で大変なことがあると思います。そこで町の公共施設などに、「バ

リアフリー」を設置すれば良いと思います。バリアフリーはお年寄りだけでなく、障がい者の方も助けられると思います。

「住み良いまち」というのは、自分だけでなく、周りの人もそう感じた時に初めて完成すると思います。私は、この「市民憲章」を初めて見ましたが、どれも今の福島をより良くするために、大切なことだと思います。福島に住んでいる一人の人間として、市民憲章を忘れずに過ごしていきたいです。

「福島のいいところ」

福島市立飯野中学校

佐久間

華

私は、国語の時間に初めて市民憲章を知り、とても驚きました。市民憲章は、福島市でもあてはまっていることが多かったです。

一つ目は、「空も水もきれいなみどりのまち」ということです。福島市は、落ちているゴミが少なく、水も空気もきれいで自然が豊かでとても当てはまっていると思いました。今は、世界で森林破壊が進んでいて、自然がどんどんなくなっているところが多いなか、福島市は、森林がたくさんあります。例えば、千貫森などです。このことから、福島は自然が豊かということがいえます。都会は、ビルなどの建物がたくさんあるけれど、福島は自然がいっぱいというところが魅力で、自分はとても誇りに思っています。そしてその、自然豊かな町をふやすためには、森林の伐採をなくしていつて

いくべきかなと思いました。落ちているゴミが少ないということに関しては、ゴミ拾いをしていくからだと思います。たまにゴミ拾いをしている人を見かけるからです。福島市では一人一人、ゴミ拾いをしていくべきかなと思います。私は、実際にゴミ拾いをしたことがあるけれど、つらくはなからきれいになるのでとてもうれしかったです。ゴミ拾いは、いろんな人にやってもらいたいと思いました。そうするとゴミがなくなり町がきれいになるからです。そうすると、ポイ捨てする人が少なくなると思います。

二つ目は、「教育と文化を尊び希望に輝くまち」ということです。福島市には、公共施設がたくさんあります。だからこそ、子供達が安心できるのでいいと思います。例えば、福島児童公園などがあります。そういうところがあれば、子供も安全で、子供だけではなく親も安心できると思います。人々が安心できるように、どんどん公共の場が増えてほしいなと思いました。

三つ目は、「親切で愛情あふれるまち」

です。私はこれが一番あてはまっていると思います。なぜかというと、学校から帰るときに、「おかえり」などという温かい言葉を町の人が、たくさんかえしてくれているからです。町の人達と仲良くなるように私は、少しでも温かい言葉を自分にかけてみたいなと思いました。そして、町全体が明るくなるようにしたいです。都会の方は、人が多いので道ばたなどでは、あいさつをしないけれど、私達が普段聞いている温かい言葉を聞いてほしいなと思いました。

私は今回、初めて福島市市民憲章という言葉を知ったけれど、福島がどんなことを目指しているのか分かったし、初めて知れたことがたくさんあったのでよかったです。私は、この学習を通して、もっと福島のことについて、知りたいと思いました。これから、この目標に向けて市民、一人一人が、がんばっていきべきだと私は思いました。

「親切で愛情あふれるまちを

つくるために」

福島市立飯野中学校

高橋 璃々子

みなさんは、福島市民憲章の、「親切で愛情あふれるまち」をどうしたら再現できるかと考えたことはあるでしょうか。私は、この福島市民憲章を知って、福島はどうしたら改善できるかと考えるようになりました。そこで、福島市民憲章をどうして守らなければいけないのか、その理由は、この福島市民憲章を守ること、福島市民の他県からの印象がより、よく見えると思うからです。それに、福島市民の印象がよくなると共に、福島市の雰囲気も、今の福島よりもっとよくなると思います。

では、この「親切で愛情あふれるまち」をつくっていくためには、どのようなことを行えばよいのでしょうか。

まず一つ目は、あいさつをすることです。「親切で愛情あふれるまち」をつくっていく

くためには、あいさつをすることが一番大切だと思います。私も、今住んでいる飯野町の地域の人に「おはようございます」とあいさつをすると、必ず「おはよう」や「気を付けてね」など、心が温まる言葉を返してくれます。だから、あいさつは「親切で愛情あふれるまち」をつくっていくために必要だと思います。

二つ目は、人とのふれ合いを増やすことです。人は、だれかと話していると自然に笑顔になります。だから、人とのふれ合いを増やすことで、福島が笑顔もあふれる町となると思います。

三つ目は、人のためになることをたくさんすることです。例えば、ごみを拾ったり、困っている人を手助けしてあげたりということが例として挙げられます。そして、今挙げた例を実行すると、福島市が今よりもっと明るい町にもなると思います。

四つ目は、地域のイベントに積極的に参加することです。飯野町で例えると、こっこだりや、つるしびな祭りなどです。なぜ、積極的に地域のイベントに参加したほうがよいかというと、イベントにたくさん参加

することによって、町の人達の協力性や思いやりの心がもっとよくなると思ったからです。

今回、この「親切で愛情あふれるまち」について調べた感想は、私たちのような中学生でも、できることはたくさんあることがわかりました。だから、私も先程説明したように、あいさつやごみを拾うなど、今からでもできることを、進んで取り組んでいきたいと思っています。

「心を通わせ合い、皆でつくる未来」

福島市立飯野中学校

三 浦 梨 央

私が思う福島市の良さは、自然が多いところ
です。花見山や千貫森など、花や木が
至るところで見られます。これは、福島市
民憲章の「空も水もきれいなみどりのまち
をつくりましょう」にあてはまると思いま
す。植物は、空も水もきれいでないと、
育たないと思います。でも、これだけたく
さんの植物があるというのは、この条文を
みんなで守れているからだと思います。そ
の一方でさらにみんなで意識したいことが
あります。道などに生えている草などをそ
のままにしないことです。のび放題のとこ
ろが私の家の近くにもあります。だから、
私もそのような場所を掃除して、見栄え良
く保とうと思います。

一つ目は、「きまりを守り、力をあわせ
て楽しく働けるまちをつくりましょう」で
す。これは、私が福島市に対して望んでい

ることです。「きまりを守る」これはあた
り前のことです。でも、きまりを全て守っ
ている方はそう多くないと思います。例え
ば、ポイ捨てや交通ルールです。ポイ捨て
は、自分の家の近くにあるという方も多い
のではないのでしょうか。マスクや食べた後
のゴミなどです。全てなくなることはない
と思うけど、減らすことはできると思いま
す。だから、ポスターやコマースャルで、
ポイ捨てしないことの大切さや、福島市の
現状を知ってもらう必要があると思いま
す。交通ルールについては、道をゆずった
り、歩行者が右を歩いたりすることです。
私は、横断歩道で車が通っていくのを待っ
ていると、車が止まってゆずってもらえる
ことがあります。このようなことをすると、
ゆずってくれた方も、ゆずってもらった方
もいい気持ちになると思います。こういう
ことの積み重ねが大切だと思えます。でも、
私の作文だけだと、多くの方に知ってもら
えないと思います。だから、ポスターをもつ
と有効に使ってみたら、さらに改善されて
いくと思います。守れている市民の方もい
ると思いますが、守れていない方もたくさ

んいることが現状です。だから、事故や環
境改善にもつながるこの条文をもっと市民
の方に知ってほしいです。

二つ目は、「親切で愛情あふれるまちを
つくりましょう」です。私はこの条文をと
ても身近に感じます。そして、親切はどこ
までが限度なのか疑問に思います。私が思
う親切の定義は、相手も自分もうれしい気
持ちになるかです。自分は親切にしてよ
かったと、相手は、親切にしてもらいうれ
しいと思えることはだれも悲しむことはあ
りません。私は、その人に合った親切をし
たいと思います。

私は、市民憲章が全てあてはまる「市」
にしたいです。だから私は、自然や環境を
身近なところから綺麗にして、誰からも好
まれる福島市になるようにしたいです。

「福島市を住みよくするために」

福島市立飯野中学校

阿部 理人

みなさんは、今の福島市について不満を感じた事がありますか。残念ですが、今の福島市には解決できていない問題もたくさんあります。その問題をなくして、住みよく希望に満ちた市にするため昭和四十八年四月に、福島市民憲章が定められました。僕はこの内容をさらに全員が意識して福島市全体で実現していきたいです。次に紹介するのは、この福島市民憲章を実現させるための案です。

まず一つ目は、福島市民憲章の「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」を実現させるための案です。それは、「花いっぱい運動の義務化」です。福島市には、「花いっぱい運動」というものがあります。そのおかげで学校の帰りにきれいなマリーゴールドやチューリップを見ることができず。しかし、ある問題があります。それ

は、「花いっぱい運動に参加する子供が少ない」ということです。僕は、この花いっぱい運動によく参加してはいますが、同じような子供の参加者を見たことがありません。三〜四時間ほどの長い時間を使うので非常に疲れます。しかし、自分たちの地域を笑顔にするためのこの活動を理由なくやらないのもよくありませんし、これは福島市民憲章の「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」や「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまち」にも関係していると思います。ですから花いっぱい運動を義務化すれば、緑があふれ力をあわせて楽しく働ける市になると思います。

二つ目は、福島歴史検定を行うことです。これは、福島市民憲章の「教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう」に關係していると思います。まず、福島にはすばらしい歴史があるのにそれを知らない人が多すぎます。ですから福島歴史検定を行えば、福島市民全員が福島のすばらしい文化を知ることができ、自分の育った市を尊ぶことができます。

最後に僕が考えた案は、福島市全体で挨

拶運動を行うことです。これは、福島市民憲章の「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう」に關係すると思います。僕が通っている飯野中学校や僕の育った飯野小学校には、挨拶運動という物があって、校門に立っている生徒が元気よく挨拶をしてくれて、元気よく挨拶をかえせばメダルをあげたり、放送で発表します。この活動を福島市全体で行えば、福島市民全員が笑顔で明るくなると思います。

僕はこうして、三つの案を考えましたが、ただ案を考えるだけでは何のやくにも立ちません。しかし、いつかこのすばらしい福島市をもっとすばらしい市にできるよう努力したいです。

「誰もが住みよい市になるように」

福島市立飯野中学校

大波 利麻

私は自然豊かで緑の多い福島市が大好きです。ですから私は、福島市民憲章の空も水もきれいなみどりのまちをつくりましようという目標をきいて、福島市をよりよい環境にしたいと考えました。

住みよい町をつくるために、私はまず環境を変えなければいけないと思いました。緑の多い福島ですが、最近私はゴミが多くなって来ていると感じました。実際に学校帰りに道を歩いたり、デパート付近を歩いたりするとペットボトルや、空き缶、ラベルなどが落ちています。私は、この環境を見て良い気分にはなれませんでした。これらの経験をふまえ、私の出した結論は、「心は環境で変化する」です。例えばあなたがBさんに「家に遊びに来てよ」と言われたとします。遊びに行つて見るとBさんの部屋は、飲みかけのペットボトルが落ちてい

て、口の開いたポテトチップスの袋、鼻をかんだティッシュ、消しやすなどが散らばっていました。あなたはこの部屋で遊びたいと思いますか？私は遊ぶ気分にはなれませんし、少し部屋に入るのをためらってしまいます。このように周りが汚いと気持ちも良くありません。もしBさんの部屋が綺麗だったら、遊びも楽しめるでしょうし、何より気持ちがいいです。

「心は環境で変化する」の意味が分かったでしょうか。この言葉をだした理由は、福島市の観光客増減に関わると思ったからです。みなさんは、「来て」と書かれた福島県イメージポスターを知っていますか。このポスターは観光客を増やし福島に興味を持つてもらうためにつくられたものです。せっかく観光客がきてくれるなら福島の良いさを私は知ってもらいたいです。ですが今の福島ではゴミが多く、良さに目を向けてもらえないと思います。先ほど例えたBさんの話を思い出してください。遊びに来てと言ったBさんを福島市、来てと言われた側を観光客とします。福島市は観光客に来てと言いました。ですが、福島市はBさん

の部屋と同じ状態なので観光客は来たがりません。もちろんごみの多い所に行きたいとは思わないので、観光客が減少してしまうのではと思います。

そこで、ゴミを削減する方法を考えました。ポイ捨てをしないことを目標にすればゴミ拾いをする必要もなくなり負担が減ります。もしゴミが落ちていたらゴミを拾いを市民全員が行えば絶大な効果となり環境も良くなると思います。そして環境が良くなれば気持ちも良くなります。それに福島が豊かになることで、福島のイメージポスターの目的の観光客を増やすことにつながると思います。これらを行うことで、福島市をよりよくし、誰もが住みよい町にしていきたいと思えます。

「大好きな福島を緑の町に」

福島市立飯野中学校

今野 亘

みなさんは、市民憲章というものを知っていましたか。私は、この作文を書くまで知りませんでした。ですが、今回市民憲章を見て「福島市にはこんなに素晴らしい憲章があるのだからそれを実現させたい」と思いました。

その中でも、私は空も水も綺麗な緑の町にしたいと思い、そのためには、ポイ捨てをしないことが大切だと考えました。なぜかというと、ポイ捨てによる環境破壊や生態系の破壊を防げると思ったからです。そのためにも、私自身がポイ捨てをしないのはもちろんのこと、自分達からゴミを拾ったり、ゴミ拾いなどのイベントに参加したりして緑を保てるように行動していきたいと思っています。ですが、私だけがそれを意識して行動しても緑は保てません。ですから、市民全員が緑を保つことを意識した

行動をしていってほしいです。

その他にも、「油を直接水道に捨てない」や「ゴミは分別して捨てる」「森林を減らさない」などたくさんあります。その中でもあと二つ、僕の考えたことを紹介します。一つ目は、油を直接水道に捨てないことです。なぜこのように考えたかというと、今、海や川の汚染が問題になっています。その原因の一つに、油によるものがあります。それをなくすためには油をふきとってから洗うなどが大切だと思います。二つ目は森林を減らさないことです。木材は私たちの生活では必要不可欠です。ですが、森林を減らしすぎるとは生き物たちの住処がなくなってしまうたり、二酸化炭素を吸収して酸素にして放出してくれる機能が低下し、地球温暖化が進んでしまったりとデメリットの方が多くなってしまう。だから森林は減らしすぎないために紙コップでなくプラスチックのものなどのくり返し使えるものを使うことを心がけたいと思います。ここまでで、私が考えた大切だと思うことを三つ紹介しましたがそれらには共通点があります。それは、市民全員で取り組ま

ないといけないということです。一つ目の最後に言った通り、私一人だけでは市民憲章を実現はできません。ですから、この作文を通してできるだけたくさんの人に知ってもらい、市民全員で憲章の実現に向かって行きたいと思っています。それに加えて、私からもみなさんに伝えて飯野町から福島市全体にひろめていき、自分から憲章の実現に向けた取り組みを行っていきたいと思います。

「住みよい町づくりのために」

福島市立飯野中学校

関 結衣

みなさんは「福島市民憲章」というものを知っていますか。これは平和で、さらに住みよく希望に満ちたまちをつくるため定められています。

私が考えるすみよい町づくりは「環境」についてです。しかし、その陰で環境問題の芽が生えています。そこで私達が今やるべきことが大きく分けて三つあります。それらを今から、福島の現状を少しずつ添えながら話したいと思います。

一つ目は、「ゴミの分別」についてです。

福島は二〇一九年度の時点で四十七都道府県の中でゴミの量が前年度比の六グラム増え、千三十五グラムとなり、ワースト二位という結果が出てしまっています。ゴミの排出を少しでも減らすためには生ゴミの水切りを徹底すると良いと思います。生ゴミは約八十パーセントが水分で水切りを行

うことでゴミの減量化やゴミ収集車の燃費向上などの効果が見られます。少しの量の水切りをすることで沢山の効果が出てくるのは嬉しいことですよね。

二つ目は、「二酸化炭素の排出を減らす」です。最近福島だけでなく世界で問題になっている二酸化炭素の排出量。この問題は一人一人が取り組み始めてもよいと思います。例えば、自動車を利用する方は距離に応じて使い方を変えてみてはどうでしょうか。家から十分、二十分の距離を散歩気分ですら徒歩や自転車を使うなど、二酸化炭素の排出を減らせる過ごし方を見つけるのもよいと思います。

三つ目は、「油の処理」です。油は私達が口にしますが、そのまま排水口に流すと、排水管が詰まる原因になったり、川や海の水質に影響を与える恐れがでたりするからです。この問題も世界中で重視されています。でも最近では凝固剤というもので固めてすてられる、とても便利な商品が出てきました。自宅でも簡単にできる福島の環境づくりを試してみてください。

私は今まで福島市民憲章の「空も水もき

れいなみどりのまちをつくりましょう」を中心に話していました。福島は本当に緑が豊かで大好きだけどこの作文を書いている内に自然は本当に大事だなと思いました。道路や綺麗な川にゴミがすてられていると不快になるし、野生動物にも悪影響が及ぶ事だつて沢山あります。ですから、「川や海が汚くなる」の他に「動物が口にし、命を奪われる」ことも少なくないということも考えてほしいと思います。それに、身のまわりが清潔だと気持ちも良くなりますよね。

私は福島市民憲章が広がり、福島がもっと豊かになるように努力していきたいです。そのためには、自分もゴミの分別をするなど工夫していきたいです。

「住みよい町づくりのために」

福島市立飯野中学校

羽田 悠雅

僕はこの作文を書くときに、初めて福島市民憲章を知りました。僕は福島市民憲章を基にした、住みよい町づくりについて三つ提案します。

一つ目は、福島の豊かな自然をいかして、自然に関する施設を造ることが良いと考えます。なぜならば、様々な木や植物があり、森なども多くあるからです。また、生き物も多く生息しているからです。自然や環境に関心を持ってもらうことで日本の自然が増えていくきっかけの一つになれば良いと思います。また、最近は不法投棄やポイ捨てなどの環境問題もあるので、不法投棄やポイ捨てに関するポスターを作成したりゴミ拾いをしたりすることで、きれいな町をつくることができると思います。

二つ目は、震災について関心を持ってもらうことです。震災についての関心を持つ

ことで復興への意識を高めてもらえれば良いと思います。福島はまだ復興できたといえないと思います。なぜならば、放射線の風評被害があるからです。放射線はそうとうな量を浴びないと身体への害はほとんどないです。僕は放射線の正しい知識を身につけて、勝手な思い込みをやめるべきだと思います。

三つ目は、地域の方とふれあう場をつくることです。僕は、普段の生活で下校途中に声をかけてくれるおじいさんやおばあさんがいます。僕があいさつをするところ「おかえり」と声をかけてくれます。僕はとてもうれしいし、とても安心します。だから、そういう方たちと、ふれあえる場をつくれば、さまざまな文化や、伝統を知ることができると思います。また、昔の遊びやさまざまなことを教えてくださります。また、昔の生活について知ることとても大切なことだと思います。

僕は、この福島市民憲章を知ったときに、当たり前前のごが多くなり、「なぜこんなことをいうのだろう」と思いました。しかし、この市民憲章を知って、自分の今

までの生活をふり返るとその当たり前前のごとが、あまりできていませんでした。僕はこの福島市民憲章をポスターなどを作成して、福島市民が知らない人がいなくなるくらいに広めたいと思います。でも住みよい町にするためには、知るだけではできません。知ってからそれを、一人一人が実行すること、福島を住みよい町にでき、福島はだれもが注目するような町になると思います。

「福島市民憲章について」

桜の聖母学院中学校

齋藤 由衣

私は初めて福島市民憲章を知りました。福島市民憲章は、市民全ての幸せと、郷土福島の限らない発展を願いながら、市民一人ひとりが心をあわせ、快適で明るく住みよいまちづくりを進めるためのよりどころとして昭和四十八年四月に制定されました。

目標は五つあり、空も水もきれいなみどりのまち、教育と文化を尊び希望に輝くまち、親切で愛情あふれるまち、きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまち、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちです。

私が特に気になったものは、子どもからおとしよりまで安全で健康なまちです。交通ルールを守り、安全歩行、安全運転をする。子どもやおとしよりを事故から守るため、正しい交通ルールを身につける。日常

生活にスポーツやレクリエーション活動を進んで取り入れ、健康な心と体をつくるというのが主な内容です。

最近コロナの影響もあり、外に出ることやみんなが集まるような機会が減りました。なので、正しい交通ルールを学べる教室もなくなったし、スポーツやレクリエーション活動を取り入れることが難しくなりました。だからこそ今の状況を生かして、リモートワークなど使い交流することが大切だと考えました。

そして、それと同じように、親切で愛情あふれるまちづくりも関連すると思います。親切で愛情あふれるまちづくりの主な内容は、子どもやおとしよりをいたわり親切にする。だれにでも親切を自分から進んで実行する。ひとりにはいつも明るく、やさしい態度で接することですが、またコロナの影響で外に出ること、みんなが集まることができずに接することが少なくなっています。

同じように、リモートワークで交流を深めて、前の生活にもどれるようになりたいです。

「福島市民憲章について」

桜の聖母学院中学校

佐藤 寧 音

私は、夏休みで初めて福島市民憲章を知りました。福島市民憲章を知って、思ったことを書いてみようと思いました。

まず、一つ目の、「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」については、町や家庭に花や木があり、天候により、美しく植えてあり、花びらにしがすがついているのが、とても美しかったです。そして、家の周り、川などにごみを捨てないように、呼びかけている良い憲章だと思います。

次に、二つ目の、「教育と文化を尊ぶ希望に輝くまちをつくりましょう。」については文化財を理解し、どの時代にどんなことがあったかを覚えられるように、学習したいと思い、本などを読み、勉強していきます。そして、人間性と知識を身につけ、将来で生かしたいと思いました。

その次に、三つ目の、「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」については、お年寄り、子どもに親切にし、だれにでもできる親切を自分から進んで実行したいと思いました。そして、人にはいつも明るく、やさしい態度で接しようと思いました。

次に、四つ目の、「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう。」については、将来では仕事を、きちんとこなし、いきいきと働ける職場にこうと思いました。そして、隣近所と仲良く、たがいに助け合えるようにしたいと思います。そして、乗り物や、公共施設などの、皆が利用する所のルールをきちんと守り人に迷惑をかけないようにしたいと思います。

次に、五つ目の、「子どもからおとしよりにまで安全で健康なまちをつくりましょう。」については、交通ルールを守り、安全歩行をし、大人になる時は歩行者に気をつけて、安全運転を心がけたいと思いました。そして、子どもやお年寄りを事故から守るために、自分も交通ルールをきちんと

と守り、生活していきたいと思いました。そして、運動などをよく行い、食生活にも、気をつけて一年中、健康な心と体をつくれるようにしたいと思います。

「きれいな町を目指して」

桜の聖母学院中学校

根津綾乃

私は、福島市民憲章を初めて知りました。ですが、昭和四十八年から制定されていたことに驚きました。福島市民憲章を読んで、心に残ったのが三つあります。

一つ目は、空も水もきれいなみどりの町です。福島市は、桃や梨の木があったり自然もすぐきれいで、春には桜の木夏にはセミの鳴き声、秋には紅葉冬には白くてきれいな雪があります。ですが時々、公園や河川にマスクやペットボトルなどのゴミが捨てられています。私たちがゴミを捨てないようにするために、ポスターなどで呼びかけることが大切だと思います。また、私もゴミを絶対に捨てないようにしたいです。ポスターでは、「ゴミは道に捨てず、ゴミ箱に捨てましょう」などのポスターを増やしたり、ゴミ箱を増やすなど、いろいろな対策をすることが大切だと思います。

二つ目は、きまりを守り、力をあわせて楽しく働ける町です。その中でも、乗り物や公共施設などの利用ルールを守るが心に残りました。時々、交通ルールが守られていなかったり、公共施設などで騒いでいる人がいます。皆がルールを守るために、ポスターや呼びかけをすることが大切だと思います。

三つ目は、子どもからおとしよりまで安全で健康な町です。子どもからおとしよりまで安全で健康な町を作ると、交通事故が減り毎日安全に生活することができるようになります。また、交通ルールを守ることや安全に生活できたり、ルールを守る大切さが分かると思います。交通ルールを守るためには、呼びかけをしたりポスターで注意を促したりすると思います。例えば、「この先横断歩道有り」や「事故が多いよ!!」などの注意を促すようなポスターが良いと思います。

健康な町を作るためには、日常生活にスポーツやレクリエーション活動を取り入れることが大切だと思う。

私は福島市に生まれて、育ってよかった

と思います。大人になってからも福島のように
さっぱりいっばいアピールしていきたいと思
います。

「福島市への想い」

福島成蹊中学校

赤間 玄

私は福島市民憲章の精神が日常生活やまちづくりを活かされるにはどうすればよいかについて考えました。この福島市民憲章が福島市にもっと浸透していくことによつて、もっと平和で、さらに住みやすく希望にみちたまちになると考えます。

私ができると思う事は三つあります。

一つ目は自分自身がこの福島市民憲章に基づいて行動する事です。自分自身が行動することで、みんなに広まっていきまたそこから多くの人に伝える事ができると考えました。市民一人から、全市民へ広がっていくという市民一人一人から心掛けることが大切だと思いました。

二つ目は、私の小学校で朝の奉仕活動と
いい毎週火曜日に小学校のまわりや公園を
そうじするという活動をしていました。こ
の活動は福島市民憲章のみどりのまちづく

りにつながる活動だと思っています。このよう
な、ちょっととした十分くらいの活動でもそ
れがつかさななつていけば福島を変えるこ
とができると思います。だから、少しごみ
を拾ったり、ごみは全てもちかえるなどの
心掛けで福島市を変えることができると思
います。

三つ目は、自分で市の体験学習などに進
んで参加する事ができると思います。体験
学習に参加することによつて、知識と人間
性が豊かになっていくと考えました。さら
に、人と関わることによつて人との関係が
広がりコミュニケーション能力を育むこと
ができると考えます。福島市を変える前に
自分から変えていけるといいと思いまし
た。

四つ目は、みんなに優しく親切にすると
いう事ができると思います。あたりまえで
分かりきっていることですが、やはりこれ
を徹底することが大切だと考えました。相
手に優しく親切にすることによつて、相手
が気持ちよくなり、また違う人へ優しく親
切にふるまいます。これが連続していき、
福島市民全員が笑顔で明るい福島市をつ

くつていけると思いました。

ここまで私ができそうな事を挙げてきま
した。私が一番大切だと思うことは一人一
人の想いです。福島市をきれいにしたい。
すみやすくしたい。親切で愛情あふれるま
ちにしたい、その一人一人の想いで福島市
はきっとよりよく変わっていくことができ
ると思います。これからも福島市民の一人
としてがんばりたいと思います。

「私達がすべきこと」

福島成蹊中学校

菊地優伸

私は、今回初めて「福島市民憲章」があるという事を知りました。

自然、教育文化、親切愛情に健康や安全など、私達一人一人が取り組んでいける内容でした。

その中でも、私が特に強く惹かれた憲章は「空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう。」「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」です。

私は先日、学校行事で、学校から四季の里まで歩く機会がありました。

いつもは車で通るだけの道を、自らの足で歩き、いつもと違う目線で見える事は、大きな気付きを与えてくれました。

青い空と木々の緑が本当にきれいで、疲れて重い足取りの私の背中を押してくれているようでした。

しかし、目線が変わる事によって、別な

気付きもありました。

足元を見ると、道路にはゴミがあります。誰かが故意に捨てているのです。

ゴミは持ち帰る、ゴミはゴミ箱へ捨てる、私達は幼い頃から、ずっとそう教えられ学んできました。

だからこそ、私も含め全ての人に、幼い頃に、学校や家庭で教わった、ゴミは持ち帰る事、ゴミはゴミ箱へ捨てる、という事をもう一度思い出してほしいのです。

私の卒業した小学校では、「ちょボラ」という事に取り組んでいました。

「ちょボラ」とは、ちょこつとボランティアの事です。

学校の友達や仲間、先生方、そして地域の方々が、困っていたらどんな小さな事でも手伝ったり、優しい心で接しました。

現在はコロナ禍で、直接手を取って手伝うという事は難しいですが、優しい心は忘れずにいたいと思います。

私が、目線を変えた事によって気付きを得たように、もつとたくさんの方が気付き、行動すれば、「空も水もきれいなみどりのまち」になり、家族、友達や仲間、地域の

方、そして全ての人達に、お互いが優しい心を持ち、常に助け合っていけば、「親切で愛情あふれるまち」になると思います。そして、この「福島市民憲章」が、もつと多くの人に周知され、多くの人に取り組んでもらい、よりよい福島になることを願っています。

「親切で安全、健康なまち」

福島成蹊中学校

木 幡 峻太郎

私は二つのテーマについて考えていきたいと思えます。まず一つめのテーマは

「子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう。」です。二つめは

「親切で愛情あふれるまちをつくりましょう。」です。

では一つめのテーマの今の状態から考えていきたいと思えます。現在ではコロナウイルスの影響があり、毎日数百人という人数の感染者が出ています。これではとても健康とは言えませんし、福島警察署管内の人身事故は昨年より約五パーセント増加しており安全だとは言いきれません。これらのことから、私は改善策を考えました。それは、福島市民がコロナウイルス感染症予防のために外出する機会を減らすことで相対的に人身事故などが減るということで

す。例えば週に二から三回ほど行っていたスーパーへの買い出しを週に一回にすることで外出の機会を減らすなどをするということです。このようなことをたくさんの人に広め、実際にやっていたきたいと思えます。

では次に二つめのテーマについて考えていきたいと思えます。現在では町で困っている人を見かけるといことが減っていますがだからこそ見かけたときにどう対応すればいいのか分からなくなってしまう見ぬふりをしてしまう人が多いのではないのでしょうか。ですが周りの人たちがちゃんと対応することができればそれを見た自分もつと対応できる人がいてみんなができていないのではなく自分だけができていないと気付くことができるはず。なので福島市民の私たちが全体的に対応できるという雰囲気をつくるというところから始めてみてはどうでしょうか。また対応するときにも人と人が会話をするので暗い気持ちにさせないように明るく、優しく対応することも大事だと思います。これらのことを実現することができれば福島市はより良い

市になると私は思います。

最後に自分の考えをまとめたと思います。これまで書いてきたものは理想であって現実ではありません。当然人間ですから理想のような完璧な状態になれるとはかぎりませんからどこまで理想に近づけられるのか考えながら生活していけると良いと思えます。これを実現するには福島市民全員の協力が必要です。これからのことを考えて行動していきたいと思えます。

「未来につながる事」

福島成蹊中学校

高野 妃奈

私は、「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちづくり」というテーマを見てこのテーマは私達学生には、とてもぴったりのテーマだと思いこの文章を書きました。

私は、「力をあわせて楽しく働ける」というところに、注目して私は、みんなが働きやすい環境にするにはどうしたらいいのかということを考えて、例えば公共の場の学校だとすると先生と生徒がいて、先生達が仕事をしている中で生徒達が騒がしくしていれば先生達の迷惑になってしまうし、生徒の中にも集中したい生徒がいればその人にとってもとても迷惑になってしまう。逆でも同じです。でも、先生達も生徒達も相手の事を思い迷惑にならない行動をとれば「力をあわせて楽しく働ける」環境というものがつくり出せるのではないかな

と思います。これはすべての公共の場に同じことだと思います。このような事を少しずつ多くの人が取り組めていけたらすごくいい町づくりになると思います。そのようなことを取り組んでいけば子供たちの学校での成績などが上がり将来自分の好きな職業につくことが出来ると思います。そうすれば、経済的にも町の発展につながると思っています。この「きまりを守り、力をあわせて楽しく働けるまちづくり」というテーマに向かつて行動していれば自然と、「教育と文化を尊び希望に輝くまちづくり」や「親切で愛情あふれるまちづくり」などに結びつきさまざまなテーマを改善でき人と人のコミュニケーションもとれ町づくりにすぐく関わると思います。このように一つのテーマに向かつていけば結果的には、関連付けてほかのテーマもクリア出来るようになり町づくりが進むと思います。

これからはこのように、公共の場で働く人達は相手の事を思いやり互いに働きやすい場所をつくりみんなが楽しく働ける様になればいいなと思います。そして互いに楽しくしていればコミュニケーションも自然

に取れていくと思うしますますいい町になつていくと思います。そして、楽しく過ごしていれば町全体がいい雰囲気になり毎日の生活が楽しくなると思います。でも、今は新型コロナウイルスで人と人があまり近づけない状況にあるので今は無理かもしれないけど、何年後におさまるかも分からないけれどコロナがおさまったらコミュニケーションがとれればいいなと思う。そして、その未来を作るには今子供と大人が力をあわせるべきだと思う。

「大切な自然」

福島成蹊中学校

高橋 心優

この福島市には、たくさんの美しい自然があります。福島市の美しい自然が、私は大好きです。ですが、その美しい自然の中にもごみが沢山あり、せつかくの自然が霞んでしまっています。

私は、この福島市にごみを無くして人間と動物が共存できる環境を作りたいです。でもそれは私一人の努力でどうにかなることではありません。この様な環境を作るためには福島市民全員の努力と協力が必要不可欠です。そうしていかないと福島市の、いや、地球全体の環境は一向に良くはなりません。

自然についてあまり詳しく知らない人がいるかもしれませんが、自然は皆さんが思っている以上に大切です。いつも飲んでいる水、食べている野菜、美しい草木などは自然です。人間と自然はつながっている

ので、もし自然が絶滅してしまったら、人間は生きることが出来なくなってしまうます。このように自然はなくてはならない大切なものなのに、ここ最近では地球温暖化や様々な自然問題が進んでいます。だから私達がこれまで以上に自然を大切にしなければなりません。地球を変えてしまったのは私達人間です。でも、だからこそ私達が地球を元の美しい自然に戻さなければなりません。地球も自然も生きています。だからこれからは、もっと自然のことを考えて、自然に良いことをしていきたいです。そして、より美しい自然に戻していきたいです。福島市がきれいになったら、それをどんどん周りにも広めて、日本や世界を美しい自然と人々、動物と共存して生きられる世界になってほしいです。そのために、まずは私の身の回りを少しずつ変えていきたいです。これからの時代は、問題がたくさんあると思いますがその中で大切なことは、一人一人が協力し合うことだと思います。そのためにも、自然に目を向けて生活してみましよう。そうすれば自然と、自然の大切さに気づき、感謝の思いがわいて来るで

しょう。まずは、水や野菜、果物、雨、草木や木々など、自分の身の回りの自然に気づき、感謝してみませんか。